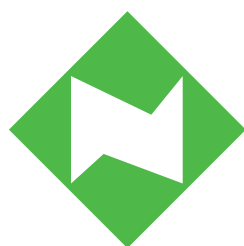


公第1卷 (通算第12卷)



公益財団法人 日本生命済生会付属

日生病院年報

平成24年4月～平成25年3月

vol. 1

平成24年度日生病院年報の発刊にあたって

院長 笠山 宗正

日生病院年報（公第1巻：平成24年4月～平成25年3月）をお届けいたします。どうぞ
ご高覧のほどお願い申し上げます。

先般、平成24年版日生病院年報をお届けいたしましたが、当院の母体である日本生命済
生会が平成24年4月1日付で公益財団法人に移行したことに伴い、今回より新たに年度毎
の記録を纏めることといたしました。

なお、私は平成25年4月より寺川直樹前院長の後任として日生病院院長を務めていると
ころですが、平成24年度の当院の動向につきまして述べさせていただきます。

日本生命済生会は、「済生利民」を基本理念とし医療と福祉を通じて社会貢献を果たす
べく大正13年に設立されました。日生病院は日本生命済生会の附属病院として昭和6年に
大阪市西区に開院し、昭和57年に現在の地に移転後も一貫して地域の皆様一人ひとりの
生活と心を重視した医療や福祉の実践活動を継続しています。

当院は、その長い歴史の中で、時代の変化と共に大きく発展してきました。最近では
「乳腺外科」「救急診療科」「低侵襲医療センター」「がん治療センター」「生活習慣病
センター」「消化器内視鏡センター」を新設し、現在は19診療科と4診療センターを中心
に、職員一同が常に質の高い医療を提供できるよう努めています。

平成24年4月には、これまでの「地域医療連携室」の機能を強化し地域住民や医療機
関・企業からの要請に対応すべく「地域医療総合窓口 あったかサポートセンター」を設立
しました。また、増加する糖尿病患者の診療の質の向上のため「生活習慣病センター」を
「糖尿病センター」に改組しています。高度先進医療に対しても積極的に取り組み、昨年
度の「腹腔鏡下子宮体がん根治術」（産婦人科）に続いて「前眼部三次元画像解析」（眼科）
の実施機関として厚生労働省に認定されました。さらに、平成24年5月からは休日のリハ
ビリテーションを開始するとともに、平成24年8月には最先端の320列マルチスライスCT
を導入し、診療レベルの向上を図っています。

平成25年に90年目を迎えた日本生命済生会の基本理念である「済生利民」の実践のため
に、皆様に愛され信頼される病院であるよう職員一同努力してまいります。これからも当院
に対しまして一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

平成24年度日生病院年報の発刊にあたって

院長 笠山 宗正

第1章 軌 跡

日生病院の概要	1
日生病院の理念と基本方針	2
患者様の権利について・学会認定	2
日本生命済生会組織図	3

第2章 病院統計

1. 一日平均外来患者数	4
2. 一日平均入院患者数	5
3. 救急患者数	6
4. 病床稼働率	7
5. 産科関係件数	8
6. 手術件数	8
7. 薬剤関係件数	9
8. リハビリテーション関係件数	10
9. レントゲン・MRI・CT関係件数	10
10. 中央臨床検査部検査件数	11
11. 生理検査関係件数	12
A. 脳波関係	12
B. 超音波検査室	12
C. 生理検査室	12
D. 内視鏡関係	12
E. 眼科(屈折、眼圧)検査関係	13
F. 眼科(網膜、神経)検査関係	13
G. 耳鼻咽喉科(平衡、聴力)検査関係	13
12. 医療福祉相談グループ関係件数	14
A. 取扱件数	14
B. 新規ケース紹介経路別件数	14
13. 診療科別医療収入	16
14. 医療行為別医療収入	18
15. 病院従業員数	20
16. 退院患者統計	21
1) 退院患者医療評価指標	21
2) 診療科別・月別・退院患者数	23
3) 診療科別・月別・死亡剖検数	24
4) 疾病統計	25
5) 手術統計	26
6) 紹介入院患者 疾患トップ20	28

目 次

第3章 診療業務

◆循環器内科・神経内科	32
◆消化器内科	33
◆総合内科	34
◆血液・化学療法内科	35
◆神経科・精神科	36
◆小児科	37
◆消化器・一般外科	38
◆乳腺外科	39
◆整形外科	40
◆皮膚科	41
◆泌尿器科	42
◆産婦人科	43
◆眼 科	44
◆耳鼻咽喉科	45
◆放射線科	46
◆麻酔・緩和医療科	47
◆病理診断科	48
◆救急診療科	49
◆がん治療センター	50
◆低侵襲医療センター	51
◆糖尿病センター	52
◆消化器内視鏡センター	53
◆ニッセイ予防医学センター	54

第4章 部別概要

◆中央臨床検査部	56
◆看護部	57
◆薬剤部	58
◆治験管理室	59
◆リハビリテーション室	60
◆栄養管理室	61
◆あったかサポートセンター	62
◆業績	64

第5章 諸 活 動

◆診療科別教育	79
◆全体教育	80
◆地域活動	91
◆ボランティア活動	91
◆院内行事	92

～日生病院の概要～

公益財団法人日本生命済生会は大正13年7月、日本生命によって「済生利民」を基本理念として創設された。日生病院は、日本生命済生会の付属病院として、昭和6年6月に開院された。当院は大阪市西部の地域基幹病院・臨床研修指定病院として、急性期医療の充実と患者様サービスの向上ならびに医療人の育成に努めており、平成25年4月1日現在では19診療科・4センター、入院病床数350床を擁している。当院は、平成13年度に日本医療機能評価機構より病院機能評価の認定を取得、平成23年度には審査体制区分3（Ver6.0）での訪問審査を受審し、更新認定を受けた。

地域の皆様一人ひとりの生活と心を重視した医療や福祉の実践活動を継続してきたこと、ならびに病気の予防と治療、在宅医療まで一貫した医療サービスを地域の皆様に提供してきたことが評価され、日本生命済生会は平成24年4月1日に「公益財団法人」として認定された。

当院は、診療機能の強化と地域医療への貢献に向け取り組んできた。平成19年度に低侵襲医療センター・がん治療センターを、平成20年度に生活習慣病センター（平成24年度に糖尿病センターに改組）を、平成23年度には消化器内視鏡センターを、それぞれ開設した。また、平成20年度には乳腺外科の新設を行い、大阪市乳がん検診（マンモグラフィ）取扱い機関に認定された。平成21年度には大阪府がん診療拠点病院に指定された。平成24年度には、最先端の320列マルチスライスCTを導入し、診断精度の向上に努めるとともに、地域医療総合窓口「あったかサポートセンター」を新設し、地域医療機関との連携強化を図っている。

また、予防医学の重要性に鑑み、「ニッセイ予防医学センター（人間ドック、定期健康診断）」の強化充実に取り組んでいる。平成17年度に日本人間ドック学会の優良施設「人間ドック・健診施設機能評価」の認定を取得、平成22年度には機能評価Ver.2での更新認定を受けた。

（平成24年度 沿革）

- 4月1日 公益財団法人へ移行
- 4月1日 地域医療総合窓口 あったかサポートセンター開設
- 4月1日 生活習慣病センターから糖尿病センターへ組織名称変更
- 4月1日 厚生労働省より先進医療「前眼部三次元画像解析」（眼科）が承認される
- 5月3日 休日リハビリテーション開始
- 5月17日 コンビニ・カフェ オープン
- 8月1日 320列マルチスライスCT導入
- 9月10日 放射線画像管理システム（PACS）更新
- 9月18日 化学療法レジメンオーダーシステム稼働

～日生病院の理念と基本方針～

理念

日生病院は（公財）日本生命済生会の基本理念である「済生利民」の精神にもとづき、地域に対し、予防・治療・在宅まで一貫した総合的な医療サービスを提供します。

基本方針

1. 患者様の立場に立った最良の医療サービスを提供します。
2. 常に安全な医療とまごころの看護を実践します。
3. 人権の尊重、プライバシーの保護、並びに法令等の遵守に努めます。
4. 日々研鑽に努め、より信頼される医療人を目指します。
5. 社会に学び、地域医療と地域社会の健全な発展に貢献します。
6. 上記5項目を継続して実現するため、健全な経営を行います。

～患者様の権利について～

医療は患者様と医療関係者とが相互の信頼関係に基づき、協力し合ってつくり上げていくものです。日生病院では、患者様中心の医療サービスの実践を常に心がけ、以下の患者様の権利を大切にいたします。

1. 患者様は、良質な医療を平等に受けることができます。
2. 患者様は、自分が受ける治療や検査に関して、効果や危険性、他の治療方法の有無などにつき、わかりやすく説明を受けることができます。
3. 患者様は、十分な説明と情報提供を受けたうえで、治療方針など自らの意思で選択することができます。また希望しない医療を拒むことや自分で医療機関を選択し、転院することもできます。
4. 患者様は、自分が受けている医療について知ることができます。
5. 患者様は、個人として常にその人格を尊重され、また個人情報も自分の承諾なくして第三者に開示されることはありません。

なお、患者様におかれましても、病院の規則を守り、職員や他の人々に迷惑をかけない責務や自分自身の健康に関する情報を正確に提供する責務がありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

●●学会認定状況

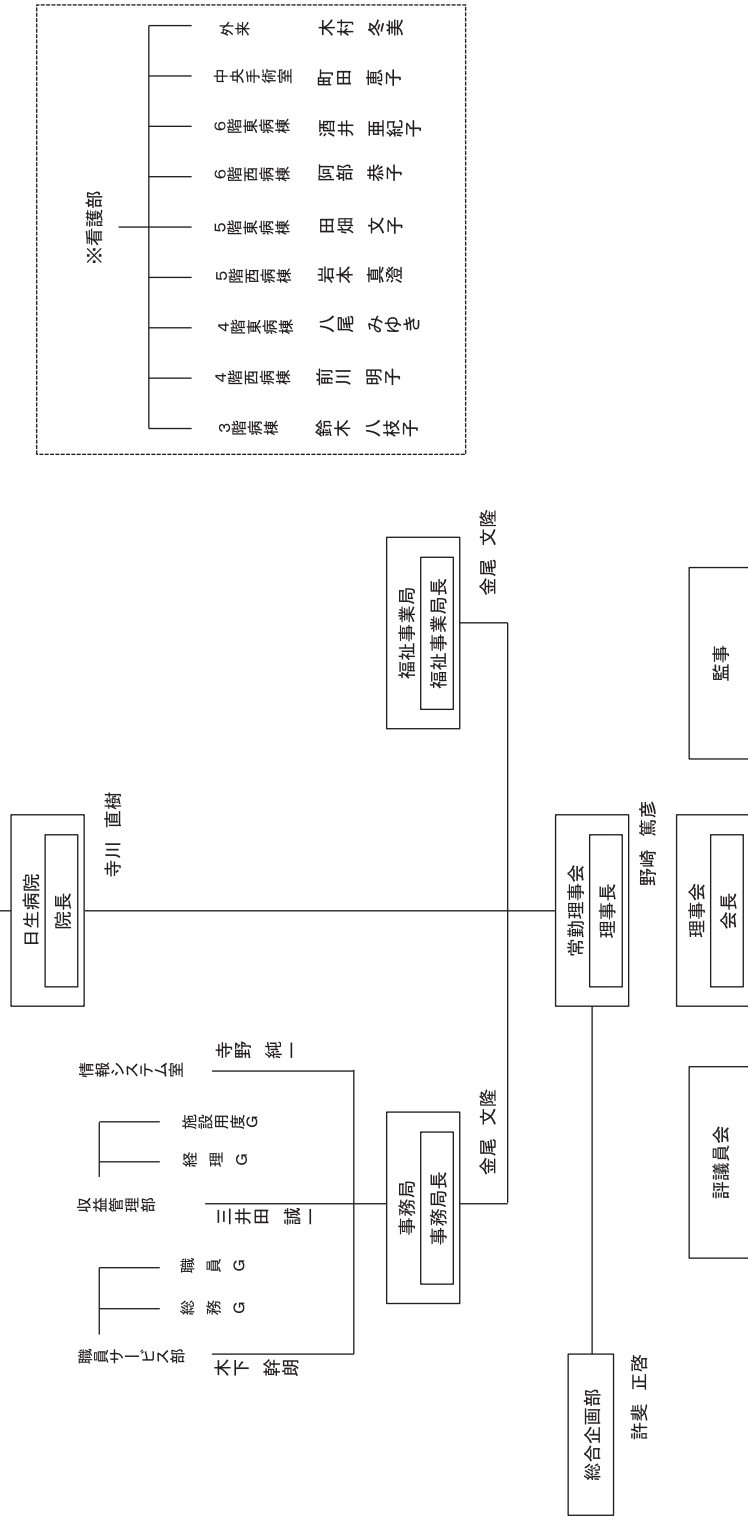
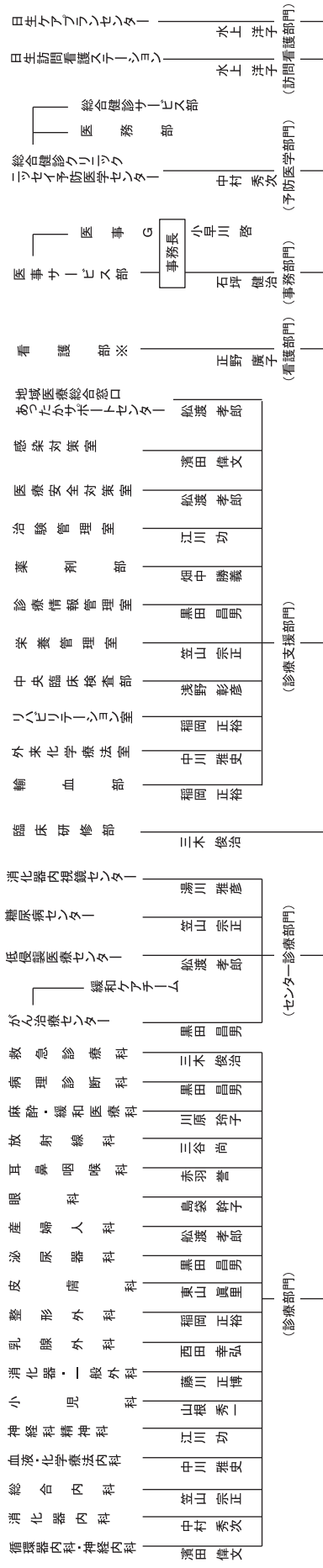
- | | | |
|--------------------|---------------------|---------------|
| ●日本内科学会 | ●日本外科学会 | ●日本医学放射線学会 |
| ●日本整形外科学会 | ●日本泌尿器科学会 | ●日本ペインクリニック学会 |
| ●日本血液学会 | ●日本耳鼻咽喉科学会 | ●日本リウマチ学会 |
| ●日本超音波医学会 | ●日本アレルギー学会 | ●日本臨床細胞学会 |
| ●日本循環器学会 | ●日本産科婦人科学会 | ●日本緩和医療学会 |
| ●日本皮膚科学会 | ●日本麻酔科学会 | ●日本内分泌学会 |
| ●日本眼科学会 | ●日本小児科学会 | ●日本乳癌学会 |
| ●日本病理学会 | ●日本臨床腫瘍学会 | ●日本消化器病学会 |
| ●日本消化器外科学会 | ●日本糖尿病学会 | ●日本神経学会 |
| ●日本 IVR 学会 | ●日本心血管インターベンション治療学会 | ●日本肝臓学会 |
| ●日本高血圧学会 | ●日本静脈経腸栄養学会 | ●日本消化器内視鏡学会 |
| ●日本がん治療認定医機構認定研修施設 | | |

（平成 25 年 3 月 31 日現在）

公益財団法人 日本生命済生会 組織図

(平成25年3月31日現在)

患者様、ご利用者様、ご家族の皆様、地域の皆様、連携医療機関



第2章 病院統計

1 一日平均外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科・ 神経内科	89人 (106)	86人 (107)	83人 (83)	88人 (90)	81人 (81)	88人 (87)	84人 (93)	86人 (93)	92人 (90)	94人 (96)	83人 (84)	84人 (90)	86人 (91)
消化器内科	58 (55)	60 (55)	56 (49)	61 (58)	56 (52)	60 (59)	56 (55)	59 (57)	60 (57)	61 (57)	59 (59)	56 (61)	58 (56)
総合内科	111 (112)	112 (108)	109 (101)	113 (108)	106 (97)	118 (108)	113 (109)	118 (111)	128 (116)	128 (115)	119 (104)	117 (106)	116 (108)
血液・ 化学療法 内科	27 (27)	28 (29)	25 (27)	26 (28)	23 (26)	26 (28)	24 (26)	26 (29)	26 (27)	30 (32)	25 (25)	26 (28)	26 (28)
内 科(計)	285 (300)	286 (299)	273 (260)	288 (284)	266 (256)	292 (282)	277 (283)	289 (290)	306 (290)	313 (300)	286 (272)	283 (285)	286 (283)
神経科・精神科	65 (67)	64 (70)	61 (61)	63 (66)	62 (62)	65 (70)	60 (67)	68 (67)	70 (63)	68 (63)	60 (57)	65 (62)	64 (65)
小児科	43 (44)	41 (49)	39 (49)	42 (41)	37 (43)	40 (39)	44 (47)	48 (50)	45 (47)	39 (44)	38 (43)	40 (46)	41 (45)
消化器・一般外科	23 (25)	23 (26)	21 (25)	21 (23)	19 (21)	22 (23)	21 (26)	18 (24)	22 (25)	22 (23)	20 (21)	20 (22)	21 (24)
乳腺外科	19 (16)	17 (15)	17 (16)	19 (18)	17 (16)	19 (18)	20 (18)	20 (20)	19 (20)	19 (19)	19 (16)	18 (20)	19 (18)
外 科(計)	42 (41)	40 (41)	38 (41)	40 (41)	36 (37)	41 (41)	41 (44)	38 (44)	41 (45)	41 (42)	39 (37)	38 (42)	40 (42)
整形外科	68 (76)	69 (85)	68 (72)	77 (71)	66 (74)	74 (75)	73 (75)	68 (72)	73 (74)	69 (70)	63 (64)	66 (66)	70 (73)
皮膚科	107 (118)	113 (116)	109 (113)	117 (117)	109 (110)	110 (112)	110 (118)	112 (114)	116 (114)	119 (114)	109 (104)	120 (107)	112 (113)
泌尿器科	53 (50)	50 (55)	48 (45)	49 (53)	45 (47)	53 (55)	50 (52)	50 (50)	55 (54)	57 (54)	55 (50)	52 (53)	51 (51)
産婦人科	67 (70)	71 (77)	65 (67)	75 (72)	63 (65)	76 (66)	73 (76)	70 (75)	75 (70)	75 (69)	72 (65)	71 (64)	71 (69)
眼 科	57 (64)	61 (65)	59 (66)	59 (61)	52 (51)	64 (55)	55 (55)	58 (59)	60 (59)	59 (54)	60 (58)	62 (63)	59 (59)
耳鼻咽喉科	64 (64)	65 (64)	58 (60)	63 (63)	56 (56)	58 (58)	58 (61)	62 (59)	64 (62)	63 (64)	62 (61)	66 (69)	62 (62)
放射線科	18 (12)	13 (12)	16 (15)	15 (14)	11 (12)	14 (15)	18 (18)	16 (16)	20 (17)	18 (18)	18 (16)	14 (17)	16 (15)
麻酔・緩和医療科	25 (25)	26 (23)	23 (22)	25 (26)	22 (23)	24 (25)	23 (24)	24 (25)	23 (26)	23 (26)	23 (25)	22 (26)	24 (25)
救急診療科	7 (5)	7 (8)	7 (9)	8 (10)	6 (14)	9 (11)	8 (11)	11 (12)	10 (10)	18 (8)	11 (7)	10 (8)	9 (9)
合 計	901 (936)	907 (963)	865 (879)	921 (919)	829 (850)	921 (904)	889 (933)	915 (930)	959 (930)	959 (924)	897 (861)	910 (910)	904 (910)

(注) 1. 数値は少数第1位四捨五入

[医 事 G]

2. ()内は前年同月

2 一日平均入院患者数

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		累計平均	
循環器内科・ 神経内科	46人 (59)	9人	43人 (55)	8人	45人 (54)	8人	42人 (61)	8人	45人 (53)	9人	48人 (48)	4人	48人 (44)	3人	41人 (45)	3人	49人 (54)	7人	41人 (54)	4人	49人 (60)	5人	42人 (49)	5人	45人 (53)	6人
消化器内科	22 (19)	4	21 (16)	6	22 (16)	6	27 (18)	5	25 (21)	5	25 (18)	1	24 (16)	1	26 (15)	2	28 (16)	3	26 (17)	2	28 (20)		24 (22)		25 (18)	3
総合内科	32 (30)	17	31 (29)	21	29 (31)	27	32 (28)	32	40 (33)	28	38 (31)	21	33 (33)	18	36 (32)	23	34 (26)	20	33 (31)	15	32 (37)	18	35 (32)	23	34 (31)	22
血液・ 化学療法 内科	23 (24)	2	20 (27)	2	17 (24)		20 (31)		24 (26)	1	25 (24)	1	23 (29)	2	25 (27)	1	24 (28)	2	27 (23)	1	24 (28)		18 (25)		22 (26)	1
内 科(計)	123 (132)	32	115 (127)	37	113 (125)	41	121 (138)	45	134 (133)	43	136 (121)	27	128 (122)	24	128 (119)	29	135 (124)	32	127 (125)	22	133 (145)	23	119 (128)	28	126 (128)	32
神経科・精神科	17 (16)	4	12 (16)	2	15 (21)	3	13 (22)	2	12 (17)	2	16 (14)		16 (16)		10 (14)		11 (10)	1	13 (9)		16 (9)		15 (9)	1	14 (14)	1
小児科	5 (6)		3 (6)		5 (8)		5 (6)		5 (7)		5 (8)		6 (5)		5 (5)		4 (4)		4 (6)		6 (5)		4 (6)		5 (6)	0
消化器・一般外科	19 (24)		25 (18)		28 (17)		22 (18)		22 (20)		21 (17)		21 (19)		21 (15)		19 (21)		18 (24)		14 (23)		17 (19)		21 (20)	0
乳腺外科	4 (2)		4 (3)		4 (1)		3 (3)		5 (3)		6 (3)		5 (5)		6 (4)		6 (4)		3 (5)		2 (4)		4 (3)		4 (3)	0
外 科(計)	23 (26)	9	29 (21)	8	32 (18)	7	25 (21)	2	27 (23)	2	27 (20)	6	26 (24)	3	27 (19)	4	25 (25)	5	21 (29)	6	16 (27)	5	21 (22)	5	25 (23)	5
整形外科	22 (24)	3	24 (27)	1	25 (25)	2	31 (28)	3	30 (24)		26 (28)	3	29 (24)	2	31 (27)	2	28 (28)	1	24 (21)	1	32 (30)	1	27 (26)	4	28 (26)	2
皮膚科	14 (10)	2	15 (8)	3	9 (9)	5	12 (9)	4	10 (10)	4	10 (11)	3	6 (11)	4	7 (11)	2	8 (9)	2	6 (8)	1	9 (6)	3	12 (8)	2	10 (9)	3
泌尿器科	13 (16)		12 (12)		14 (10)	1	10 (16)	1	10 (14)	1	12 (11)		10 (10)		12 (10)	3	15 (10)	4	14 (12)	3	16 (12)	2	13 (13)	3	13 (12)	2
産婦人科	34 (37)	1	30 (28)	2	28 (41)	2	37 (39)	1	33 (35)		33 (37)	2	35 (35)	1	34 (29)	1	33 (33)	1	33 (28)	1	33 (34)	1	38 (33)	1	33 (34)	1
眼 科	5 (7)		6 (6)		8 (8)		6 (5)		3 (4)		5 (4)		5 (7)		6 (8)		6 (7)		4 (5)		7 (6)		6 (8)		6 (6)	0
耳鼻咽喉科	15 (12)	1	14 (8)		15 (13)	1	17 (15)		18 (17)		13 (14)		12 (10)		13 (8)	1	12 (8)		9 (10)		13 (15)		10 (16)		13 (12)	0
放射線科	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)	0
麻酔・緩和医療科	0 (0)		0 (0)		0 (0)		1 (0)		2 (0)		0 (0)		0 (0)		1 (0)		0 (1)		1 (0)		0 (0)		1 (0)		1 (0)	0
救急診療科	0 (1)		0 (0)		0 (1)		0 (0)		0 (2)		0 (0)		0 (1)		1 (1)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (1)	0
合 計	271 (287)	52	260 (258)	53	265 (280)	62	278 (299)	58	284 (286)	52	282 (267)	41	274 (265)	34	275 (250)	42	276 (260)	46	257 (252)	34	280 (289)	35	268 (269)	44	273 (272)	46

(注) 1. 明朝体数字は、共観数

2. ()内は前年同月

[医 事 G]

3 救急患者数

各欄下段の()の数値は救急車で搬入された患者数

	人 数													内、入 院 数													累 計	
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計	<入院>		
循環器内科・ 神経内科	86人 (20)	111人 (22)	134人 (17)	110人 (20)	132人 (17)	85人 (21)	113人 (21)	94人 (21)	103人 (37)	115人 (35)	103人 (24)	65人 (25)	41人 (15)	45人 (11)	40人 (11)	38人 (16)	44人 (11)	41人 (12)	43人 (11)	49人 (11)	47人 (21)	40人 (18)	45人 (14)	26人 (11)	1,251人 (280)	<499> (162)		
消化器内科	33 (8)	40 (7)	33 (6)	46 (13)	46 (12)	36 (10)	36 (11)	39 (8)	48 (9)	62 (9)	47 (9)	29 (11)	9 (3)	18 (3)	10 (2)	19 (6)	26 (9)	18 (4)	13 (3)	20 (6)	22 (5)	16 (4)	14 (5)	16 (6)	495 (113)	<201> (56)		
総合内科	134 (17)	144 (14)	100 (16)	104 (14)	122 (38)	85 (24)	84 (19)	107 (19)	108 (41)	120 (35)	141 (51)	94 (32)	24 (7)	41 (5)	32 (7)	43 (7)	55 (23)	36 (15)	43 (7)	40 (11)	29 (15)	34 (15)	52 (28)	32 (16)	1,343 (320)	<461> (156)		
血液・ 化学療法 内科	29 (1)	37 (3)	28 (1)	128 (0)	37 (5)	20 (2)	34 (5)	30 (7)	49 (7)	45 (9)	17 (4)	20 (4)	6 (0)	12 (2)	7 (0)	1 (0)	12 (1)	5 (2)	10 (4)	12 (4)	15 (5)	11 (5)	3 (3)	7 (3)	474 (48)	<101> (29)		
内科(計)	282 (46)	332 (46)	295 (40)	388 (47)	337 (72)	226 (57)	267 (56)	270 (55)	308 (94)	342 (88)	308 (88)	208 (72)	80 (25)	116 (21)	89 (20)	101 (29)	137 (44)	100 (33)	109 (25)	121 (32)	113 (46)	101 (42)	114 (50)	81 (36)	3,563 (761)	<1,262> (403)		
神経科・精神科	6 (2)	2 (1)	3 (0)	3 (0)	17 (2)	4 (0)	4 (0)	13 (2)	6 (0)	5 (1)	4 (1)	2 (1)	4 (2)	2 (1)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	3 (1)	0 (0)	69 (10)	<19> (4)		
小児科	26 (0)	24 (0)	20 (0)	31 (1)	28 (1)	24 (1)	25 (0)	24 (2)	24 (1)	26 (3)	22 (1)	28 (2)	19 (0)	14 (0)	13 (0)	17 (1)	18 (1)	15 (0)	18 (0)	15 (1)	13 (0)	14 (0)	19 (1)	17 (1)	302 (12)	<192> (5)		
消化器・一般外科	21 (2)	32 (0)	26 (3)	24 (2)	21 (6)	25 (5)	22 (5)	29 (7)	28 (2)	24 (2)	16 (0)	29 (5)	10 (2)	18 (0)	14 (1)	12 (2)	16 (5)	11 (3)	11 (5)	16 (4)	17 (2)	16 (1)	9 (0)	16 (3)	297 (39)	<166> (28)		
乳腺外科	4 (1)	3 (0)	0 (0)	3 (0)	4 (0)	2 (0)	2 (0)	5 (0)	3 (0)	1 (1)	1 (0)	8 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	36 (3)	<10> (2)		
外科(計)	25 (3)	35 (0)	26 (3)	27 (2)	25 (6)	27 (5)	24 (5)	34 (7)	31 (2)	25 (3)	17 (0)	37 (6)	11 (3)	18 (0)	14 (1)	12 (2)	19 (5)	11 (3)	12 (5)	19 (4)	18 (2)	16 (1)	9 (0)	17 (4)	333 (42)	<176> (30)		
整形外科	24 (7)	17 (4)	19 (7)	25 (6)	29 (4)	21 (9)	18 (2)	27 (5)	18 (6)	15 (5)	20 (6)	23 (10)	6 (2)	8 (3)	9 (5)	10 (5)	11 (3)	6 (2)	6 (1)	13 (2)	6 (2)	11 (4)	7 (3)	9 (6)	256 (71)	<102> (38)		
皮膚科	68 (0)	104 (0)	64 (0)	98 (1)	102 (1)	82 (0)	50 (2)	85 (0)	76 (0)	98 (2)	130 (0)	115 (1)	9 (0)	8 (0)	4 (0)	12 (1)	8 (1)	11 (0)	10 (2)	5 (0)	8 (0)	8 (1)	13 (0)	17 (1)	1,072 (7)	<113> (6)		
泌尿器科	13 (3)	11 (0)	18 (2)	11 (0)	11 (0)	8 (3)	7 (2)	17 (4)	14 (3)	10 (0)	6 (2)	11 (3)	9 (2)	5 (0)	9 (0)	5 (0)	7 (0)	5 (2)	1 (0)	12 (3)	5 (1)	2 (0)	3 (2)	3 (2)	137 (22)	<66> (12)		
産婦人科	145 (3)	189 (6)	158 (2)	217 (6)	187 (6)	171 (3)	164 (1)	168 (2)	202 (1)	200 (2)	174 (5)	209 (2)	15 (2)	31 (6)	21 (1)	54 (5)	43 (3)	35 (1)	37 (0)	45 (0)	42 (0)	50 (1)	35 (2)	59 (1)	2,184 (39)	<467> (22)		
眼 科	3 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (1)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	1 (0)	3 (1)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	2 (1)	18 (3)	<13> (2)		
耳鼻咽喉科	14 (2)	17 (1)	21 (2)	30 (5)	36 (7)	17 (2)	25 (2)	14 (3)	27 (2)	17 (3)	10 (1)	11 (1)	11 (2)	10 (1)	5 (1)	12 (2)	19 (4)	8 (2)	10 (1)	8 (2)	8 (0)	9 (2)	5 (1)	6 (1)	239 (31)	<111> (19)		
放射線科	0 (0)	4 (0)	0 (0)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	18 (0)	<0> (0)		
麻酔科	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	4 (0)	1 (0)	2 (1)	0 (0)	3 (0)	3 (1)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	4 (0)	1 (0)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	2 (1)	0 (0)	2 (0)	20 (2)	<17> (2)		
救急診療科	8 (1)	13 (1)	58 (1)	45 (5)	16 (4)	20 (6)	112 (2)	178 (1)	10 (1)	6 (1)	10 (3)	23 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (2)	0 (0)	3 (1)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	499 (29)	<23> (3)		
合 計	615 (67)	751 (59)	683 (57)	884 (73)	794 (104)	603 (86)	698 (73)	830 (81)	731 (111)	747 (109)	702 (107)	672 (102)	168 (38)	214 (32)	167 (28)	239 (47)	269 (61)	198 (44)	208 (35)	241 (44)	217 (52)	217 (52)	209 (60)	214 (53)	8,710 (1,029)	<2,561> (546)		

[医事G、総務G]

4 病床稼働率

	定床	定床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均	前年度累計平均
3階	60床	1日平均患者数 稼働率	42人 70.0%	45人 75.0%	47人 78.3%	44人 73.3%	44人 73.3%	45人 75.0%	44人 73.3%	44人 73.3%	44人 73.3%	41人 68.3%	43人 71.7%	46人 76.7%	44人 73.3%	44人 73.3%
4階(西)	60	1日平均患者数 稼働率	45 75.0	46 76.7	45 75.0	49 81.7	47 78.3	48 80.0	46 76.7	48 80.0	45 75.0	41 68.3	50 83.3	47 78.3	46 76.7	45 75.0
4階(東)	51	1日平均患者数 稼働率	43 84.3	38 74.5	39 76.5	42 82.4	44 86.3	44 86.3	38 74.5	42 82.4	44 86.3	38 74.5	42 82.4	35 68.6	41 80.4	41 80.4
5階(西)	44	1日平均患者数 稼働率	38 86.4	37 84.1	35 79.5	38 86.4	41 93.2	42 95.5	40 90.9	40 90.9	40 90.9	38 86.4	39 88.6	37 84.1	39 88.6	38 86.4
5階(東)	49	1日平均患者数 稼働率	40 81.6	36 73.5	39 79.6	40 81.6	42 85.7	41 83.7	42 85.7	38 77.6	41 83.7	36 73.5	42 85.7	37 75.5	40 81.6	41 83.7
6階(西)	42	1日平均患者数 稼働率	38 90.5	36 85.7	36 85.7	38 90.5	39 92.9	38 90.5	37 88.1	37 88.1	37 88.1	37 88.1	39 92.9	37 88.1	37 88.1	37 88.1
6階(東)	27	1日平均患者数 稼働率	21 77.8	19 66.7	19 70.4	24 88.9	21 77.8	21 77.8	22 81.5	21 77.8	22 81.5	22 81.5	20 74.1	24 88.9	21 77.8	21 77.8
小計	333	1日平均患者数 稼働率	267 80.2	257 77.2	260 78.1	273 82.0	279 83.8	278 83.5	269 80.8	270 81.1	272 81.7	254 76.3	275 82.6	264 79.3	268 80.5	266 79.9
小児	10	1日平均患者数 稼働率	4 60.0	2 60.0	4 60.0	4 60.0	4 60.0	3 60.0	4 60.0	4 60.0	4 60.0	2 60.0	3 60.0	3 60.0	3 30.0	4 40.0
未熟児	7	1日平均患者数 稼働率	1 14.3	1 14.3	2 28.6	1 14.3	1 14.3	2 28.6	2 28.6	1 14.3	0 0.0	1 14.3	2 28.6	1 14.3	1 14.3	2 28.6
計	350	1日平均患者数 稼働率	271 77.4	260 74.3	265 75.7	278 79.4	284 81.1	282 80.6	274 78.3	275 78.6	276 78.9	257 73.4	280 80.0	268 76.6	273 78.0	272 77.7

[医事G]

5 産科関係件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
分娩 (帝王切開含む)	35件	29件	31件	43件	35件	39件	49件	44件	43件	48件	34件	52件	482件	428件
帝王切開	6	5	1	6	10	9	11	7	7	2	2	5	71	72
両親学級(組)	22	20	34	26	28	31	31	28	36	36	36	25	353	281
マタニティビクス	40	56	53	61	40	40	50	44	42	50	56	58	590	460
アフタービクス	20	19	20	13	15	33	45	35	41	38	31	24	334	385
ベビービクス	39	32	34	19	25	38	45	38	50	50	48	67	485	871
マタニティヨガ	41	56	56	68	39	58	65	52	41	51	61	65	653	414

[産婦人科]

6 手術件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
消化器・ 一般外科	16件 (16)	21件 (19)	24件 (18)	21件 (20)	22件 (21)	15件 (12)	23件 (16)	24件 (21)	17件 (14)	17件 (16)	16件 (14)	18件 (16)	234件 (203)	272件 (218)
乳腺外科	6 (4)	6 (4)	5 (4)	4 (4)	6 (4)	5 (3)	7 (4)	3 (3)	4 (4)	4 (3)	6 (2)	5 (3)	61 (42)	80 (51)
整形外科	11 (7)	17 (8)	14 (8)	21 (11)	22 (11)	19 (10)	22 (16)	21 (12)	19 (13)	16 (4)	15 (10)	20 (9)	217 (119)	205 (111)
婦人科	73 (47)	74 (51)	62 (49)	66 (51)	82 (56)	63 (45)	75 (51)	83 (57)	57 (40)	65 (46)	63 (50)	73 (52)	836 (595)	877 (623)
泌尿器科	28 (5)	30 (12)	28 (7)	20 (6)	15 (4)	32 (12)	28 (11)	28 (7)	20 (6)	31 (9)	28 (7)	27 (9)	315 (95)	311 (89)
耳鼻科	25 (18)	24 (19)	20 (14)	27 (19)	26 (19)	15 (10)	25 (14)	25 (16)	23 (17)	20 (12)	23 (14)	21 (14)	274 (186)	248 (167)
眼科	49 (1)	57 (2)	69 (0)	58 (0)	39 (1)	51 (0)	53 (0)	70 (0)	52 (0)	47 (0)	65 (1)	69 (0)	679 (5)	715 (0)
皮膚科	14 (1)	16 (0)	15 (0)	10 (1)	17 (1)	9 (0)	14 (0)	15 (0)	8 (0)	10 (0)	13 (1)	14 (0)	155 (4)	187 (8)
麻酔・ 緩和医療科	8 (0)	8 (0)	3 (0)	4 (0)	8 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	39 (0)	38 (0)
合計	230 (99)	253 (115)	240 (100)	231 (112)	237 (117)	209 (92)	248 (112)	272 (116)	200 (94)	210 (90)	229 (99)	251 (103)	2,810 (1,249)	2,933 (1,267)

[中央手術材料部、麻酔科・緩和医療科]

1. 中央手術室以外での手術、麻酔は含まれない。

2. ()内は全身麻酔。

7 薬剤関係件数

摘 要				4月	5月	6月	7 月	8 月	9月	10 月	11 月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
処方箋	外来	枚数	枚数	1,661	1,951	1,661	2,065	1,935	1,706	1,815	1,813	1,631	1,701	1,675	1,706	21,320	21,507
			件数	1,784	2,075	1,777	2,185	2,023	1,811	1,947	1,954	1,779	1,846	1,806	1,847	22,834	23,069
		1日	枚数	69	108	76	98	88	85	91	91	82	85	84	85	1,042	1,050
			当り	件数	74	115	81	104	92	91	97	98	89	92	90	92	1,116
	入院	総数	枚数	4,402	4,367	4,386	4,505	4,704	4,136	4,597	5,114	4,638	4,540	4,561	4,877	54,827	55,731
			件数	8,074	8,011	7,848	8,015	8,684	7,558	8,503	9,048	8,436	8,187	8,347	8,970	99,681	99,497
		1日	枚数	147	141	146	145	152	138	153	170	150	146	163	157	1,809	1,839
			当り	件数	269	258	262	259	280	252	283	302	272	264	298	289	3,288
注射	入院	総数	枚数	6,236	6,533	5,942	6,651	6,388	6,441	6,374	6,390	6,267	5,989	5,488	6,009	74,708	75,297
		1日 当り	枚数	208	211	198	215	206	215	212	213	202	193	177	194	2,444	2,484

摘 要		4月	5月	6月	7 月	8 月	9月	10 月	11 月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
薬剤管理 指導業務算定	件数	584	646	643	614	692	541	605	621	574	548	612	630	7,310	7,295
抗癌剤混合調剤 (外来化学療法)	件数	192	201	176	205	154	152	181	179	154	166	166	149	2,075	2,243
(入院化学療法)	件数	93	68	69	69	58	73	77	82	79	110	135	109	1,022	1,148
TPN調製件数	件数	35	53	42	34	21	84	60	12	34	20	26	103	524	1,219

摘 要				4月	5月	6月	7 月	8 月	9月	10 月	11 月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
麻薬処方箋	外来	内用	枚数	0	0	0	0	1	0	1	3	1	0	0	1	7	14
		外用	枚数	4	3	4	4	8	4	5	4	3	4	3	5	51	49
		注射	枚数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
	入院	内用	枚数	91	108	98	91	100	101	98	95	109	100	112	135	1,238	989
		外用	枚数	60	38	47	45	36	16	17	26	21	66	58	23	453	539
		注射	枚数	166	192	168	164	196	126	159	159	133	182	177	163	1,985	2,028

製剤室

摘 要		4月	5月	6月	7 月	8 月	9月	10 月	11 月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
製 剤	件数	463	490	486	484	463	487	493	490	504	512	490	509	5,871	5,535
無菌製剤	件数	200	174	191	210	217	229	230	214	201	229	193	229	2,517	2,527

[薬剤部]

8 リハビリテーション関係件数

摘要		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
運動器リハ	外来	112件	124件	148件	181件	152件	149件	157件	137件	134件	166件	132件	159件	1,751件	1,751件
	入院	1,477	1,452	1,400	1,512	1,763	1,479	1,680	1,568	1,355	1,397	1,555	1,498	18,136	17,391
呼吸器リハ	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3	0
	入院	15	14	0	0	3	36	70	65	69	39	34	64	409	447
脳血管リハ	外来	0	2	2	1	2	2	2	2	1	2	0	2	18	49
	入院	63	77	126	124	116	83	137	54	90	108	153	137	1,268	934
退院指導	入院	56	46	40	41	59	46	43	51	51	34	33	49	549	619
その他	外来	9	6	1	4	1	4	2	1	5	8	7	4	52	82
	入院	30	24	13	29	26	20	19	29	48	28	50	27	343	231
小計	外来	121	132	151	186	155	155	161	140	140	178	140	165	1,824	1,882
	入院	1,641	1,613	1,579	1,706	1,967	1,664	1,949	1,767	1,613	1,606	1,825	1,775	20,705	19,622
総合計		1,762	1,745	1,730	1,892	2,122	1,819	2,110	1,907	1,753	1,784	1,965	1,940	22,529	21,504

[リハビリテーション室]

9 レントゲン・MRI・CT 関係件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
単 純	2,318件	2,559件	2,317件	2,453件	2,433件	2,301件	2,543件	2,463件	2,230件	2,332件	2,230件	2,442件	28,621件	29,510件
造影剤使用	131	111	136	120	116	113	100	103	95	106	99	109	1,339	1,572
C T	781	832	760	877	911	873	862	853	796	884	802	852	10,083	9,086
核医学 IN vivo	55	61	59	63	41	49	47	50	44	44	35	53	601	703
M R I	380	391	423	407	428	394	443	425	396	371	367	388	4,813	4,472
治 療	257	166	220	218	160	162	262	230	293	226	236	167	2,597	2,584
合 計	3,922	4,120	3,915	4,138	4,089	3,892	4,257	4,124	3,854	3,963	3,769	4,011	48,054	47,927

[放射線科]

10 中央臨床検査部検査件数

検査室名	検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外来検査室	尿	16,215件	17,619件	17,261件	18,112件	18,222件	16,459件	18,069件	17,473件	16,430件	16,858件	14,863件	14,893件	202,474件
	糞便	1,168	1,444	1,642	1,616	1,622	1,339	1,602	1,523	1,353	1,110	1,193	1,136	16,748
	計	17,383	19,063	18,903	19,728	19,844	17,798	19,671	18,996	17,783	17,968	16,056	16,029	219,222
		(15,225)	(16,405)	(17,302)	(17,089)	(18,056)	(16,503)	(16,937)	(16,961)	(16,162)	(15,857)	(16,781)	(17,437)	(200,715)
化学検査室	化学・血清	145,860	155,913	146,524	157,444	158,471	142,983	162,823	150,308	146,271	148,674	137,417	145,704	1,798,392
	輸血	150	281	190	209	157	211	238	334	286	201	186	214	2,657
	尿化学	882	918	955	935	1,152	746	874	851	857	825	628	844	10,467
	リコール髄液	162	130	142	176	153	160	184	172	141	138	150	161	1,869
	止血他	2,283	2,488	2,325	2,553	2,897	2,621	2,790	2,727	2,518	2,793	2,282	2,463	30,740
	計	149,337	159,730	150,136	161,317	162,830	146,721	166,909	154,392	150,073	152,631	140,663	149,386	1,844,125
		(141,415)	(141,511)	(152,510)	(146,846)	(152,795)	(140,757)	(150,744)	(141,572)	(141,027)	(142,991)	(145,447)	(145,895)	(1,743,510)
細菌検査室	一般細菌	5,488	6,882	5,894	6,896	6,471	5,684	5,906	6,239	5,103	5,396	5,730	5,469	71,158
	抗酸菌	177	235	200	192	148	132	219	157	115	151	190	232	2,148
	計	5,665	7,117	6,094	7,088	6,619	5,816	6,125	6,396	5,218	5,547	5,920	5,701	73,306
		(5,183)	(6,109)	(7,221)	(5,699)	(6,620)	(6,364)	(6,618)	(6,112)	(6,284)	(5,828)	(6,776)	(5,995)	(74,809)
病理検査室	病理組織染色	843	885	804	790	972	761	907	958	803	966	750	837	10,276
	細胞診	840	859	856	939	881	785	850	827	730	708	703	657	9,635
	計	1,683	1,744	1,660	1,729	1,853	1,546	1,757	1,785	1,533	1,674	1,453	1,494	19,911
		(1,687)	(1,334)	(1,748)	(1,617)	(1,697)	(1,488)	(1,570)	(1,573)	(1,526)	(1,466)	(1,529)	(1,502)	(18,737)
血液検査室	血色素量他	42,753	45,324	42,529	46,087	46,546	42,531	48,779	45,076	43,304	43,734	40,283	42,810	529,756
	特殊検査	35	37	34	40	41	35	32	38	29	30	24	35	410
	計	42,788	45,361	42,563	46,127	46,587	42,566	48,811	45,114	43,333	43,764	40,307	42,845	530,166
		(40,417)	(40,492)	(43,701)	(42,066)	(44,207)	(40,656)	(45,271)	(41,732)	(40,918)	(41,019)	(41,505)	(41,757)	(503,741)
合 計		216,856	233,015	219,356	235,989	237,733	214,447	243,273	226,683	217,940	221,584	204,399	215,455	2,686,730
		(203,927)	(205,851)	(222,482)	(213,317)	(223,375)	(205,768)	(221,140)	(207,950)	(205,917)	(207,161)	(212,038)	(212,586)	(2,541,512)
剖 検		1(1)	4(0)	2(1)	0(1)	2(1)	0(2)	0(1)	0(1)	0(0)	0(2)	2(0)	3(1)	14(11)

()内前年同月

[中央臨床検査部]

11 生理検査関係件数

A.脳波関係

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累 計	前年度累計
脳 波	23件	23件	22件	25件	29件	21件	19件	22件	24件	18件	12件	26件	264件	264件
筋電図他	11	5	3	11	13	8	16	15	12	12	6	10	122	107
計	34	28	25	36	42	29	35	37	36	30	18	36	386	371件

[神経科・精神科・脳波室]

B.超音波検査室

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累 計	前年度累計
甲状腺	29件	40件	30件	28件	28件	19件	28件	19件	30件	27件	34件	29件	341件	380件
乳 腺	7	1	5	3	3	4	3	1	3	4	5	2	41	90
腹 部	300	307	281	333	332	271	272	316	295	291	240	267	3,505	4,219
その他	4	3	4	7	5	5	8	3	8	1	2	1	51	105
計	340	351	320	371	368	299	311	339	336	323	281	299	3,938	4,794

[超音波検査室]

C.生理検査室

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累 計	前年度累計
心 電 図	929件	935件	883件	749件	900件	846件	879件	912件	845件	919件	796件	781件	10,374件	10,503件
トレッドミル	29	27	30	28	25	17	24	29	21	21	17	22	290	402
負荷心筋シチ	9	6	6	2	2	7	1	4	3	2	2	5	49	132
持続心電図	18	22	25	26	22	14	31	24	25	25	22	20	274	233
心エコー	192	194	202	198	227	181	226	186	186	212	205	193	2,402	2,143
末梢血管エコー	105	99	92	103	130	94	111	127	104	21	29	29	1,044	1,287
肺 機 能	212	165	153	169	155	133	159	145	122	160	127	139	1,839	1,852
A B I	79	83	90	85	103	77	89	111	82	75	74	87	1,035	1,054
その他循環器系検査	12	14	14	17	13	7	16	18	17	16	6	6	156	172
計	1,585	1,545	1,495	1,377	1,577	1,376	1,536	1,556	1,405	1,451	1,278	1,282	17,463	17,760

[循環器生理検査室]

D.内視鏡関係

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累 計	前年度累計
胃・十二指腸・食道ファイバースコープ	208件	191件	195件	211件	194件	179件	182件	201件	189件	194件	190件	191件	2,325件	2,134件
胃ポリヘクトミ	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	4	0
大腸ファイバースコープ (大腸ポリヘクトミ)	99 (16)	83 (20)	90 (23)	89 (11)	91 (19)	83 (15)	89 (25)	86 (16)	87 (13)	78 (15)	85 (10)	77 (9)	1,037 (192)	895 (183)
ERCP、その他	6	8	5	6	5	6	5	5	4	7	6	11	74	58
食道静脈瘤結紮	0	1	3	1	2	0	2	0	0	0	2	1	12	8
計	313	284	293	307	292	268	279	292	281	280	283	280	3,452	3,095

[内視鏡室]

E.眼科(屈折、眼圧)検査関係

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累 計	前年度累計
屈 折 検 査	410件	423件	456件	425件	387件	368件	418件	385件	311件	392件	378件	446件	4,799件	5,132件
矯 正 検 査	1,000	1,113	1,099	1,055	1,002	1,051	1,065	1,064	985	968	995	1,080	12,477	11,835
調 節 検 査	1	3	1	1	0	0	0	1	0	0	2	1	10	8
調節負荷検査	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	2
角膜曲率半径計測	116	157	137	128	156	125	148	138	111	103	118	142	1,579	1,934
超音波眼軸長測定 (A-モード)	23	38	38	25	27	36	37	36	19	33	36	39	387	373
精密眼圧測定	1,038	1,143	1,165	1,098	1,016	1,094	1,097	1,101	1,012	983	1,028	1,104	12,879	13,529
精密眼圧負荷測定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
計	2,588	2,877	2,896	2,732	2,588	2,674	2,766	2,725	2,438	2,479	2,557	2,813	32,133	32,822

[眼科]

F.眼科(網膜、神経)検査関係

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累 計	前年度累計
眼底カメラ撮影	67件	85件	83件	72件	83件	68件	75件	71件	56件	56件	61件	68件	845件	816件
蛍光眼底カメラ撮影	3	4	5	9	2	1	4	5	2	2	4	0	41	74
前眼部・細隙燈カメラ	25	36	38	25	26	21	27	31	15	30	37	42	353	406
角膜内細胞撮影	60	64	73	62	44	65	66	57	47	52	55	76	721	762
網膜電位図(ERG)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
精密視野検査(両側)	19	29	29	25	21	24	34	29	23	23	29	28	313	349
動的量的視野検査	19	18	25	17	16	20	20	18	10	10	11	17	201	248
静的動的視野検査	45	54	62	46	54	51	43	54	48	52	54	44	607	632
複像検査	5	2	5	6	4	2	4	5	1	13	5	13	65	52
網膜光凝固術(その他)	5	3	2	3	2	1	5	4	4	0	0	0	29	34
計	248	295	322	265	252	253	278	274	206	238	256	288	3,175	3,374

[眼科]

G.耳鼻咽喉科(平衡、聴力)検査関係

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累 計	前年度累計
平衡機能検査	56件	73件	78件	92件	13件	53件	91件	53件	36件	103件	61件	62件	771件	906件
聴力機能検査	182	203	168	202	188	145	237	220	180	181	158	180	2,244	2,219
その他	0	3	0	5	1	2	2	2	1	4	3	5	28	25
計	238	279	246	299	202	200	330	275	217	288	222	247	3,043	3,150

[耳鼻咽喉科]

12 医療福祉相談グループ関係件数

A 取扱件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
循環器内科・神経内科	135件	169件	137件	140件	198件	105件	87件	67件	89件	129件	142件	128件	1,526件	1,545件
消化器内科	19	20	24	14	18	13	45	43	40	54	57	50	397	263
総合内科	126	109	98	81	106	80	120	113	136	116	114	104	1,303	1,107
血液・化学療法内科	34	14	46	36	46	29	37	57	57	42	58	37	493	369
神経科・精神科	45	25	19	54	55	47	74	58	45	49	33	36	540	409
小児科	1	17	6	17	20	10	23	27	25	11	37	27	221	28
消化器・一般外科	13	37	69	47	77	44	64	58	52	52	27	33	573	287
乳腺外科	0	1	2	3	5	2	10	11	8	2	1	5	50	30
整形外科	51	64	64	65	72	79	100	115	105	99	136	128	1,078	993
皮膚科	13	29	16	14	24	12	9	11	15	12	2	27	184	134
泌尿器科	30	11	21	21	36	24	15	12	19	28	39	23	279	278
産婦人科	12	27	16	15	37	40	27	45	53	24	55	19	370	49
眼科	3	3	2	1	1	0	1	5	7	9	4	2	38	41
耳鼻咽喉科	17	16	27	15	19	16	15	9	9	5	13	13	174	239
放射線科	0	0		0	0	0	2	0	0	0	0	2	4	0
麻酔・緩和医療科	2	1	0	7	4	2	1	1	0	5	1	2	26	2
その他	15	12	7	23	16	26	24	31	27	11	24	9	225	69
合計	516	555	554	553	734	531	652	663	687	648	743	645	7,481	5,843

B 新規ケース紹介経路別件数

	4月			5月			6月			7月			8月			9月		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	30件	6件	0件	16件	3件	2件	7件	4件	0件	18件	6件	0件	17件	5件	0件	18件	9件	2件
家族	18	5	0	5	8	1	11	7	3	19	10	0	17	7	0	18	8	2
医師	6	10	0	3	9	1	2	9	0	3	9	0	1	11	0	3	9	0
看護師	8	17	0	5	28	0	8	22	0	6	25	0	8	46	0	6	31	0
その他院内職員	0	2	1	0	1	0	3	4	1	3	2	0	4	2	0	3	5	0
保健福祉関係機関	1	6	1	2	7	1	6	15	0	1	10	0	4	12	0	4	9	0
医療機関	0	1	0	4	2	0	2	0	0	3	1	1	6	2	0	2	0	1
福祉施設	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護保険施設・事業所	9	6	0	6	6	0	5	3	0	2	9	0	11	9	0	9	10	0
その他	0	1	0	1	1	0	1	0	0	1	3	0	0	1	0	0	1	0
小計	72	54	2	42	65	5	46	64	4	56	75	1	68	95	0	63	82	5
総合計	128			112			114			132			163			150		

	10月			11月			12月			1月			2月			3月			累計			前年度累計		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	16件	4件	0件	17件	7件	1件	19件	7件	0件	12件	3件	0件	15件	6件	0件	21件	5件	0件	206件	65件	5件	82件	59件	4件
家族	8	14	0	19	4	0	16	8	1	14	12	1	16	5	2	17	8	0	178	96	10	46	60	4
医師	11	8	0	4	9	0	5	12	0	6	10	1	5	14	0	4	9	0	53	119	2	23	116	1
看護師	12	21	0	10	32	0	7	34	0	9	44	0	6	35	0	15	33	0	100	368	0	89	279	0
その他院内職員	8	6	0	6	2	0	2	2	1	6	1	0	9	2	0	0	2	0	44	31	3	12	27	1
保健福祉関係機関	10	13	1	6	14	2	5	6	1	6	8	1	1	6	1	4	6	1	50	112	9	46	129	9
医療機関	3	2	2	4	0	0	4	1	0	4	1	0	5	3	4	2	2	1	39	15	9	23	22	4
福祉施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0
介護保険施設・事業所	7	4	0	8	4	1	4	6	0	4	4	3	10	5	0	3	7	0	78	73	4	59	47	5
その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	2	1	0	6	9	2	7	10	1
小計	75	72	4	74	72	4	62	76	3	62	84	6	67	77	8	68	73	2	755	889	44	388	751	29
総合計	151			150			141			152			152			143			1,688			1,168		

[医療福祉相談グループ]

13 診療科別医療収入

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計
循環器内科・神経内科	18,102	64,460	82,562	17,739	55,197	72,936	16,739	66,641	83,380	17,823	61,610	79,433	18,648	67,814	86,462	17,212	66,791	84,003	17,769	65,745	83,514
消化器内科	11,658	28,389	40,047	12,669	26,928	39,597	11,375	27,685	39,060	12,240	34,332	46,572	13,048	32,498	45,546	10,626	31,696	42,322	12,084	33,050	45,134
総合内科	27,777	34,418	62,195	30,136	36,261	66,397	28,678	31,592	60,270	29,790	38,256	68,046	30,968	44,026	74,994	27,560	43,451	71,011	31,912	39,413	71,325
血液・化学療法内科	19,695	36,980	56,675	24,368	35,818	60,186	19,203	29,145	48,348	22,946	33,372	56,318	15,928	41,733	57,661	17,500	42,910	60,410	19,203	41,733	60,936
内科(計)	77,232	164,247	241,479	84,912	154,204	239,116	75,995	155,063	231,058	82,799	167,570	250,369	78,592	186,071	264,663	72,898	184,848	257,746	80,968	179,941	260,909
神経科・精神科	6,634	12,989	19,623	6,734	8,909	15,643	6,844	11,277	18,121	6,502	9,426	15,928	7,142	9,108	16,250	6,126	11,312	17,438	6,318	12,082	18,400
小児科	6,782	7,226	14,008	6,494	3,740	10,234	5,778	6,898	12,676	6,320	6,424	12,744	6,300	5,898	12,198	6,224	6,663	12,887	7,510	7,636	15,146
消化器・一般外科	14,933	30,804	45,737	15,065	44,186	59,251	13,165	43,751	56,916	13,082	39,783	52,865	12,114	36,293	48,407	12,396	31,387	43,783	13,411	34,268	47,679
乳腺外科	12,022	6,012	18,034	11,248	6,361	17,609	11,115	6,845	17,960	13,667	6,302	19,969	10,600	7,919	18,519	10,606	7,494	18,100	13,924	7,329	21,253
外科(計)	26,955	36,816	63,771	26,313	50,547	76,860	24,280	50,596	74,876	26,749	46,085	72,834	22,714	44,212	66,926	23,002	38,881	61,883	27,335	41,597	68,932
整形外科	6,713	26,315	33,028	7,375	38,891	46,266	7,680	33,473	41,153	8,355	43,202	51,557	8,184	41,599	49,783	7,909	34,364	42,273	8,859	40,844	49,703
皮膚科	14,373	16,294	30,667	19,058	15,359	34,417	16,611	11,003	27,614	17,818	15,620	33,438	18,517	11,945	30,462	17,468	11,746	29,214	18,896	7,395	26,291
泌尿器科	13,891	20,014	33,905	13,566	23,906	37,472	13,613	22,091	35,704	14,377	15,319	29,696	13,899	15,865	29,764	13,253	19,770	33,023	15,217	18,833	34,050
産婦人科	18,169	75,252	93,421	20,986	70,821	91,807	18,683	63,631	82,314	21,879	83,632	105,511	20,615	80,533	101,148	19,928	72,415	92,343	21,936	84,673	106,609
眼科	7,519	12,453	19,972	7,765	15,129	22,894	7,626	18,445	26,071	7,464	14,818	22,282	7,019	8,946	15,965	7,145	12,835	19,980	7,628	12,503	20,131
耳鼻咽喉科	6,443	21,349	27,792	6,885	22,428	29,313	6,465	21,266	27,731	7,208	21,226	28,434	6,976	21,951	28,927	5,433	15,889	21,322	7,473	16,992	24,465
放射線科	4,890	1,699	6,589	4,458	890	5,348	4,987	1,011	5,998	3,805	1,999	5,804	3,545	1,563	5,108	4,214	933	5,147	6,398	995	7,393
麻酔・緩和医療科	784	1,758	2,542	661	1,696	2,357	695	1,784	2,479	613	3,188	3,801	791	3,759	4,550	618	1,227	1,845	776	1,697	2,473
救急診療科	1,900	64	1,964	1,846	2	1,848	1,708	38	1,746	2,037	50	2,087	1,711	18	1,729	2,586	533	3,119	1,898	1,031	2,929
その他	7	0	7	14	0	14	18	0	18	20	0	20	16	0	16	17	0	17	23	0	23
計	192,289	396,473	588,762	207,064	406,521	613,585	190,984	396,575	587,559	205,947	428,557	634,504	196,021	431,469	627,490	186,823	411,416	598,239	211,234	426,220	637,454
百分率	33%	67%	100%	34%	66%	100%	33%	67%	100%	32%	68%	100%	31%	69%	100%	31%	69%	100%	33%	67%	100%

(注) 1. 共観科の収入は主たる科の収入に含む場合もある。

[単位:千円]

11月			12月			1月			2月			3月			累計			前年度累計	対前年差額
外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計		
17,568	54,227	71,795	16,964	82,140	99,104	18,354	68,530	86,884	16,282	72,855	89,137	17,281	63,852	81,133	210,481	789,863	1,000,344	1,121,660	▲ 121,316
12,070	31,664	43,734	11,535	34,460	45,995	11,081	32,077	43,158	11,019	31,797	42,816	10,930	29,246	40,176	140,335	373,822	514,157	398,657	115,500
31,067	40,382	71,449	29,992	36,523	66,515	30,996	37,551	68,547	27,695	36,685	64,380	30,115	45,759	75,874	356,686	464,316	821,002	729,978	91,024
20,842	38,695	59,537	18,540	38,380	56,920	19,700	43,526	63,226	18,414	40,560	58,974	19,290	33,554	52,844	235,630	456,408	692,038	798,913	▲ 106,875
81,547	164,968	246,515	77,031	191,503	268,534	80,131	181,684	261,815	73,410	181,897	255,307	77,616	172,411	250,027	943,132	2,084,409	3,027,541	3,049,208	▲ 21,667
6,855	7,256	14,111	6,625	7,558	14,183	6,408	10,313	16,721	5,654	10,566	16,220	6,554	11,679	18,233	78,395	122,476	200,871	206,371	▲ 5,500
7,649	6,274	13,923	7,306	6,435	13,741	6,571	4,343	10,914	7,039	7,183	14,222	8,000	5,828	13,828	81,972	74,547	156,519	170,852	▲ 14,333
12,200	41,126	53,326	11,576	33,120	44,696	12,103	30,149	42,252	10,405	21,533	31,938	9,489	29,544	39,033	149,938	415,945	565,882	590,341	▲ 24,459
11,842	8,444	20,286	10,533	8,267	18,800	13,337	5,363	18,700	12,158	4,081	16,239	12,050	6,578	18,628	143,103	80,995	224,098	200,762	23,336
24,042	49,570	73,612	22,109	41,387	63,496	25,440	35,512	60,952	22,563	25,614	48,177	21,539	36,122	57,661	293,041	496,940	789,981	791,103	▲ 1,122
7,829	44,204	52,033	7,148	39,457	46,605	6,999	32,870	39,869	6,007	37,644	43,651	6,705	39,523	46,228	89,764	452,387	542,151	490,348	51,803
20,517	7,401	27,918	15,996	10,192	26,188	20,748	8,040	28,788	18,505	9,229	27,734	18,505	18,017	36,522	217,013	142,241	359,254	303,467	55,787
13,749	20,839	34,588	13,175	23,615	36,790	13,975	24,016	37,991	13,258	22,200	35,458	14,795	25,666	40,461	166,768	252,134	418,902	412,336	6,566
21,121	83,755	104,876	18,926	71,712	90,638	20,776	79,031	99,807	19,548	70,959	90,507	19,752	82,458	102,210	242,318	918,872	1,161,190	1,102,706	58,484
7,149	15,817	22,966	5,667	13,871	19,538	7,290	10,920	18,210	6,484	16,362	22,846	7,562	15,795	23,357	86,317	167,894	254,211	270,150	▲ 15,939
6,677	20,238	26,915	6,151	16,014	22,165	6,449	14,450	20,899	6,177	15,533	21,710	7,616	15,443	23,059	79,952	222,779	302,732	268,788	33,944
5,726	1,122	6,848	5,122	1,585	6,707	4,970	991	5,961	5,550	596	6,146	4,498	877	5,375	58,163	14,259	72,423	67,383	5,040
527	1,945	2,472	732	1,667	2,399	446	1,741	2,187	588	1,308	1,896	555	2,235	2,790	7,787	24,004	31,791	25,460	6,331
2,386	773	3,159	2,083	215	2,298	3,506	350	3,856	1,987	71	2,058	1,928	199	2,127	25,576	3,344	28,920	33,649	▲ 4,729
13	0	13	29	0	29	19	0	19	22	0	0	28	0	0	226	0	226	0	226
205,787	424,163	629,950	188,101	425,213	613,314	203,726	404,263	607,989	186,794	399,164	585,958	195,654	426,252	621,906	2,370,424	4,976,286	7,346,710	7,191,819	154,891
33%	67%	100%	31%	69%	100%	34%	66%	100%	32%	68%	100%	31%	69%	100%	32%	68%	100%		

[医事G]

14 医療行為別医療収入

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計
初診料	4,320	226	4,546	4,735	259	4,994	4,389	179	4,568	4,892	281	5,173	4,692	317	5,009	4,139	240	4,379	4,753	288	5,041
再診料	10,120	0	10,120	10,704	0	10,704	10,193	0	10,193	10,689	0	10,689	10,583	0	10,583	9,762	0	9,762	10,783	0	10,783
指導料	14,764	4,678	19,442	15,395	4,654	20,049	14,263	5,107	19,370	15,348	4,988	20,336	14,839	5,108	19,947	14,613	4,302	18,915	16,021	4,611	20,632
投薬料	4,435	5,976	10,411	4,693	6,366	11,059	3,437	5,869	9,306	5,216	5,007	10,223	3,932	4,418	8,350	2,829	4,160	6,989	3,082	6,593	9,675
注射料	41,950	5,301	47,251	50,143	7,397	57,540	41,806	3,934	45,740	46,933	4,710	51,643	40,089	2,924	43,013	41,398	3,535	44,933	48,258	6,322	54,580
処置料	3,160	1,741	4,901	3,335	2,366	5,701	3,167	2,531	5,698	3,194	2,186	5,380	3,269	939	4,208	2,847	808	3,655	3,455	1,238	4,693
手術料	4,823	90,429	95,252	4,972	102,610	107,582	5,838	94,584	100,422	4,741	98,575	103,316	4,398	97,118	101,516	3,948	90,100	94,048	5,304	98,464	103,768
検査料	62,607	7,560	70,167	64,587	7,913	72,500	61,454	7,847	69,301	67,043	6,948	73,991	65,462	6,623	72,085	60,453	7,010	67,463	66,602	7,853	74,455
画像診断料	25,855	1,440	27,295	27,042	1,883	28,925	25,466	1,556	27,022	26,516	1,682	28,198	27,284	1,425	28,709	26,042	1,345	27,387	28,358	1,466	29,824
入院料	0	48,158	48,158	0	49,704	49,704	0	48,395	48,395	0	52,087	52,087	0	48,576	48,576	0	47,477	47,477	0	51,711	51,711
DPC入院料	0	184,749	184,749	0	179,664	179,664	0	182,040	182,040	0	198,166	198,166	0	211,819	211,819	0	203,525	203,525	0	194,588	194,588
理学療法料	197	4,260	4,457	246	4,811	5,057	307	5,189	5,496	380	5,213	5,593	314	5,635	5,949	329	4,728	5,057	331	5,773	6,104
処方箋	7,211	0	7,211	7,692	0	7,692	7,215	0	7,215	7,687	0	7,687	7,615	0	7,615	6,933	0	6,933	7,784	0	7,784
その他	12,847	41,955	54,802	13,520	38,894	52,414	13,449	39,344	52,793	13,308	48,714	62,022	13,544	46,567	60,111	13,530	44,186	57,716	16,503	47,313	63,816
計	192,289	396,473	588,762	207,064	406,521	613,585	190,984	396,575	587,559	205,947	428,557	634,504	196,021	431,469	627,490	186,823	411,416	598,239	211,234	426,220	637,454

(注) 共観科の収入は主たる科の収入に含む場合もある。

[単位：千円]

11月			12月			1月			2月			3月			累計			前年度累計	対前年差額
外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計		
4,560	284	4,844	4,292	250	4,542	4,638	295	4,933	4,556	310	4,866	4,644	245	4,889	54,610	3,174	57,784	56,055	1,729
10,592	0	10,592	10,173	0	10,173	10,178	0	10,178	9,436	0	9,436	10,076	0	10,076	123,287	0	123,287	119,904	3,383
15,947	4,852	20,799	15,909	4,668	20,577	16,799	4,088	20,887	14,486	4,804	19,290	16,387	4,656	21,043	184,771	56,516	241,287	226,131	15,156
3,096	5,741	8,837	3,408	7,135	10,543	3,143	5,678	8,821	2,659	5,046	7,705	3,523	6,774	10,297	43,453	68,762	112,215	132,497	▲ 20,282
47,198	7,011	54,209	38,884	5,613	44,497	45,821	4,933	50,754	44,434	6,713	51,147	41,120	9,573	50,693	528,036	67,966	596,002	595,860	142
3,331	1,910	5,241	3,201	4,251	7,452	3,286	2,377	5,663	3,007	1,675	4,682	3,252	1,466	4,718	38,504	23,489	61,993	63,451	▲ 1,458
4,758	106,826	111,584	3,907	95,647	99,554	5,935	93,752	99,687	4,406	95,957	100,363	5,011	95,705	100,716	58,041	1,159,767	1,217,808	1,183,807	34,001
64,888	7,757	72,645	61,267	7,660	68,927	64,360	7,740	72,100	59,203	7,551	66,754	63,270	9,038	72,308	761,197	91,500	852,697	812,998	39,699
26,855	1,531	28,386	23,960	1,442	25,402	27,055	1,524	28,579	23,426	1,067	24,493	26,335	1,297	27,632	314,195	17,657	331,852	320,553	11,299
0	49,208	49,208	0	49,020	49,020	0	47,689	47,689	0	47,001	47,001	0	54,852	54,852	0	593,879	593,879	630,647	▲ 36,768
0	189,451	189,451	0	197,467	197,467	0	183,988	183,988	0	181,621	181,621	0	191,520	191,520	0	2,298,600	2,298,600	2,242,813	55,787
286	5,014	5,300	277	4,951	5,228	370	5,015	5,385	265	4,956	5,221	349	5,453	5,802	3,651	60,998	64,649	52,234	12,415
7,772	0	7,772	7,379	0	7,379	7,404	0	7,404	6,805	0	6,805	7,487	0	7,487	88,982	0	88,982	89,142	▲ 160
16,504	44,578	61,082	15,444	47,109	62,553	14,737	47,184	61,921	14,111	42,463	56,574	14,200	45,673	59,873	171,697	533,978	705,675	665,727	39,948
205,787	424,163	629,950	188,101	425,213	613,314	203,726	404,263	607,989	186,794	399,164	585,958	195,654	426,252	621,906	2,370,424	4,976,286	7,346,710	7,191,819	154,891

[医事G]

15 病院従業員数 (平成24年度－平成24年4月1日現在)
(平成23年度－平成23年4月1日現在)

		職員	性別		専攻医	研修医	常勤嘱託	非常勤・パート
			男	女				
医 師	平成24年度	59名	48名	11名	10名	11名	4名	39名
	平成23年度	59	48	11	10	13	3	39
薬剤師	平成24年度	12	5	7				3
	平成23年度	11	5	6				3
放射線技師	平成24年度	12	9	3				
	平成23年度	13	10	3				
臨床検査技師	平成24年度	23	9	14				2
	平成23年度	22	8	14				
理学療法士	平成24年度	6	5	1				1
	平成23年度	5	4	1				
作業療法士	平成24年度	1		1				
	平成23年度	1		1				
栄養士	平成24年度	1		1				2
	平成23年度	1		1				2
ケースワーカー	平成24年度	2		2				
	平成23年度	2		2				
視能訓練士・眼鏡士	平成24年度	2		2				4
	平成23年度	2		2				4
臨床心理士	平成24年度	0						1
	平成23年度	0						1
臨床工学技士	平成24年度	3	1	2				
	平成23年度	3	1	2				
看護師	平成24年度	281	6	275				14
	平成23年度	272	3	269				13
准看護師	平成24年度	1		1				10
	平成23年度	1		1				10
看護助手	平成24年度							19
	平成23年度	1		1				16
事務員	平成24年度	36	21	15				12
	平成23年度	33	18	15				9
一般技能労務職	平成24年度	4	2	2			1	4
	平成23年度	5	3	2			1	5
総 計	平成24年度	443	106	337	10	11	5	111
	平成23年度	431	100	331	10	13	4	102

[総務G]

16 退院患者統計

注1) 疾病分類は厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10準拠」を使用した。

平成18年退院患者から厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10(2003年版)準拠」を使用した。

注2) 手術分類は(財)医療情報システム開発センター監修「手術及び処置の分類 ICD・9・CM」を使用した。

平成18年退院患者から日本病院会版2003「手術及び処置の分類ICD・9・CM」を使用した。

注3) データは診療録管理システムから集計をした。

注4) 実退院患者1入院、1主病名、1主手術で集計をした。

1) 退院患者医療評価指標①

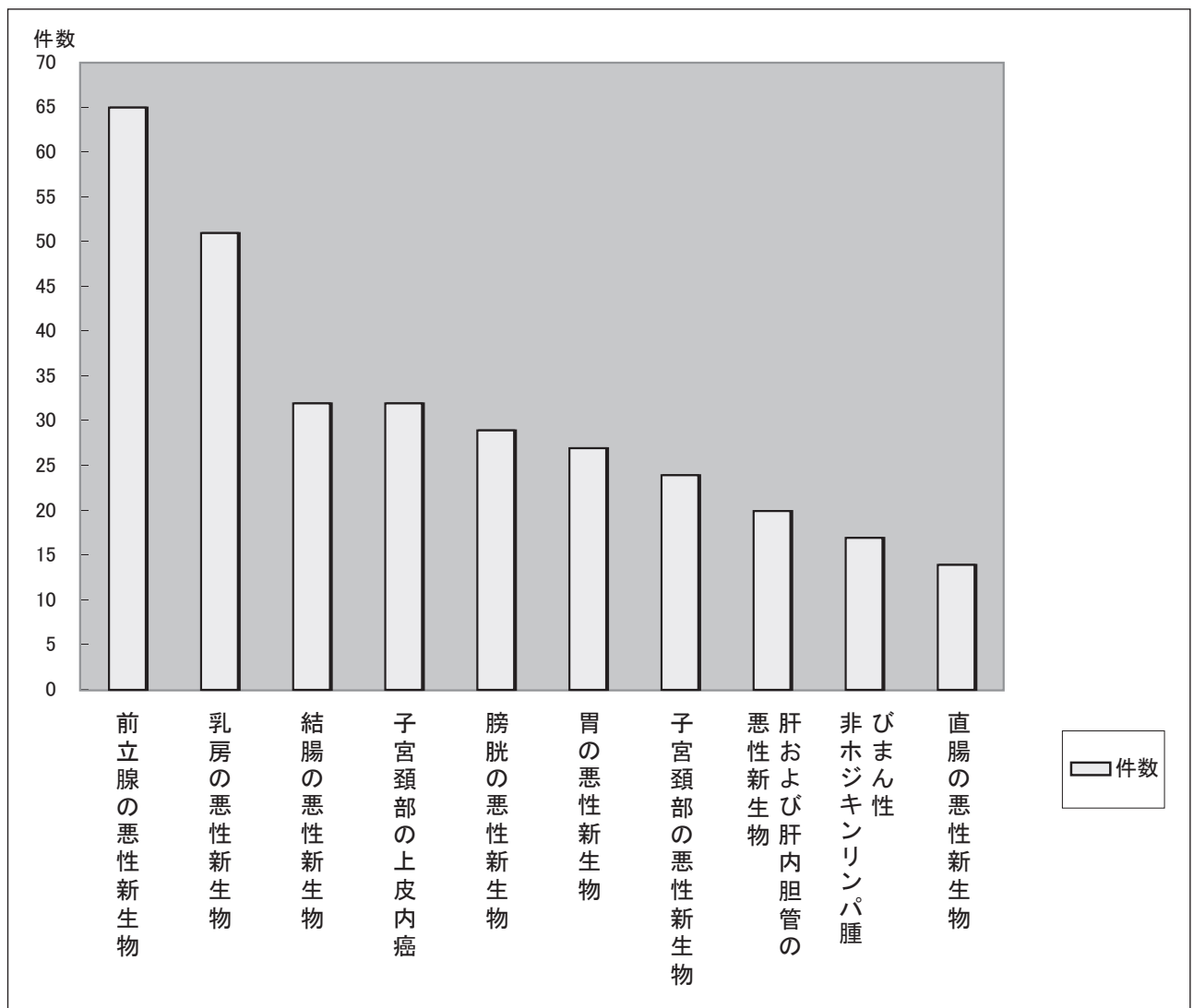
	算定式	平成17年 (2005年)	平成18年 (2006年)	平成19年 (2007年)	平成20年 (2008年)	平成21年 (2009年)	平成22年 (2010年)	平成23年 (2011年)	平成24年 (2012年)	平成24年度 (2012年4月 ~2013年3月)
病床数(床)		350	350	350	350	350	350	350	350	350
一日平均在院 患者数(人)	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{365\text{日}}$	269	273	272	269	280	283	278	278	268
病床稼働率 (%)	$\frac{\text{1日平均在院患者数}}{350\text{床}}$	76.9	78.0	77.7	76.9	80.0	80.9	79.4	79.4	78.0
平均在院日数 (日)	$\frac{\text{年間延入院患者数}-\text{退院患者数}}{(\text{入院}+\text{退院患者数})\div 2}$	15.3	14.7	14.6	14.1	14.2	13.2	13.3	13.3	11.4
実退院患者数 (人)		5,900	6,359	6,350	6,486	6,740	7,283	7,119	7,119	7,490
転科数		176	249	158	140	176	206	164	209	208
総退院患者数		6,076	6,608	6,508	6,626	6,916	7,489	7,283	7,605	7,698
実退院患者平均 在院日数(日)	$\frac{\text{実退院患者入院延日数}}{\text{実退院患者数}}$	16.2	15.7	15.6	15.0	15.5	14.1	14.6	13.4	13.2
院内粗死亡率 (%)	$\frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.5	2.9	2.7	2.4	2.5	2.2	2.1	2.1	2.3
院内精死亡率 (%)	$\frac{\text{入院48時間超死亡数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.2	2.6	2.4	2.2	2.4	2.2	1.8	1.9	2.1
剖検率(%)	$\frac{\text{剖検患者数}}{\text{死亡患者数}} \times 100$	5.5	11.4	8.9	7.2	5.8	9.6	6.6	7.7	8.1
術後死亡率 (%)	$\frac{\text{術後10日以内死亡患者数}}{\text{総手術数}} \times 100$	0.04	0.03	—	—	—	—	—	—	—
帝王切開率 (%)	$\frac{\text{帝王切開数}}{\text{分娩数}} \times 100$	18.9	20.6	23.4	19.1	17.0	18.8	16.8	16.6	14.2
分娩死亡率 (%)	$\frac{\text{分娩による妊産婦死亡数}}{\text{分娩数}} \times 100$	—	—	—	—	—	—	—	—	—
新生児死亡率 (%)	$\frac{\text{新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 100$	—	—	—	—	—	0.2	—	—	—
紹介入院率 (%)	$\frac{\text{紹介入院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	32.4	34.9	35.9	38.0	40.5	40.8	38.8	38.1	39.3
対診率(%)	$\frac{\text{対診数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	36.1	38.1	43.1	43.6	41.1	36.1	40.2	44.9	45.2
診療情報の利用										
診療録利用件数 (冊)		5,808	1,204	1,022	506	324	172	198	215	233
コンピュータ情報利用 件数(依頼件数)		65	55	84	98	63	82	65	56	60

1) 退院患者医療評価指標②(悪性新生物)

	算定式	平成16年 (2004年)	平成17年 (2005年)	平成18年 (2006年)	平成19年 (2007年)	平成20年 (2008年)	平成21年 (2009年)	平成22年 (2010年)	平成23年 (2011年)	平成24年 (2012年)	平成24年度 (2012年4月-2013年3月)
悪性新生物 :比率(%)	$\frac{\text{悪性新生物患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	15.5	17.2	15.7	15.3	14.0	15.3	14.7	16.1	14.8	14.7
悪性新生物 :新発患者数		352	413	432	445	454	503	548	553	465	445

○2012月4月～2013年3月ー初発がん統計(上位のみ)

疾患名	件 数	平均在院日数
前立腺の悪性新生物	65	4.6
乳房の悪性新生物	51	15.2
結腸の悪性新生物	32	27.2
子宮頸部の上皮内癌	32	3.3
膀胱の悪性新生物	29	10.7
胃の悪性新生物	27	30.6
子宮頸部の悪性新生物	24	10.6
肝および肝内胆管の悪性新生物	20	20.4
びまん性非ホジキンリンパ腫	17	48.9
直腸の悪性新生物	14	21.7



診療科別・月別・患者数 (2012年4月～2013年3月)

日本生命済生会付属 日生病院

診療科	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	死亡	剖検
総数	計 7,490 男 3,241 女 4,249	605 269 336	584 231 353	637 304 333	622 259 363	639 277 362	608 269 339	640 289 351	650 244 406	655 267 388	555 280 295	601 277 324	694 295 399	173 97 76	14 9 5
循環器内科・神経内科	計 948 男 546 女 402	78 48 30	63 37 26	81 50 31	71 41 30	65 35 30	87 46 41	93 60 33	79 36 43	102 53 49	57 36 21	79 48 31	93 56 37	17 10 7	1 - 1
消化器内科	計 1,051 男 611 女 440	89 54 35	82 40 42	82 40 42	95 55 40	99 55 44	96 58 38	86 46 40	88 60 40	92 60 32	78 48 30	80 48 32	84 52 32	30 15 15	3 2 1
総合内科	計 706 男 327 女 379	48 20 28	44 16 28	63 33 30	50 25 25	70 31 39	64 29 35	66 37 29	55 30 36	61 24 37	63 30 33	60 33 27	62 30 32	25 13 12	4 3 1
血液・化学療法内科	計 225 男 137 女 88	19 13 6	23 15 8	17 9 8	17 9 8	16 12 4	16 11 5	16 13 3	21 11 10	19 7 12	21 14 7	24 11 13	16 12 4	20 15 5	4 3 1
神経科・精神科	計 95 男 27 女 68	10 2 8	7 2 5	9 3 6	7 4 3	7 2 5	5 - 5	15 5 10	7 1 6	5 4 4	7 4 3	7 2 5	9 1 8	9 1 -	- - -
小児科	計 297 男 172 女 125	34 17 17	15 8 7	25 15 10	27 14 13	23 16 7	25 15 10	26 18 8	29 20 9	20 8 12	18 13 5	30 16 14	25 12 13	- - -	- - -
消化器・一般外科	計 470 男 295 女 175	27 16 11	42 23 19	44 29 15	39 17 22	38 24 14	34 27 7	44 33 11	41 26 25	44 26 18	37 26 11	33 24 9	47 34 13	38 25 13	1 - 1
乳腺外科	計 138 男 2 女 136	9 - 9	12 - 12	13 - 13	9 - 9	13 - 13	10 - 10	11 - 9	12 - 12	13 - 13	10 - 10	12 - 12	14 - 14	4 - 4	- - -
整形外科	計 288 男 113 女 175	13 4 9	24 11 10	21 11 10	27 13 14	27 13 14	24 3 21	23 11 12	32 8 24	30 7 23	17 12 5	16 8 8	34 9 25	3 2 1	- - -
皮膚科	計 231 男 118 女 113	17 12 5	25 14 11	22 13 9	21 9 12	23 12 11	17 7 10	17 3 9	16 7 10	16 10 6	17 7 10	19 10 9	25 14 11	2 - 2	- - -
泌尿器科	計 418 男 351 女 67	44 34 10	30 23 7	43 35 8	27 24 3	28 24 4	36 31 5	30 24 6	33 30 3	36 29 7	36 32 4	40 37 3	35 28 7	12 9 3	- - -
産婦人科	計 1,533 男 - 女 1,533	127 - 127	129 - 129	112 - 112	137 - 137	135 - 135	116 - 116	139 - 139	133 - 133	129 - 129	120 - 120	113 - 113	143 - 143	11 - 11	- - -
眼科	計 581 男 231 女 350	45 21 24	46 13 33	63 29 34	51 24 27	32 19 13	41 21 20	42 16 30	60 13 39	44 16 28	38 14 24	53 17 36	66 24 42	1 1 -	- - -
耳鼻咽喉科	計 469 男 294 女 175	44 28 16	40 24 16	41 30 11	40 24 16	55 24 24	35 31 15	33 22 11	39 20 15	41 25 16	32 24 8	34 20 12	35 20 15	7 6 1	1 1 -
救急診療科	計 9 男 6 女 3	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	1 - -	3 2 1	2 2 -	1 - 1	1 - 1	- - -	1 - -	- - -	- - -
麻酔・緩和医療科	計 31 男 11 女 20	1 - 1	2 2 -	1 - 1	4 - 4	8 3 5	1 - 1	1 1 -	2 1 1	2 1 1	3 - 3	1 - 1	5 2 3	3 1 2	- - -
健康管理科	計 - 男 - 女 -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -

3) 診療科別・月別・死亡剖検数

診療科別・月別・死亡（剖検）患者数（2012年4月～2013年3月）

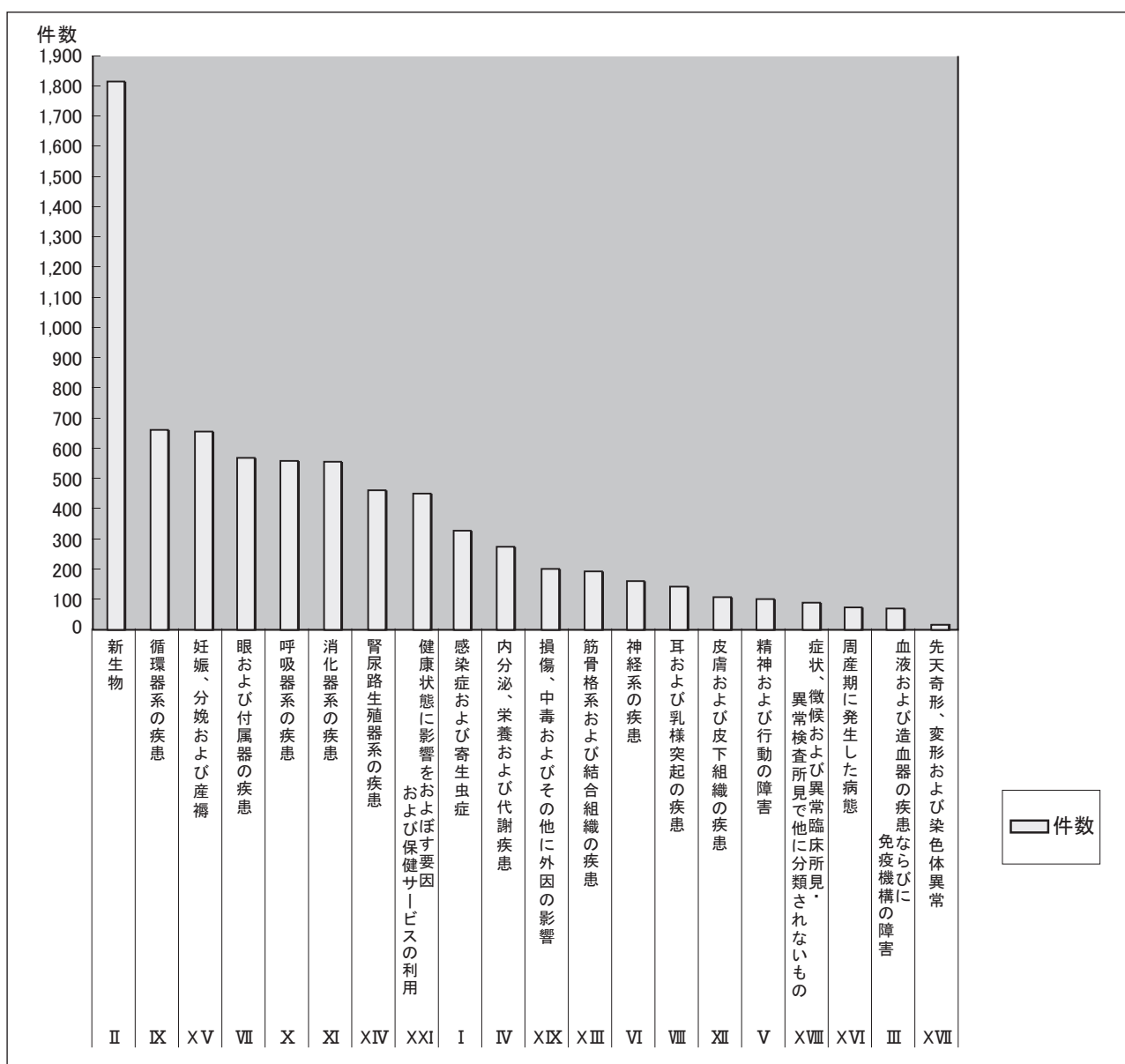
日本生命済生会付属 日生病院

診療科	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	兼科患者数	退院患者数	粗死亡率	精死亡率	剖検率
総数	173 (14)	12 (1)	10 (4)	11 (2)	12 (-)	19 (2)	16 (-)	18 (-)	10 (-)	12 (-)	16 (-)	14 (2)	23 (3)	25 (-)	7,490	173 (2.3)	160 (2.1)	14 (8.1)
循環器内科・神経内科	17 (1)	1 (-)	- (-)	2 (-)	1 (-)	2 (1)	3 (-)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	4 (-)	5 (-)	948	17 (1.8)	14 (1.5)	1 (5.9)
消化器内科	30 (3)	- (-)	3 (2)	- (-)	5 (-)	3 (-)	1 (-)	3 (-)	2 (-)	2 (-)	3 (-)	1 (-)	7 (1)	1 (-)	1,051	30 (2.9)	30 (2.9)	3 (10.0)
総合内科	25 (4)	1 (-)	3 (1)	3 (1)	- (-)	- (-)	4 (-)	1 (-)	2 (-)	1 (-)	3 (-)	6 (2)	1 (-)	8 (-)	706	25 (3.5)	22 (3.1)	4 (16.0)
血液・化学療法内科	20 (4)	3 (1)	2 (1)	3 (1)	1 (-)	2 (1)	1 (-)	3 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	1 (-)	2 (-)	225	20 (8.9)	19 (8.4)	4 (20.0)
神経科・精神科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	95	- (-)	- (-)	- (-)
小児科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	297	- (-)	- (-)	- (-)
消化器・一般外科	38 (1)	2 (-)	2 (-)	2 (-)	2 (-)	5 (-)	2 (-)	3 (-)	3 (-)	3 (-)	6 (-)	2 (-)	6 (1)	1 (-)	470	38 (8.1)	35 (7.4)	1 (2.6)
乳腺外科	4 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	138	4 (2.9)	4 (2.9)	- (-)
整形外科	3 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	3 (-)	288	3 (1.0)	3 (1.0)	- (-)
皮膚科	2 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	231	2 (0.9)	2 (0.9)	- (-)
泌尿器科	12 (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	3 (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	4 (-)	418	12 (2.9)	12 (2.9)	- (-)
産婦人科	11 (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	2 (-)	- (-)	1,533	11 (0.7)	9 (0.6)	- (-)
眼科	1 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	581	1 (0.2)	1 (0.2)	- (-)
耳鼻咽喉科	7 (1)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	2 (1)	- (-)	469	7 (1.5)	7 (1.5)	1 (14.3)
救急診療科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	9	- (-)	- (-)	- (-)
麻酔科	3 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	31	3 (9.7)	2 (6.5)	- (-)
健康管理科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-	- (-)	- (-)	- (-)

4) 疾病統計

○2012年4月～2013年3月－国際疾病分類大分類別件数

コード	国際分類大項目分類	件 数	平均在院日数
I	感染症および寄生虫症	328	10.8
II	新生物	1,816	15.5
III	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	70	25.2
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	275	17.2
V	精神および行動の障害	101	43.0
VI	神経系の疾患	161	15.0
VII	眼および付属器の疾患	569	3.5
VIII	耳および乳様突起の疾患	143	7.4
IX	循環器系の疾患	662	14.8
X	呼吸器系の疾患	559	14.0
XI	消化器系の疾患	556	11.4
XII	皮膚および皮下組織の疾患	108	19.4
XIII	筋骨格系および結合組織の疾患	193	28.8
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	462	9.4
XV	妊娠、分娩および産褥	656	7.6
XVI	周産期に発生した病態	74	6.6
XVII	先天奇形、変形および染色体異常	16	6.4
XVIII	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	89	11.8
XIX	損傷、中毒およびその他の外因の影響	201	28.0
XXI	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	451	1.7
総計		7,490	12.9



5) 手術統計

◆ 2012年4月～2013年3月－手術件数(上位のみ)

○ 神経系

主手術名	件数	平均在院日数
脊髄および脊柱管構造物のその他の手術	36	29.2
脊柱管構造物の診査および減圧術	13	33.1
末梢神経内注入術	8	60.5
脳神経および抹消神経の癒着剥離術および減圧術	7	9.6
脊髄および脊柱管構造物の診断的処置	3	18.0

○ 内分泌系

主手術名	件数	平均在院日数
甲状腺片葉切除術	9	12.2
甲状腺全摘術	3	16.3

○ 目

主手術名	件数	平均在院日数
破碎法および吸引法による水晶体囊外摘出術	541	2.9
角膜移植術	10	18.3
その他の白内障摘出術	4	64.3
硝子体の手術	4	13.5
人工眼内レンズの挿入術	3	7.0

○ 耳

主手術名	件数	平均在院日数
鼓膜形成術	18	8.9
外耳の病変の切除術または破壊術	6	5.0
鼓膜切開術	4	4.3
その他の鼓室形成術	4	15.0

○ 鼻、口、及び咽頭

主手術名	件数	平均在院日数
アデノイド切除術を伴わない口蓋扁桃摘出術	39	7.9
鼻外からの上顎洞開窓術	26	8.9
アデノイド切除術を伴う口蓋扁桃摘出術	11	5.9
その他の副鼻腔手術	8	10.3
唾液腺切除術	8	10.6

○ 呼吸器系

主手術名	件数	平均在院日数
喉頭の病変または組織の切除術または破壊術	8	8.0
肺および気管支の診断的処置	7	52.3
その他の喉頭部分切除術	5	8.6
喉頭および気管の診断的処置	4	22.8
気管の修復術および形成術	4	12.8
胸壁および胸膜の切開術	4	16.3

○ 循環器系

主手術名	件数	平均在院日数
心および心外膜の診断的処置	251	7.3
冠動脈閉塞の解除およびステント挿入術	115	14.6
血管のその他の外科的閉塞術	60	14.3
ペースメーカー装置の挿入術、交換術、除去術、および修正術	20	29.5
血管のその他の修復術	17	28.9

○ 血液系及びリンパ系

主手術名	件数	平均在院日数
骨髄および脾臓の診断的処置	45	46.9
骨髄または造血幹細胞の移植術	11	43.0
リンパ組織の診断的処置	10	16.2
リンパ節の単純切除術	6	3.2
根治的頸部リンパ節郭清術	3	12.3

◆ 2012年4月～2013年3月－手術件数(上位のみ)

○ 消化器系

主手術名	件 数	平均在院日数
大腸病変または組織の局所切除術または破壊術	158	3.9
胃の診断的処置	64	22.9
大腸の診断的処置	48	4.7
胆嚢摘出術	46	12.6
鼠径ヘルニアの一側修復術	41	10.4

○ 尿路系

主手術名	件 数	平均在院日数
膀胱組織の経尿道的切除術または破壊術	90	8.8
腎全摘術	10	16.1
尿管および腎盂内塞栓物の経尿道的除去術	8	6.5
尿管カテーテル法	8	15.3
腎部分切除術	5	15.0
膀胱全摘術	5	48.2
尿道の拡張術	5	3.2

○ 男性生殖器

主手術名	件 数	平均在院日数
前立腺および精嚢の診断的処置	105	3.0
経尿道的前立腺切除術	15	12.7
恥骨後式前立腺摘除術	9	11.0
根治的前立腺摘除術	6	19.7
精巣鞘膜水腫の切除術	4	6.5

○ 女性生殖器

主手術名	件 数	平均在院日数
子宮の病変または組織の切除術または破壊術	268	6.3
腔式子宮摘出術	141	8.7
卵巣の病変または組織の局所切除術または破壊術	140	7.4
子宮頸部円錐切除術	81	3.1
子宮頸管拡張を伴う子宮内容除去術	65	2.6

○ 産科的処置

主手術名	件 数	平均在院日数
低位子宮頸帝王切開術	68	10.2
遺残胎盤の用手的除去術	4	9.8
中位鉗子術	3	13.0
分娩を介助するためのその他の手術	3	2.0

○ 筋骨格系

主手術名	件 数	平均在院日数
内固定を伴う骨折の観血的整復術	60	35.8
下肢の関節置換術	40	38.1
椎間版の切除術または破壊術	16	32.1
脊椎固定術	14	63.3
骨へ埋め込まれた器具の除去術	13	14.4

○ 表皮組織

主手術名	件 数	平均在院日数
乳房組織の切除術または破壊術	38	15.1
皮膚および皮下組織切開術	31	28.8
皮膚および皮下組織の診断手技	30	17.1
皮膚および皮下組織病変または組織のその他の局所切除術または破壊術	28	11.8
乳房の診断手技	23	3.6

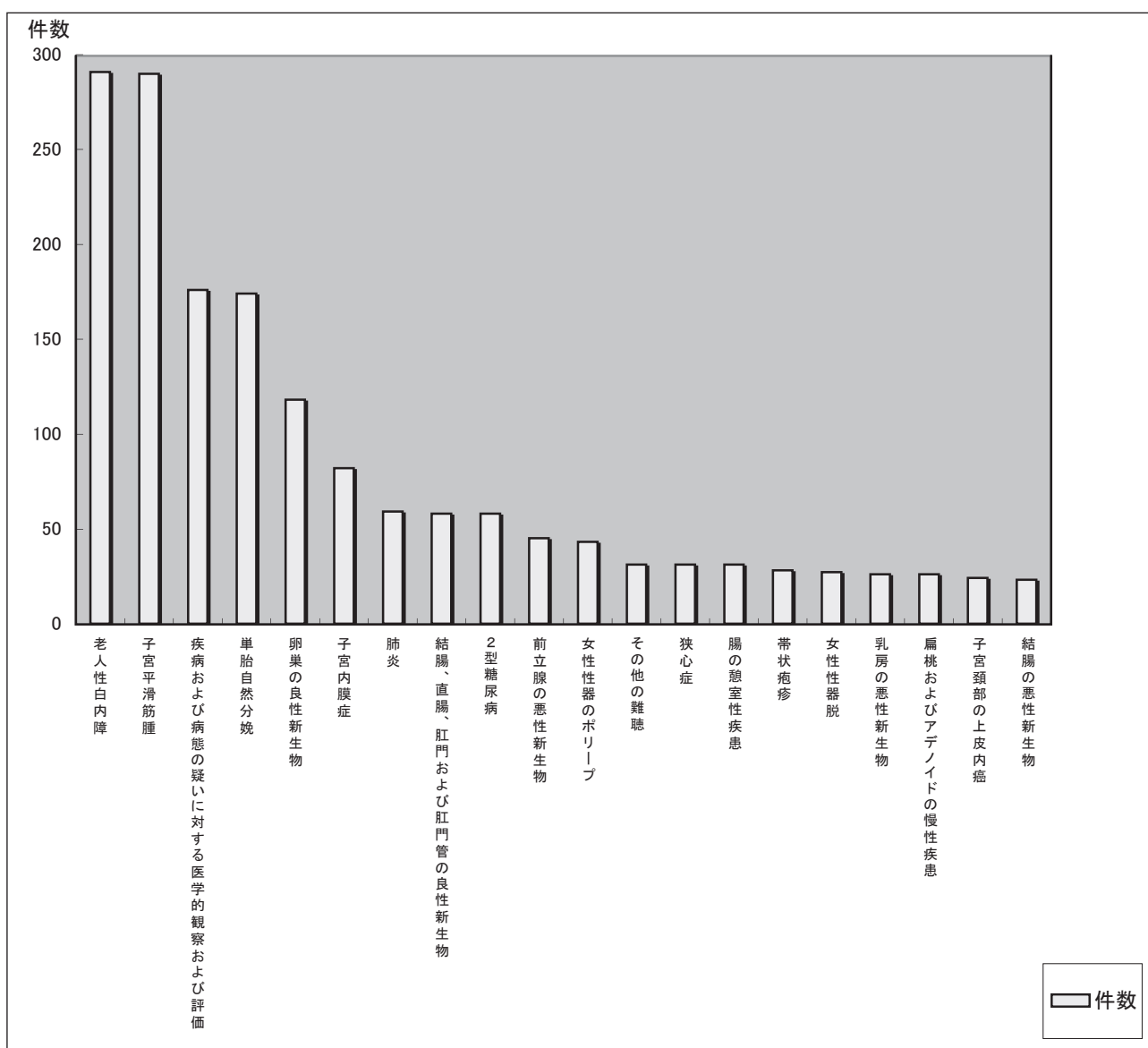
○ 多種の診断

主手術名	件 数	平均在院日数
体外衝撃波碎石術	26	3.8
消化管装具の非手術的交換術	4	24.0
消化管および気道の非手術的挿管術	3	24.0

6) 紹介入院患者 疾患トップ20

○2012年4月～2013年3月－紹介入院患者－疾患別件数

疾患名	件数	平均在院日数
老人性白内障	291	3.2
子宮平滑筋腫	290	7.9
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	176	1.2
単胎自然分娩	174	7.3
卵巣の良性新生物	118	7.8
子宮内膜症	82	7.6
肺炎	59	10.7
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	58	1.9
2型糖尿病	58	17.7
前立腺の悪性新生物	45	6.6
女性性器のポリープ	43	3.6
その他の難聴	31	4.7
狭心症	31	6.9
腸の憩室性疾患	31	3.9
帯状疱疹	28	10.8
女性性器脱	27	11.1
乳房の悪性新生物	26	17.2
扁桃およびアデノイドの慢性疾患	26	7.9
子宮頸部の上皮内癌	24	3.0
結腸の悪性新生物	23	17.9



◆ 2012年4月～2013年3月－紹介入院患者－診療科別件数(上位のみ)

○ 循環器内科・神経内科

疾患名	件数	平均在院日数
狭心症又は慢性虚血性心疾患	47	7.0
心房細動および粗動	11	15.5
心不全	9	38.1

○ 消化器内科

疾患名	件数	平均在院日数
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	152	1.0
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	56	1.9
腸の憩室性疾患	23	2.7

○ 総合内科

疾患名	件数	平均在院日数
2型糖尿病	49	17.3
肺炎	18	14.2
下垂体疾患	10	9.0

○ 血液・化学療法内科

疾患名	件数	平均在院日数
悪性リンパ腫	20	46.5
骨髄性白血病	7	45.6
多発性骨髄腫および悪性形質細胞性新生物	5	52.6
骨髄異形成症候群	5	15.4
紫斑病およびその他の出血性病態	5	25.4

○ 神経科・精神科

疾患名	件数	平均在院日数
うつ病エピソード	5	85.6
強迫性障害	2	28.5
てんかん	2	40.0
神経系のその他の変性疾患	2	57.0

○ 小児科

疾患名	件数	平均在院日数
肺炎	27	5.2
急性細気管支炎	22	5.1
ウイルス性およびその他の明示された腸管感染症	8	4.3

○ 消化器・一般外科

疾患名	件数	平均在院日数
崬径ヘルニア	17	8.1
胆石症	13	10.8
結腸の悪性新生物	12	28.8

○ 乳腺外科

疾患名	件数	平均在院日数
乳房の悪性新生物	26	17.2
乳腺微細石灰化症	12	2.0

◆ 2012年4月～2013年3月－紹介入院患者－診療科別件数(上位のみ)

○ 整形外科

疾患名	件 数	平均在院日数
脊椎障害および椎間板障害	27	30.4
大腿骨骨折	14	39.6
前腕の骨折	10	12.4

○ 皮膚科

疾患名	件 数	平均在院日数
帯状疱疹	25	10.8
乾癬	10	23.0
蜂巣炎	6	11.8

○ 泌尿器科

疾患名	件 数	平均在院日数
前立腺の悪性新生物	45	6.6
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	21	2.8
膀胱の悪性新生物	20	11.4
前立腺肥大症	20	8.1

○ 産婦人科

疾患名	件 数	平均在院日数
子宮平滑筋腫	290	7.9
単胎自然分娩	174	7.3
卵巣の良性新生物	118	7.8

○ 眼科

疾患名	件 数	平均在院日数
白内障	296	3.2
角膜のその他の障害	10	23.4
体内プロステシス, 挿入物および移植片の合併症	4	4.0

○ 耳鼻咽喉科

疾患名	件 数	平均在院日数
その他の難聴	31	4.7
扁桃およびアデノイドの慢性疾患	26	7.9
慢性副鼻腔炎	20	9.4

○ 麻酔・緩和医療科

疾患名	件 数	平均在院日数
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	7	3.0
腹 水	3	2.7
他に分類される疾患における脳神経障害	3	8.3

第3章 診療業務

循環器内科・神経内科

1. スタッフ

副院長兼部長 濱田偉文：浅野彰彦(神経)、仁科拓也(神経)、岡部太一(循環器)(9月～)、
中川 厚(循環器)、長谷川浩司(循環器)(～12月)、村西寛実(循環器)
専攻医：高橋秀明(循環器)

2. 診療活動

循環器内科では虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、各種不整脈、閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症等の診断治療を行っている。その中心となる疾患は虚血性心疾患であり、平成24年度も昨年同様、冠動脈造影検査500件以上、経皮的冠動脈形成術(PCI)も120件前後施行し良好な成績を挙げている。また閉塞性動脈硬化症に対する経皮的血管形成術(PTA)や、下肢静脈インターベンション、下大静脈フィルター挿入、ペースメーカー植え込み術も例年通り行っている。

神経内科では、目眩や痺れといった身近な例から、脳梗塞をはじめとする脳血管障害やパーキンソン病等の変性疾患に至るまで、様々な疾患の診断と治療に対応し、難病疾患の在宅療養においても、地域の先生や訪問看護スタッフと連携し、病状の変化に柔軟に対応するように努力している。

文責 濱田偉文

2012年4月～2013年3月－循環器内科・神経内科の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
狭心症又は慢性虚血性心疾患	311	7.8
心不全	78	34.9
肺炎/(誤嚥性肺炎13件を含める)	55/(68)	21.9/(28.7)
心房細動および粗動	39	13.2
閉塞性動脈硬化症	31	10.1
感染症と推定される下痢および胃腸炎	30	9.8
糖尿病	27	26.2
脳梗塞/(後遺症4件含める)	26/(30)	23.9/(35.7)
前庭機能障害	19	13.1
心筋梗塞	18	15.6

消化器内科

1. スタッフ

部長 中村秀次：担当部長 湯川雅彦(消化器内視鏡センター長兼任)

村本 理、稲次洋平

専攻医：三上高司

2. 診療活動

4月から専攻医1名が加わり5名の常勤スタッフで、消化器疾患を主とした診療を行っている。消化器癌の早期発見に主眼を置き、外科・放射線科との連携のもと早期診断・早期治療に努めている。上部内視鏡検査では、拡大内視鏡、色素内視鏡を積極的に用いて診断精度の向上をはかっている。大腸内視鏡検査においては、軸保持短縮法による挿入法を用いて苦痛の軽減に努め、診断法としてはピットパターン診断を取り入れて、高い診断精度を目指している。治療的手技としては、内視鏡的粘膜切除術、ポリペクトミー、内視鏡的食道静脈瘤結紮術を行った。膵・胆管疾患に対しては、内視鏡的逆行性膵胆道造影・内視鏡的乳頭切開術、胆管ステント留置術等を行った。膵癌、胆管癌に対しては、TS-1、Gemcitabineを中心とした化学療法を行い、また進行胃癌に対しても積極的に全身化学療法を行った。肝疾患に対しては、病診連携を通じて慢性肝炎の抗ウイルス治療を積極的に行っている。B型慢性肝炎に対してエンテカビル投与を行い、C型慢性肝炎に対してPegIFN・Ribavirin・Telaprevir3者併用療法を8例に実施した。肝硬変に対しては、肝発癌抑制を目指したIFN治療、分枝鎖アミノ酸製剤等の栄養療法を積極的に行い、肝硬変患者のQOLおよび生存率の向上を目指している。肝細胞癌に対しては、放射線科医との緊密な連携の元、ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法（TACE）等の局所治療を実施するとともに、局所コントロール不能例、TACE無効例、血管侵襲例、転移例に対しては、分子標的治療薬を積極的に導入し、H24年度は5例に対してSorafenibの治療を行った。肝細胞癌に対して、局所療法、分子標的治療、全身化学療法、肝動注療法による集学的治療を行いQOLおよび生存率の向上を目指している。

文責 中村秀次

2012年4月～2013年3月－消化器内科症例数

表1 消化器内科の主な入院治療疾患

	疾患名	件 数	平均在院日数
1	結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	138	1.9
2	肝および肝内胆管の悪性新生物	77	23.4
3	腸の憩室性疾患	77	4.1
4	腸のその他の疾患	58	1.3
5	慢性ウイルス性肝炎	31	17.0
6	胆石症	22	17.1
7	アルコール性肝疾患	19	40.4
8	潰瘍性大腸炎	18	10.0
9	結腸の悪性新生物	17	1.8
10	膵の悪性新生物	15	46.7

表2 内視鏡件数

	件 数
上部消化管内視鏡検査	2,235
下部消化管内視鏡検査	1,037
内視鏡的治療	195
ERCP(EST)	41

表3 肝炎・肝癌の治療

	件 数
C型慢性肝炎のPegIFN/Ribavirin療法(Telaprevir/PegIFN/RBV療法)	21(8)
肝癌の肝動脈化学塞栓療法(TACE)	63
肝癌のラジオ波焼灼療法(RFA)	10
肝癌に対する分子標的治療(Sorafenib)	5

表4 膵・胆管癌の治療

	件 数
進行膵癌・胆管癌に対する全身化学療法	5

総合内科（内分泌・代謝・糖尿病内科、リウマチ科、アレルギー疾患内科）

1. スタッフ

副院長兼部長 笠山宗正：担当部長 小瀬戸昌博、医長 森田真也、副医長 宇都佳彦
専攻医：出口令子、藤本康介

<兼任>

佐藤文三(名誉院長)、三木俊治(救急診療科・臨床研修部)、住谷 哲(予防医学センター)
泉由紀子(予防医学センター)、鈴木真優美(予防医学センター)

<学会認定医および専門医の数>

日本内科学会認定内科医	10名	日本リウマチ学会専門医	1名
日本内科学会総合内科専門医	5名	日本アレルギー学会専門医	1名
日本内分泌学会専門医	4名	日本呼吸器学会専門医	1名
日本糖尿病学会専門医	3名		

2. 診療活動

内分泌疾患・糖尿病・関節リウマチ・膠原病・感染症を中心として専門性の高い診療を行っている。

①入院患者診療

1日の入院患者数の平均は34名であり、昨年度に比べて3名増加した。

糖尿病患者の入院件数は141件(このうち1型糖尿病は13件)あった。最近では、2型糖尿病患者であっても著しい高血糖とケトーシスを呈し入院治療となる症例が増加している。その多くは強化インスリン療法により高血糖を是正した後、経口血糖降下薬や食事療法のみで管理できる症例であった。日本看護協会糖尿病看護認定看護師と糖尿病療養指導士の資格を有する医療技能職スタッフとともに、週4回糖尿病教室を開催している。

内分泌疾患については、下垂体疾患の入院が22件、原発性アルドステロン症やクッシング症候群などの副腎疾患の入院が16件あった。

全身性エリテマトーデス、多発性筋炎などの膠原病患者の入院は14件あり、昨年度より6件増加した。また、生物学的製剤による治療を中心とした関節リウマチ患者の入院も18件に増加した。さらに、喘息重発作による入院が10件あった。

そのほか、呼吸器感染症81件、急性腎盂腎炎9件、感染性胃腸炎21件、敗血症15件など感染症の入院も多数あった。

②外来患者診療

1日の外来患者数の平均は116名、他院からの紹介患者件数は年間で563件であり、昨年度より、各々8名、51件増加した。

糖尿病患者に対する外来インスリン導入や関節リウマチ患者に対する生物学的製剤による治療も積極的に実施している。

文責 笠山宗正

<外来診療日程>

	月	火	水	木	金
午前	笠山 小瀬戸 宇都	佐藤 三木 森田	佐藤 笠山 吉田	笠山 三木 宇都	小瀬戸 藤本
午後	笠山 森田 末村	佐藤 出口	佐藤 小瀬戸 泉	笠山 住谷	佐藤 鈴木

2012年4月～2013年3月－総合内科の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
2型糖尿病	128	18.2
呼吸器感染症(肺炎、誤嚥性肺炎など)	81	18.5
下垂体疾患(下垂体機能低下症、クッシング病、先端巨大症など)	22	9.0
感染性胃腸炎	21	6.0
関節リウマチ	18	17.3
副腎疾患(クッシング症候群、副腎腫瘍、褐色細胞腫、アルドステロン症など)	16	13.4
敗血症	15	28.5
膠原病(全身性エリテマトーデス、多発筋炎、血管炎など)	14	23.6
1型糖尿病	13	18.0
喘息発作重積状態	10	12.4

血液・化学療法内科

1. スタッフ

部長 中川雅史：石河 純、川上 学

2. 診療活動

急性白血病・慢性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫などの血液悪性疾患および、溶血性貧血・再生不良性貧血・特発性血小板減少性紫斑病など、血液疾患の全般的に診察にあたっている。

特に、再発・難治性悪性リンパ腫や多発性骨髄腫に対する自己末梢血幹細胞移植併用大量化学療法に積極的に取り組んでいる。スタッフ1名減の状況にもかかわらず、2012年度も4例施行し、累積の移植数は83例、移植数90に達した。これは日本造血細胞移植学会の登録数からみて、大阪府下第8位の実績である。

また、同種骨髄移植に関しては、移植は関連の大阪大学や大阪成人病センターで行う連携体制が構築できている。すなわち、同種移植医療に関してもスタッフ全員が十分な経験を有しており、移植前の管理・移植病院へのスムーズな引き継ぎ・移植後の種々の合併症のケアなど、すべての面で診療を行なっている。

一方、高齢化にともない増加傾向を認める骨髄異形成症候群に対しても、地域の血液専門診療科として、輸血療法をはじめとする在宅・通院治療、さらに感染症合併時などの緊急対応にも積極的に取り組んでいる。また、出血症状にて緊急対応を要することの多い血小板減少性紫斑病の紹介などにも迅速に対応している。

文責 中川雅史

2012年4月～2013年3月－血液・化学療法内科の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
悪性リンパ腫	86	36.5
急性骨髄性白血病	29	44.7
多発性骨髄腫	19	46.2
骨髄異形成症候群	16	21.6
特発性血小板減少性紫斑病	14	46.2
急性リンパ性白血病	8	55.6
肺炎、病原体不詳	7	15.1
再生不良性貧血	5	43.0
悪性免疫増殖性疾患	3	22.0
無顆粒球症	3	27.0

神経科・精神科

1. スタッフ

部長 江川 功：高橋 励、木藤友実子

2. 診療活動：当科の診療活動は外来（専門外来を含む）、自科入院、他科入院患者の診療の3つである。

一般外来では、うつ病、パニック障害、適応障害などの一般的な加療のほか、身体表現性障害、強迫性障害、全般性不安障害などの神経症圏のものが多い。また時代を反映して認知症の患者の受診が増えている。専門外来は一般診療の時間枠内で行われており慢性疲労症候群、てんかん、睡眠障害等に対応している。外来での心理分野では、認知症スクリーニング、ストレス測定バッテリー、人格障害スクリーニング、うつ病の重症度評価などを行っている。また患者の希望に応じ一部症例ではカウンセリングも施行している。

自科入院は精神科を標榜する一般病棟での診療であり、入院患者の内訳は表に示す通りうつ病が中心となっているが、神経症圏、てんかん及び一部軽症の統合失調症の患者の入院も受け入れている。これは当科を受診する患者の傾向を一部反映していると考えられるが、一方で、精神病圏、認知症を含む症状性・器質性精神障害は入院よりも外来における診療が中心となっている。

近年入院加療を行っている総合病院精神科の減少が続いており、診療所からの紹介患者の受け入れが従来よりも高まっている。社会的要因や疾患の特徴などから単科での入院が困難なケースにはできる限り対応するように心がけている。また外来部門でも縮小や閉鎖する病院は本年も増加傾向にあり、外来数は年々増加しており、紹介以外は受け入れが困難な状態になっている。

院内の他科入院患者の診察依頼は共観および往診の形態で行われており、適応障害、せん妄、身体化病態などへの対応が中心となっている。せん妄は高齢者の入院が増えていることから増加傾向にあり、対応マニュアル等を作成することも必要かもしれない。またがん治療センターの活動の一環として緩和ケアが重要となってきたが、当科でも積極的に高橋、丸山（臨床心理士）を中心に取り組んでいる。予防センターと協力して企業のメンタルヘルス等にも取り組んでおり、企業のストレスチェックが法令化されることが予想されるのでこの分野での活動も更に推し進めていく必要がある。また院内の職員のストレスに対する対応もこれからの検討課題となるかもしれない。

文責 江川 功

2012年4月～2013年3月－神経科・精神科の疾患(上位のみ)

疾患名	件 数	平均在院日数
うつ病エピソード	53	49.1
双極性感情障害	6	74.2
不安障害	5	42.4
身体表現性障害	4	73.8
神経症性障害	4	75.0
神経系のその他の変性疾患	3	58.7
てんかん	3	49.7
統合失調症	2	61.0
強迫性障害	2	28.5
摂食障害	2	7.5
末梢神経系のその他の障害	2	114.5

小児科

1. スタッフ

部長 山根秀一：植田 仁

2. 診療活動

- (a) 常勤医師数は変わりなかった。
- (b) 年間入院患者数は延べ1,762人で平成23年（2011年1月1日から2011年12月31日。以下同じ）に比して延べ423人（19.4%）減、年間外来患者数は延べ10092人で平成23年に比して延べ868人（7.9%）減、救急受診者数は延べ311人、年間入院患者死亡数は0人であった。
- (c) 総入院件数は296件で平成23年に比して45件（13.2%）減、そのうち小児科入院した新生児は78件で、平成23年に比して2件（2.5%）減であった。
- (d) 一般小児科入院は例年通り、大半が感染症によるものであった。川崎病は7件で、すべて超大量ガンマグロブリン療法が著効した。他に目立ったところでは胃腸炎関連けいれんが5件、ITPが4件（1人）、ネフローゼ症候群が3件（2人）、肥厚性幽門狭窄症が2件、Leigh脳症が2件（1人：検査入院）、ヘノッホ・シェーンライン紫斑病が2件、PRSP髄膜炎が1件、先天性神経筋疾患疑いが1件、点頭てんかんが1件、右急性乳様突起炎が1件であった。
- (e) 一般小児科入院のうち高次医療機関へ転医となったのは4件で、肥厚性幽門狭窄で入院したが、入院後に発作性上室性頻拍に気づかれたものが1件、2歳の急性穿孔性虫垂炎が1件、生後9か月の熱傷が1件、二分脊椎の手術後にVPシャントが留置してある児で気管支炎により呼吸不全を生じていると考えられたものが1件であった。
- (f) 総出生数は482件で平成23年に比して35件（7.3%）増であった。そのうち約16.2%に当たる78件が小児科入院となった。仮死および呼吸障害による入院が39件（50.0%）と平成23年に比して7件増加した。21 trisomyの出生は1件であった。
- (g) 高次医療機関へ新生児搬送になったのは6件（8.1%）で、完全大血管転位が1件、APGARスコア2/3/5の重症新生児仮死が1件、新生児気胸で管理中に酸素飽和度の上下肢の乖離に気づかれ、新生児遷延性肺高血圧症であったものが1件、呼吸障害と複雑心奇形を疑われたが新生児一過性多呼吸＋心室中隔欠損であったものが1件、低酸素血症と内臓逆位を認め先天性心疾患が疑われたものが1件、21 trisomy疑い＋低酸素血症を認め、転送先で21 trisomy＋動脈管開存＋肺高血圧と診断されたものが1件であった。

文責 山根秀一

2012年4月～2013年3月－小児科の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
肺炎	62	5.2
急性細気管支炎	41	5.0
ウイルス性およびその他の明示された腸管感染症	20	4.2
喘息	12	4.5
感染症と推定される下痢および胃腸炎	10	4.6
部位不明の細菌感染症	7	5.4
結節性多発性動脈炎および関連病態	7	9.0
紫斑病およびその他の出血性病態	6	9.5
その他の細菌性腸管感染症	5	4.8
部位不明のウイルス感染症	5	5.2
急性鼻咽頭炎	5	5.4

2012年4月～2013年3月－新生児の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
その他および詳細不明の原因による新生児黄疸	18	4.1
胎児および新生児に特異的な一過性糖質代謝障害	14	8.1
新生児吸引症候群	11	8.2
新生児の呼吸窮促迫	9	7.1
出産時仮死	7	7.6
周産期に発生した間質性気腫および関連病態	5	5.4
新生児の哺乳上の問題	3	5.3
周産期に発生したその他の呼吸器疾患	2	8.0
周産期に特異的なその他の感染症	2	7.5
心臓のその他の先天奇形	2	1.0

消化器・一般外科

1. スタッフ

部長 藤川正博：黄 泰平、森田哲史、吉良俊彦

2. 診療活動

2012年度の手術件数は、全身麻酔206例、腰椎・硬膜外麻酔8例、局所麻酔22例であった。

主な悪性腫瘍手術は、胃癌23例、結腸癌26例（内7例が腹腔鏡手術）、直腸癌18例（内2例が腹腔鏡手術）、肝癌7例、であった。結腸癌の腹腔鏡補助下手術が増加している。今後は、胃癌にも腹腔鏡手術の導入を予定している。

主な良性疾患手術は、胆石症46例（内45例が腹腔鏡手術）、ソケイヘルニア44例、虫垂炎21例（内7例が腹腔鏡手術）、痔核・痔瘻5例であった。胆石症では、クリップなどの異物を遺残させない上質の腹腔鏡下胆嚢摘出術を原則として行っている。

術後合併症に対する手術は3例で、内訳はバイパス術が2例、メッシュ除去が1例であった。今後は一層、合併症手術の減少に努めなければならないと考えている。

また、他科からの要請に対しては万難を排して、協力する体制の構築に努めたい。

文責：道清 勉

2012年4月～2013年3月－消化器・一般外科の疾患(上位のみ)

疾患名	件 数	平均在院日数
胃の悪性新生物	67	21.7
胆石症	47	13.5
鼠径ヘルニア	44	10.3
結腸の悪性新生物	41	28.8
直腸の悪性新生物	32	21.3
悪性新生物治療後の経過観察検査	27	1.4
急性虫垂炎	25	9.8
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	19	2.3
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	18	16.2
腸の憩室性疾患	16	7.6

乳腺外科

1. スタッフ

部長 西田 幸弘：橘高 信義

2. 診療活動

1) 紹介

平成20年10月に開設した。平成22年4月より大阪大学乳腺内分泌外科より医局員の派遣を得て、2名体制となる。

2) 診療方針

乳癌検診に関しては、マンモグラフィーと超音波検査を初診当日に施行し即日結果を出すことで、正常の方は1日で診察終了となる。腫瘍のある方は当日中に細胞診等を施行し1週間後には結果を出すシステムである。治療に関しては、専任のがん化学療法看護認定看護師常駐の外来化学療法センターにて、術前・術後ともに通院での外来化学療法を行う。専任医師による放射線療法は、温存療法後、再発、転移すべてに対応する。手術に関しては術前化学療法が必要かの判断後、乳房温存術、全摘術を施行し、必要に応じて再建術にも対応する。再建術は大阪大学形成外科医局の協力のもと医員を得て一期的同時再建を施行している。RI+色素法によるセンチネルリンパ節生検でより確実な診断を目指す。診断部門では微細な石灰化に対する診断としてマンモトーム生検も実施している。

3) 統計

外来化学・分子標的療法は80～100例/月、超音波・マンモグラフィは約160例/月、手術数は60例（うち一期的同時再建1例）、ステレオガイド下マンモトーム生検は 12例/年。

文責 西田幸弘

2012年4月～2013年3月－乳腺外科の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
乳癌	111	13.8
乳腺微細石灰化症	18	2.0

整形外科

1. スタッフ

部長 稲岡 正裕：三木 宏真(平成24年12月31日まで)、友永 真人
 糸原 朋信(平成24年4月1日～平成25年3月31日)
 専攻医：川本 匡規(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

2. 診療活動

- a. 外来診療は、初診担当医1名、再診担当医1名の2名体制とした。平均外来患者数は1日約70名であった。変形性関節症や腰痛症、頸肩腕痛などに対して、薬物療法、理学療法、物理療法、装具療法、ブロック療法などの保存的治療を行った。義肢装具は火、木、金曜日の午前を作製日とした。平成24年4月1日からスタッフ5人体制となり、水曜日の外来業務を再開した。平成25年1月1日からスタッフ4人体制となったが、水曜日の初診外来業務は継続とした。
- b. 専門外来は、金曜日の午後に脊椎外来（担当：稲岡）火曜日の午後に関節外来（担当：三木、糸原）を継続し、特に専門的な対応を要する患者の診療や術後経過観察などを行った。木曜日の午後に身障診断等に関する診察を行った。
- c. 入院診療において、平成24年度の手術件数においては、総数は219件であった。内訳は、脊椎疾患、関節疾患、外傷、及びその他に分類すると、脊椎疾患は50件、その内訳は椎弓形成術などの頸椎疾患が11件、椎弓切除術や後方進入椎体間固定術、脊椎短縮固定術など胸腰椎疾患が39件であった。関節疾患においては、人工膝関節置換術23件、人工股関節置換術4件、人工骨頭置換術22件、ガンマーネイルなど骨接合術12件であった。四肢の骨折に対する骨接合術や鋼線固定術61件、手根管症候群や肘部管症候群など末梢神経に対する手術や腱鞘炎に対する腱鞘切開など21件、腫瘍性疾患に対する切除術や生検術21件であった。
- d. リハビリテーション室では、リハビリ診療を整形外科がバックアップした。理学療法、作業療法とともに整形外科的疾患に充分な対応ができるように配慮し、その件数は本年も昨年を上回るものとなった。
- e. 整形外科における診療及び学術に関する定期的会議としては、抄読会は毎週金曜日早朝、術前検討会議は毎週金曜日午後に行った。リハビリテーション室と整形外科の合同カンファレンスは第一第三金曜日に行った。

文責 稲岡正裕

2012年4月～2013年3月－整形外科の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
腰部脊柱管狭窄症	55	29.3
大腿骨骨折	36	44.8
膝関節症	23	33.6
腰椎および骨盤の骨折	22	35.5
下腿の骨折(足首を含む)	19	33.2
前腕の骨折	15	15.2
肩および上腕の骨折	14	27.6
整形外科的経過観察ケア	12	10.7
多部位の骨折	9	50.3
その他の変形性脊柱障害	8	37.9

皮膚科

1. スタッフ

部長 東山真里(日本皮膚科学会認定皮膚科専門医)：平野亜由子(～9月)

高橋玲子(日本皮膚科学会認定皮膚科専門医)

専攻医：林 美沙、岡田みどり

2. 診療活動

a. 特色

西区では数少ない重症皮膚疾患の入院治療が可能な施設である。乾癬やアトピー性皮膚炎、円形脱毛症、尋常性白斑などの難治性疾患、皮膚外科、小児皮膚疾患、高齢者皮膚疾患、分子標的抗がん剤による皮膚障害及び皮膚疾患全般について質の高い医療の提供を目指す。QOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。

b. 症例数・治療・成績

(外来) 2012年の外来患者数は1日平均112名。紹介患者数 45名/月。

専門外来：【乾癬外来】月平均新患数は10名で再診は延べ300名余り。(1.)1.外用療法 2. 光線療法(入浴PUVA療法またはナローバンドUVB照射-全身型、エキシマライト) 3. 内服療法(レチノイド、シクロスポリンA) 4. 生物学的製剤も導入。これらより個々の患者に最適な治療を選択。

(2.) 扁桃炎・高脂血症・糖尿病など乾癬を悪化要因につき精査。(3.) 重症、難治例にはアダリムマブ、インフリキシマブ、ウスチキヌマブなどの生物学的製剤を積極的に導入し特に関節症性乾癬にも奏効。整形外科医と診断と治療につき連携。入院、外来とも可能。(4.) 療養を支援する場として大阪大学皮膚科学教室と協力して大阪乾癬患者友の会の事務局も務める。【アトピー外来】重症例では光線療法やネオオラル療法も併用。悪化原因の精査、スキンケア指導、関連科との連絡を密に総合的に診療を行う。【皮膚外科外来】良性悪性腫瘍、ケロイド、褥瘡、糖尿病性壊疽などは形成外科医と協力し治療。年間手術件数246件(全身、腰椎、麻酔手術含む)皮膚生検数 350件/年

*医療設備 薬浴室(外来、病棟とも)全身型紫外線照射装置(UVA,UVB,ナローバンドUVB)、エキシマライト*外来診療 主治医制で再診は予約制。原則3診体制で診察。初診外来あり(月、水曜は東山担当)。再診外来は月～金(午前)。専門外来：乾癬外来は火(午後)、木(午前)、予約制。アトピー外来は木・金(午前)。

*入院 新入院患者数は年間234名、1日平均10名で、帯状疱疹(86名)、重症乾癬(19名)、蜂か織炎(15名)、薬疹(10名)、多型紅斑(6)丹毒(6名)皮膚良性腫瘍(5名)など

c. 学術活動

論文：1編 学会発表および講演会：23演題

日本皮膚科学会大阪地方会、日本乾癬学会などに発表。

文責 東山真里

2012年4月～2013年3月－皮膚科の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
带状疱疹	86	9.9
乾癬	19	18.6
蜂巣炎	15	11.7
摂取物質による皮膚炎	10	10.5
ヘルペスウイルス感染症	7	12.6
丹毒	6	8.5
多形紅斑	6	13.8
良性脂肪腫性新生物(脂肪腫を含む)	5	9.6
類天疱瘡	5	40.4
アトピー性皮膚炎	5	21.2
皮膚および皮下組織の毛包嚢胞	5	4.8

泌尿器科

1. スタッフ

副院長兼部長 黒田 昌男：福井 辰成、花房 隆範、福本 亮

2. 診療活動

- a. **膀胱癌**に対する外科的治療は、経尿道的電気切除術96例、根治的膀胱全摘除術8例（自排尿型代用膀胱形成術2例・回腸導管造設術6例）に対して行った。8例に多剤併用全身化学療法を施行した。膀胱癌の治療あるいは膀胱内再発予防としてBCG膀胱内注入療法を53例に施行した。膀胱固有筋層に浸潤する膀胱癌に対しては、再発した場合致命的となる実験的な膀胱温存療法ではなく、標準的治療である根治的膀胱全摘除術を行い、尿路変向としてQOLの良い自排尿式代用膀胱形成術を多く行うようにしている。
- b. 前立腺生検を114例に行い、新たに**前立腺癌**と診断された63症例に対して、抗男性ホルモン療法33例、前立腺全摘除術（ミニマム創内視鏡下）5例、放射線治療13例を行った。10例は悪性度が低く、余命に影響を与えない小さい癌として待機療法（治療せず経過観察のみ）とした。1例は併発していた膀胱癌のために膀胱全摘除術を行った。（1例は転院）70歳以上の症例に前立腺全摘除術を行うと、尿失禁を生じやすいことから、全摘は原則として70歳未満の症例に対して行うことにしている。前立腺外に浸潤する癌に対しても、本邦では抗男性ホルモン療法を行った後に前立腺全摘除術がよく行われているが、再発率が高く、癌が残るのみならず尿失禁も残るため、前立腺全摘除術は癌が前立腺内にとどまっている病期のみに限るようにしている。抗男性ホルモン療法の副作用を軽減し医療費も節約できる間歇的抗男性ホルモン療法を取り入れている。
- c. **前立腺肥大症**に対する外科的治療として、経尿道的前立腺切除術（経尿道的核出術を含む）17例、前立腺被膜下摘除術7例を行った。腫大が高度な場合には、バイポーラ電気メスを用いた経尿道的核出術（TUEB）を主に行っている。
- d. **尿路結石**（腎結石、尿管結石）に対して、入院して体外衝撃波碎石術（ESWL）を行ったのが50例、外来通院で65例に行っている。経尿道的膀胱碎石術を4例に、経尿道的尿管碎石術を6例に行った。
- e. 経尿道的手術以外の**内視鏡手術**を14例に行った。腎癌に対する腎摘除術4例、腎部分切除術1例、腎盂尿管癌に対する腎尿管全摘除術6例、副腎摘除術3例である。手術時間はやや延長するが、開腹手術に比べて術後の鎮痛剤の投与量が著しく減量でき、患者様のQOLが良好で、術後の回復期間が短く、在院日数も短縮できる。現在、対象としているのは、腎悪性腫瘍、腎盂尿管悪性腫瘍、水腎症、尿管狭窄、副腎腫瘍などである。腎悪性腫瘍、後腹膜腫瘍で、開腹手術を行った症例は、各々6例、1例で、大きな悪性腫瘍以外は内視鏡手術を行うことにしている。
- f. 高カルシウム血症を呈する副甲状腺機能亢進症に対して、副甲状腺摘除術を3例行った。
- g. 慢性腎不全症例に対して血液透析を行っている。7例に内シャントを造設し、血液透析療法の導入を行った。

文責 黒田昌男

2012年4月～2013年3月－泌尿器科の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
膀胱の悪性新生物	109	12.6
前立腺の悪性新生物	88	10.3
前立腺肥大症	38	7.9
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	29	2.8
閉塞性尿路疾患および逆流性尿路疾患	22	4.2
腎結石および尿管結石	15	5.7
急性腎盂腎炎	12	12.4
前立腺の炎症性疾患	9	7.3
腎盂を除く腎の悪性新生物	8	12.1
その他の部位の続発性悪性新生物	8	23.0

産婦人科

1. スタッフ

副院長兼部長 船度孝郎：佐伯典厚、大塚博文、高山敬範、羽田野悠子
橋本奈美子、小玉美智子(～6月)、吉見佳奈
専攻医：尾上昌世、祝 小百合

2. 診療活動

今年度は愛染橋病院から高山医師・大阪日赤病院から羽田野医師・大阪大学から専攻医1年目の祝医師の3名がスタッフに加わり久々に10名でスタートした。しかし吉見医師が子育て支援制度を受け常勤嘱託医へ、また6月に内視鏡技術認定医の小玉医師がアメリカ留学の為退職。これらのことにより実質的には昨年度より戦力ダウンとなった。先進医療の腹腔鏡下子宮体部癌根治術は1症例実施した。今年度は新たに先進医療である腹腔鏡下仙骨腫固定術(LSC)の認可をとるために当院倫理委員会の承認を受け厚生局に認可を受けるべく手術を行っている。手術総数は947件(産科手術182件)を実施し過去最高件数となった。また地域医療ではニッセイ産婦人科病診懇話会を6月にANAクラウンホテルで開催し、多数の診療所の先生方と密に意見交換を実施した。また第2回ニッセイ産婦人科内視鏡研究会を開催し、平地会の若手医師の内視鏡技術指導を行った。

a) 産科

分娩件数482 帝王切開術71件 帝王切開率14.7%

b) 婦人科

内視鏡手術

#腹腔鏡下手術497件

TLH:132 TLM:99 LAM:46 卵巣嚢腫:136 内膜症性嚢腫:70

子宮体癌根治術(先進医療):1 その他:11

#子宮鏡下手術(TCR):90

開腹手術

単純子宮全摘術:17 筋腫核出術:1 広汎子宮全摘術:7 卵巣癌:15(LPMを含む)

子宮体部癌:6 C/S:71 その他

経膣手術

円錐切除術:83 子宮内容清掃術:111 その他

骨盤臓器脱

TVM:27 その他:5

文責 船度孝郎

2012年4月～2013年3月－産婦人科の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
単胎自然分娩	358	7.1
子宮平滑筋腫	319	7.9
卵巣の良性新生物	131	7.7
子宮内膜症	92	7.7
女性性器のポリープ	49	3.7
卵巣の悪性新生物	41	16.9
既知の母体骨盤臓器の異常またはその疑いのための母体ケア	39	9.0
子宮頸部の悪性新生物	38	8.3
女性性器脱	38	11.0
受胎のその他の異常生成物	38	2.0

眼科

1. スタッフ

部長代行 島袋 幹子：瀬口 道秀

当院眼科は大阪大学眼科の関連病院で、医師：常勤2名、非常勤医師4名、看護師：3名（うち非常勤1名）、視能訓練士：4名（うち非常勤2名）、眼鏡士2名、医療事務1名の体制で、地域の基幹病院としての立場から眼科疾患全般に対応できるよう努めている。質の高い医療の提供と患者様に満足していただける説明・啓蒙を診療指針に掲げている。また病診連携を積極的に進めており、オープンシステムも推進し、かかりつけ医との連絡を密に取りながら、診療を行っている。

2.

a. 全般

一般的な眼科疾患の診断・治療、特に白内障手術、角膜移植手術、緑内障手術、網膜硝子体手術など幅広く行っている。2012年度ののべ手術件数は白内障649件・緑内障2件・網膜硝子体3件・角膜移植術10件・眼瞼形成手術4件、など合計673件だった。

b. 白内障手術は主として一泊入院体制を中心に、あるいは日帰りで、患者様の希望に沿った入院期間を設定している。術式は99%以上が角膜小切開超音波白内障手術＋foldable眼内レンズ挿入術（切開創2.2～3mm）で、重篤な術後合併症も認めなかった。LASIK術後の方の白内障手術も可能である。

c. 角膜移植術については、輸入角膜による予定入院の手術体制をとり、我が国のドナー角膜の提供を待つ場合と異なり、ある程度ご希望に合わせた日程で手術の施行が可能である。角膜白斑、水疱性角膜症、角膜変性症などを主な適応とし、一般的には2週間程度の入院で、全層角膜移植、表層角膜移植、上皮移植、角膜内皮移植（DSEAK）などを症例に応じて施行し、重篤な合併症も認めていない。角膜内皮移植においてケラトームで2度切除するUltra-thin-DSAEKを日本で初めて取り組んだ。

d. 緑内障では、眼圧日内変動測定入院の必要な症例では適宜施行し、眼圧日内変動パターンに応じて個々の患者様に最適な、24時間単位の質の高い眼圧コントロールを心がけている。閉塞隅角緑内障には超音波生体顕微鏡（UBM）による隅角閉塞機序の診断を積極的に追加し、開放隅角緑内障には選択的レーザー線維柱帯形成術（SLT）も積極的に施行している。手術治療が必要な症例には主にトラベクトミーを選択し、術後合併症も重篤なものを認めていない。

e. 網膜・硝子体疾患については、増殖硝子体網膜症疾患、特に黄斑浮腫例（糖尿病性、網膜静脈閉塞など）に対して積極的に手術治療を選択し、大部分の例では網膜機能の改善を得ている。

f. 眼瞼痙攣症例にボトックス注射を、加齢性眼瞼下垂症例に手術加療を行っている。

文責 島袋幹子

2012年4月～2013年3月－眼科の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
白内障	521	3.0
角膜のその他の障害	16	21.4
緑内障	5	7.4
体内プロステシス、挿入物および移植片の合併症	5	4.8
眼球および眼窩の損傷	3	10.3
移植臓器および組織の不全および拒絶反応	3	14.7
眼瞼のその他の障害	3	1.3
網膜の障害	2	16.5

耳鼻咽喉科

1. スタッフ

部長代行 赤羽 誉：細野研二、今泉哲宏（～9月）、岡安 唯（4月～）
専攻医：尾崎大輔（10月～）

2. 診療活動

平成24年4月（谷口から岡安）と10月にスタッフの勤務交代があった。従来からの急性炎症疾患（咽喉頭炎、扁桃炎、中耳炎など）、慢性疾患（副鼻腔炎、めまい、難聴など）、頭頸部腫瘍に対する集学的治療を行い、最近では耳科領域の手術にも積極的に取り組み、1年間で施行した手術は270例（全身麻酔182例、局所麻酔88例：前年度とほぼ同数、ここ数年間は250～270例/年を推移）であった。

- a. 外来診療 月～金曜日の午前の一般診療に加えて、午後の専門外来では、頭頸部腫瘍は赤羽、補聴器外来は細野が継続し、めまい外来は谷口から岡安が引き継いだ。また、4月より開始した甲状腺外来は今泉が担当し、退職に伴い尾崎により引き継がれた。火曜日は以前同様に終日手術日のため、手術担当医以外の1名で初診患者の診療を行った。
- b. 入院診療 外来通院で対応困難な急性炎症疾患（摂食困難、膿瘍形成、高度腫脹など）の緊急入院治療を行い、顔面神経麻痺・突発性難聴に対するステロイド治療では、糖尿病などの合併を有する場合には、入院治療を必要としたが、週末のみ短期点滴目的の入院が顔面神経麻痺11例、突発性難聴26例含まれていた。手術治療では、習慣性扁桃炎や慢性副鼻腔炎などの炎症性疾患、慢性中耳炎に対する鼓膜・鼓室形成術、さらに頭頸部腫瘍領域の唾液腺・甲状腺腫瘍の手術、咽喉頭癌に対する化学・放射線治療、また癌摘出後の再建手術も3例に行い無事退院された。ここ最近では、積極的に耳科領域の手術にも取り組んだ結果、昨年度と比較して手術件数増加となり、今後、さらなる増加に取り組みたい。
- c. 特殊検査 めまい症に対する平衡機能検査、赤外線眼振計、補聴器適合検査、嚥下造影検査
頭部腫瘍（甲状腺、唾液腺、リンパ節など）に対するエコー下穿刺細胞診
- d. 主な手術治療

口蓋扁桃摘出術	50例
鼻内内視鏡手術	43例（60側）
鼻中隔矯正術	11例
鼓膜・鼓室形成術	18例（19側）
喉頭微細手術	17例
唾液腺腫瘍手術	14例
甲状腺・副甲状腺手術	14例
頭頸部癌再建手術	3例
喉頭全摘・部分切除	4例
口腔・咽頭癌に対する手術	2例
頸部郭清術	9例（12側）

文責 赤羽 誉

2012年4月～3月（退院）－耳鼻咽喉科の入院治療（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
扁桃・アデノイドに対する手術治療	55	7.4
急性難聴に対する薬物治療	51	5.1
急性扁桃炎・扁桃周囲膿瘍に対する消炎治療	44	6.2
めまい症状に対する薬物治療	32	7.5
慢性副鼻腔炎に対する手術治療	37	9.5
慢性中耳炎に対する手術治療	23	9.6
顔面神経麻痺に対する薬物治療	18	4.8
甲状腺・副甲状腺に対する手術治療	12	13.3
唾液腺腫瘍に対する手術治療	13	10.7
頭頸部癌（甲状腺癌除く）に対する手術・放射線・化学療法	34	50.1

放射線科

1. スタッフ

部長 三谷 尚：岩澤 仁、橋本尚子
(放射線技師長) 在津裕明

2. 診療活動

当院放射線科は、腹部超音波検査、消化管造影、CTやMRIなどの画像診断はもとより、放射線治療、各種IVRを施行している。三谷 尚が日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本IVR学会専門医、検診マンモグラフィー読影認定医、岩澤 仁は日本医学放射線学会放射線診断専門医、検診マンモグラフィー読影認定医、日本がん治療認定医機構認定医、日本がん検診診断学会認定医、日本IVR学会専門医、日本肺がんCT検診認定医機構認定医、日本脈管学会専門医、日本人間ドック学会認定医である。

3. 平成24年度（2012年4月1日－2013年3月31日）

1) 各種IVR施行件数

i) vascular IVR ; 69件

肝細胞癌などの悪性肝腫瘍のTACE 60件、腹腔内動脈瘤塞栓術 1件、止血目的の動脈塞栓術 2件、経皮経門脈塞栓術 1件、肝動注 5件

ii) nonvascular IVR ; 59件

臓器生検 ; 23件

膿瘍ドレナージ術 : 7例、胆嚢ドレナージ術 ; 2件

PTBD ; 10件、胆管ステント留置術 : 3件

RFA ; 9件 神経ブロック : 5件

2) 放射線治療

症例数 ; 112例

症例内訳

頭頸部 13例

乳癌 38例

食道癌 3例

肺癌、縦隔腫瘍 : 2例

肝、胆道系悪性腫瘍 1例

前立腺癌、膀胱癌 10例

精巣腫瘍 : 2例

悪性リンパ腫、血液悪性疾患 : 5例

子宮、卵巣悪性腫瘍 2例

直腸癌、肛門腫瘍 : 3例

転移性骨腫瘍などその他 33例

文責 三谷 尚

麻酔・緩和医療科

1. スタッフ

部長 川原玲子：花田留美、奥野聡子、山崎恭子、玉井 裕、本庄郁子
専攻医：清水梨江

2. 診療活動

a. 当科の特徴

手術時の麻酔を担当している。全身麻酔はもちろん脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・ブロック等も行い、重症患者の場合局所麻酔でも全身管理に携わることもある。術中管理を行うにあたり、術前診察・術後診察を麻酔科外来で行っている。術前診察では手術前に問診・検査結果・診察を行って患者さんの全身状態の評価を行い手術に適した麻酔法を選択する。麻酔法およびその合併症について患者さんに説明・承諾していただくため非常に重要である。術後疼痛管理も積極的に行っており、PCA (Patient Controlled Analgesia) 装置を用いて鎮痛薬を持続投与の上、疼痛時に患者さんがボタンを押して鎮痛薬を追加投与する方法を使用している。術後診察を麻酔科外来で行い鎮痛効果を評価し、硬膜外チューブ抜去まで行う。

ペインクリニックも麻酔科で行っている。ペインクリニック外来は毎日、透視下ブロックは月曜日午前に行っている。癌性疼痛管理にも携わり、緩和医療にも積極的に折り組んでいる。高周波熱凝固を用いた恒久ブロックや外来通院での麻薬の処方も行っており、痛みを和らげ日常生活に返すことに力を入れている。麻薬を持って海外旅行をされた患者さんもあり、痛みを取るだけでなく一歩踏み込んで患者さんが生活をエンジョイすることを積極的にサポートすることを目指している。平成20年2月より緩和ケアチームが発足し、回診とカンファレンスを開始した。緩和ケアの確立にも麻酔科は積極的に関わっており、副主治医として緩和ケアチーム依頼患者に対応している。

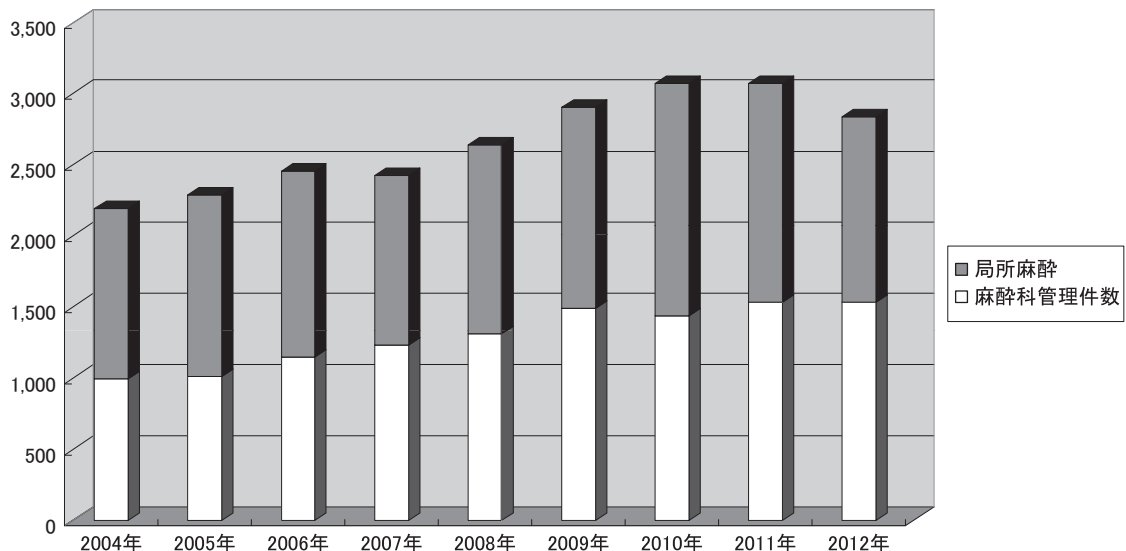
教育にも携わっている。平成16年4月より新研修医制度がスタートした。当院のプログラムではスーパーローテートという1年目の1～2ヶ月は麻酔科を研修する。そこで私たちも麻酔業務の傍ら、研修医を教育する。常に1人から2人の研修医を預かるのはなかなか大変である。ただこうして若い人たちが増えたことで現場が活気付いたことは思わぬメリットだった。ICLS講習会や緩和ケア研修会も開催し、一緒に学んでいる。一般病院で育つ医師像を模索しつつ、教育活動を続けていきたいと考えている。

b. 平成24年度の診療実績

手術件数はここ数年増加傾向で平成24年度は総手術件数2,810件、うち麻酔科管理手術件数1,530件となった。この手術件数を維持するだけでも麻酔科医の負担は顕著だが、全身麻酔のみならず重症例の全身管理など麻酔科医のニーズが高まっているのは全国的で、マンパワーが不足している。

ペインクリニックの平成24年度の外来患者総数は5,950人だった。ペインクリニックの新規患者様は他科あるいは他院からの紹介がほとんどで紹介元の科と共同で診療・治療に当たることが多くある。病診連携が最も必要な科とも言える。緩和の広がりの中で癌性疼痛に対する永久ブロックに積極的に取り組んでおり、高周波熱凝固・フェノール・アルコールなどを用いて癌の痛みを和らげたり、硬膜外ポートを埋め込み在宅でPCAによる鎮痛を計ることで、帰宅できた方もあった。放射線科の協力のもと開始しましたコーンビームCTガイド下内臓神経ブロックは、従来の方法に比し、安全性・確実性が向上した。また腹水濾過濃縮再静注法 (Cell-free and Concentrated Ascites Reinfusion Therapy: CART) も開始し、がん性腹膜炎による腹水の治療も開始した。他院でがんの治療中の患者さんのCARTも3日ほどの入院で始め、病病連携が深まっている。ブロックや腹水処理などの積極的な症状緩和に加え、デイグニティーセラピーなども取り入れ、患者さんのQuality Of Lifeを高めることを目標にしている。

文責 川原玲子



病理診断科

1. スタッフ

副院長兼部長 黒田昌男：臨床検査技師 3名

2. 病理検査の集計

平成24年度の病理検査の集計は表に示した通りで、病理組織検査は年間3,635件、術中迅速診断は117件で、免疫染色は383件であった。細胞診は年間9,633件で、婦人科系が6,238件と64.8%を占めた。病理解剖は14件であった。病理解剖内訳は、内科系12件（剖検率13.0%）、外科系2件であった。

CPCの開催は19回行われ、内容は下記の示す如くであった。

平成24年

- 196回 5月11日：間質性肺炎（循環器・神経内科）
- 197回 5月18日：胃癌+腎癌術後（泌尿器科・消化器内科）
- 198回 6月8日：C型肝炎+肝細胞癌（消化器内科）
- 199回 6月15日：原発性胆汁性肝硬変+脊椎椎間板炎（総合内科）
- 200回 7月13日：肺炎+肺気腫+前立腺癌（総合内科）
- 201回 7月20日：MDS+肺炎+DIC（血液・化学療法内科）
- 202回 8月10日：C型肝炎（消化器内科）
- 203回 9月14日：胃癌術後+敗血症性ショック（循環器・神経内科）
- 204回 9月28日：多臓器不全+DIC（総合内科）
- 205回 10月12日：敗血症+直腸癌+皮膚筋炎+両側腎細胞癌（総合内科）
- 206回 10月26日：肺炎+慢性心房細動+心不全（循環器・神経内科）
- 207回 11月16日：胃癌術後（消化器・一般外科）
- 208回 11月30日：膵癌+転移性肝癌+腹膜播種、間質性肺炎（消化器内科）
- 209回 12月21日：右胸水貯留+肺炎+胸膜炎疑い（総合内科）

平成25年

- 210回 1月18日：骨髄異形成症候群+腸腰筋膿瘍+急性腎不全+DIC（血液・化学療法内科）
- 211回 2月8日：膵癌+転移性肝癌+糖尿病+気管支喘息+腹水（消化器内科）
- 212回 2月22日：EBV関連Tリンパ球増殖症+血球貪食症候群（血液・化学療法内科）
- 213回 3月8日：敗血症性ショック+消化管出血+心不全（循環器・神経内科）
- 214回 3月22日：悪性リンパ腫+脳梗塞+肺炎（血液・化学療法内科）

文責 黒田昌男

	組織診				細胞診				
	入院	外来	件数（内視鏡）	術中迅速	免疫染色	剖検数	婦人科（ドック）	その他（ドック）	細胞診計
平成21年	2,184	1,106	3,290（674）	127	303	12	5,250（1,511）	4,717（1,495）	10,237
平成22年	2,395	1,326	3,721（692）	147	412	16	5,624（1,941）	4,354（1,140）	9,978
平成23年	2,291	1,317	3,608（598）	111	378	11	5,738（2,232）	3,452（0）	9,190
平成24年	2,322	1,258	3,580（717）	121	393	12	6,135（2,496）	3,570（0）	9,705
平成24年度	2,293	1,262	3,635（703）	117	383	14	6,238（2,555）	3,395（0）	9,633

救急診療科

1. スタッフ

部長 三木俊治：部長代理 中川 厚(循環器・神経内科副部長兼任)

★高橋秀明、★三上高司、★出口令子、★藤本康介(★内科専攻医)

▲駒田 暢(▲初期研修医 2 年目)

●小田晃義、●佐藤和明、●清水 綾、●豊田新一郎、●田中 智、●山元麻生
(● 初期研修医 1 年目)

2. 診療活動：平成23年 4 月より診療開始

a. 外来診療

内科初診患者の診察に加え、救急車にて来院された患者の初期対応を行い、必要に応じて各専門分野診療科や他院への紹介を行う。内科専攻医および、初期研修医のプライマリケア、内科 2 次救急に対する診療能力の向上を目指した研修プログラムの一環となっている。

2012年4月～2013年3月－外来診療患者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初診	男	37	32	29	59	42	54	51	52	52	104	82	67
再診	男	35	31	34	27	32	27	29	44	43	58	25	40
合計	男	72	63	63	86	74	81	80	96	97	162	107	107
初診	女	44	44	45	46	40	58	52	67	45	115	70	61
再診	女	29	40	45	33	21	27	41	66	50	68	40	39
合計	女	73	84	90	79	61	85	93	133	95	183	110	100
初診	小計	81	76	74	105	82	112	103	119	99	219	152	128
再診	小計	64	71	79	60	53	54	70	110	93	126	65	79
合計	小計	145	147	153	165	135	160	173	229	192	345	217	207

b. 入院診療

当科にて診察の後、入院の必要がある場合は、各専門分野診療科に紹介し、入院とすることを原則とするが、短期間での入院経過観察患者は一部当科での入院となる。

2012年4月～2013年3月－入院患者数:14名(内3名は入院後 転科)

憩室炎：3名、虫垂炎：(2名)、腎盂腎炎：1名、髄膜炎：1名、肝硬変：1名、胃潰瘍：1名、肺炎：1名、適応障害：1名、心不全：(1名)、急性肝炎：1名、気管支炎：1名
()：入院後転科

文責 三木俊治

がん治療センター

1. スタッフ

センター長 黒田昌男

[がん治療センター運営委員会

藤川正博(消化器・一般外科)、中川雅史(血液・化学療法内科)、江川功(神経科・精神科)、川原玲子(麻酔・緩和医療科)、石垣直也(放射線科)、野村浩英(薬剤部)、東郷豊子、小山佐知子、松浦三月(以上看護部)、許斐正啓(総合企画部)、川口義樹(あったかサポートセンター)、村上学(医事サービス部)]

[緩和ケアチーム チーム長 川原玲子(麻酔・緩和医療科)

回診メンバー 寺川直樹(産婦人科)、高橋励(神経科・精神科)、森真由子(薬剤部)、小山佐知子、國友実加(以上看護部)、本家裕子、松榮優子(以上あったかサポートセンター；医療ソーシャルワーカー)、丸山加奈(神経科・精神科：非常勤；臨床心理士)]

2. 活動

「大阪府がん診療拠点病院」として、引き続き各領域で内容の充実に取り組んだ。

・主たる業務

- ①がんに関する集学的治療の充実
- ②緩和ケアチームの運営、緩和ケアに関する院内外の教育研修
- ③がん治療に関する相談対応、情報提供
- ④がん登録の推進

・外来化学療法室

10床の外来化学療法室を有効に活用し、関係各科と連携しつつ、安全な治療を円滑に実施した。

・緩和ケア

緩和ケアチームによる介入、週1回の回診とカンファレンスの開催、月2回の各職種による定例勉強会・症例検討会の開催を行なった。

がん対策推進基本計画に定められているPEACEに基づく「日生病院緩和ケア研修会」を、講師・参加者とも近隣の他医療機関からも参加者を得て開催した。

全職員及び近隣医療機関職員を対象とした、緩和ケア講演会を開催した。

・レジメン登録

化学療法運営委員会と連携し、化学療法オーダーシステムを導入し、化学療法の安全確実な実施体制を構築した。

・相談支援

がん相談の充実と、図書情報コーナーの整備を進めた。

・がん登録

入院患者全件並びに、一部外来での登録を行った。

・広報

パンフレット、ホームページの更新を行った。

文責 黒田昌男

低侵襲医療センター

1. スタッフ

センター長 船渡 孝郎

〔低侵襲医療センター運営委員会〕

中川 厚(循環器内科)、藤川 正博(消化器・一般外科)、福井 辰成(泌尿器科)

大野 典子、瓜本 恵美子(看護部)、許斐 正啓、上垣内 健(事務)

2. 診療活動

このセンターの特色は各診療科の個々の協力がなければ発展していかない部門である。
今年度を振り返り次年度の活動はより広報に力をいれて診療実績の向上に努力したい。

a 治療部門（抜粋）

低侵襲手術件数：1,757件（2012年4月～2013年3月）

前年1,909件（2012年1月～2012年12月）

胃内視鏡検査：2,196件（2012年4月～2013年3月）

前年2,196件（2012年1月～2012年12月）

白内障手術：654件（2012年4月～2013年3月）

前年634件（2012年1月～2012年12月）

子宮鏡検査：164件（2012年4月～2013年3月）

前年164件（2012年1月～2012年12月）

b 学術部門

研修医・コメディカル対象：インターベーション治療バーチャル体験実施

内視鏡手術トレーニングルーム：通年での研修医への開放

c 広報（サービス）部門

【第2回ニッセイ産婦人科内視鏡研究会】：2012年10月

【低侵襲医療イベント2012】：2013年2月～3月

別館講堂にて講演会を実施

面談室前にて講演会の模様をビデオ放映にて実施する

【ニッセイ[夏休み子ども医療体験2012]】：2012年7月～8月

鏡視下手術にチャレンジコーナー設置

文責 船渡孝郎

糖尿病センター

1. スタッフ

センター長：笠山宗正：医師：住谷 哲、看護師 角南ちえ子、井上恵子、川瀬俊子
管理栄養士：出口暁子、松村寿美、伊藤有希子

2. 糖尿病センター運営委員会

院内の各診療科医師および各部署のスタッフからなる運営委員会において、当センターにおける業務内容を検討している。

＜運営委員会委員＞

笠山宗正、濱田偉文、中村秀次、江川功、林美沙、瀬口道秀、住谷哲、東郷豊子、角南ちえ子、
在津裕明、廣田将史、柳川友加、野村浩英、出口暁子、森本洋子、許斐正啓、坂本一郎

3. 年間活動

糖尿病センターでは、糖尿病患者および過食・運動不足などの生活習慣が関与する肥満・脂質異常症・高尿酸血症・高血圧症などの患者を中心に診療を行っている。患者の日常の代謝動態や生活習慣上の問題点を把握し、疾病の進行や合併症の発症・進行を抑制することを目的としている。

①オーダーメイド糖尿病診療

毎週月～木曜日の4日間、糖尿病看護認定看護師や管理栄養士を含む糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフが中心となり、きめ細やかな患者指導を行っている。30分枠の完全予約制とし、患者の安静時代謝量・摂取エネルギー量・運動エネルギー量・身体能力を測定・評価し、患者毎の病態と生活習慣に応じた個別の栄養指導・運動指導・生活習慣指導を行っている。これらの指導は患者の病態や治療効果を考慮し複数回実施している。平成24年度に当センターを受診した患者数は延べ760名であった。

②糖尿病合併症の管理

糖尿病足病変のハイリスク患者を対象として糖尿病神経障害の評価と診断、足ケア、潰瘍・壊疽防止のための指導を実施している。平成24年度における実施件数は70件であった。

また、平成24年4月からは、糖尿病腎症患者を対象に、医師・看護師・管理栄養士による指導管理も実施した（糖尿病透析予防指導管理）。平成24年度における実施件数は34件であった。

③糖尿病集団指導

入院糖尿病患者を対象として、総合内科・看護部・栄養管理室・リハビリテーション室・中央臨床検査部・薬剤部の協力を得て、糖尿病に関する集団指導（糖尿病教室）を週4日実施した。

④日生病院糖尿病フェアの開催

世界糖尿病デーにあわせて糖尿病に関する正しい理解のための啓発活動を行い、糖尿病の発症と進行抑止のために有益な情報提供を行った。当センターのスタッフを中心に、パネル展示、血糖測定、HbA1c測定、頸動脈エコー、医療相談などを実施した。

＜日時＞平成24年11月15日（木）、16日（金）11:30～13:30

＜場所＞日生病院外来玄関ホール

＜内容＞・糖尿病啓発のためのパネル展示 ・お薬相談、災害時のための薬管理
・血糖測定・HbA1c測定 ・栄養素と血糖の関係、果物糖質クイズ
・フットケア ・医療相談
・頸動脈エコー ・運動指導、筋肉量測定 など

⑤公開セミナーの開催

患者および一般市民を対象に「日生病院糖尿病センター公開セミナー」を開催した。

＜日時＞平成24年4月7日（土）14:00～16:00

＜場所＞日生病院別館講堂

＜内容＞第1部 講演：『糖尿病と心臓病』

- ・糖尿病と心疾患の関係～症状の少ない狭心症の早期発見、治療について～
（循環器内科：中川厚副部長）
- ・糖尿病・心臓病に おすすめのお食事は？（栄養管理室：出口暁子課長）
- ・みんなでやってみよう！今すぐできる運動！
（リハビリテーション室：廣田将史理学療法士）

第2部：『アマチュア落語』

出演：桂文喬主催落語研究会

⑥糖尿病患者友の会「錦会」に対する支援活動

糖尿病患者会の関連行事に対して支援活動を行った。

1) 錦会総会・食事会：平成24年7月20日（金）

2) 糖尿病ランチ&トーク：

平成24年11月30日（金）

文責 笠山宗正

＜外来診療日程＞

	月	火	水	木	金
午前	○	○	○	○	
午後	○	○	○	○	

消化器内視鏡センター

1. スタッフ

センター長 湯川雅彦

〔消化器内視鏡センター運営委員会〕

委員 住谷 哲(予防医学センター部長)

委員 森田 哲史(消化器・一般外科)

委員 稲次 洋平(消化器内科)

委員 芳賀 宣子(看護師)

委員 森本 洋子(サービス推進G)

榎本 知奈美(看護師)

2. 診療活動

消化器内視鏡センターは、日生病院内視鏡室、ニッセイ予防医学センター内視鏡室、消化器内科、消化器外科を有機的に連携することにより消化器内視鏡関連業務の質の向上をめざしている。消化器内科、消化器外科の連携により消化器癌の早期発見、早期治療をめざしている。予防医学センターでの人間ドック、企業健診で要検査となられた方を対象に、日生病院での検査、加療を行っている。また、安全、安心な苦痛の少ない内視鏡検査を心がけ、内視鏡検査のトレーニングを希望する医師を指導している。あったかサポートセンター医療連携G経由で、上部内視鏡検査を直接予約いただける便宜をはかり、日本消化器内視鏡指導施設の役割を果たしていく。

A. 検査・治療部門

上部消化管内視鏡

通常内視鏡検査

内視鏡的粘膜切除術 (EMR)

内視鏡的静脈瘤結紮術 (EVL)

内視鏡的胃瘻造設術 (PEG)

胆道系内視鏡

内視鏡的逆行性胆道膵管造影 (ERCP)

内視鏡的乳頭括約筋切開術 (EST)

内視鏡的採石・碎石術

内視鏡的ステント挿入術 (ENBD ・ ERBD tube)

下部消化管内視鏡

軸保持短縮挿入法・診断・治療

上部胃内視鏡検査：2,312件（2012年4月～2013年3月）

下部内視鏡検査：1,037件

予防医学センター内視鏡室 上部内視鏡検査：1,630件

b. 学術部門

研修医・コメディカル対象：

内視鏡室の通年での研修医への開放

c. 広報（サービス）部門

あったかサポートセンター医療連携G経由での内視鏡業務開放

文責 湯川雅彦

1. スタッフ

センター長 中村秀次：医務部長 住谷 哲

常勤医師：泉由紀子、高島周志、鈴木真優美、佐藤文三(特別顧問)

2. 平成24年度の概要

人間ドック受診者総数は7,864名に達し、対前年度1,092名増（16.1%の増加）と引き続き大きな伸びを示した。定期健康診断受診者は32,797名、特定保健指導は253名とほぼ前年度なみを維持した。健診精査内科は、人間ドック受診者数の増加を反映し、また定期健診受診者からの新たな紹介体制の確立により、受診者数は堅調に推移し、2,006名に達した。以上より総収入としては6億2,800万円となり、収支では7,000万円の黒字となり、黒字幅を拡大して4年連続して償却前収支黒字を実現することができた。

人間ドック受診者の年代別、性別の要治療率、要精密検査率は表2に示す。40歳未満では要治療8.2%、要精密43.4%であるが、50歳台で要治療13.4%と上昇し、要精密51.2%と5割を超え、60歳以上では要治療10.2%とやや低下するも、要精密は59.8%とほぼ6割まで上昇した。要治療、要精密検査項目の男女別の上位5項目を表3に示す。今年度は腎・尿路疾患が増加し、女性では4%増加し23.7%を占め1位となり、男性では6%増加して5位を維持した。また、眼科疾患も増加し、男性で2位となり22.7%を占めた。女性では前年度より5%増加し3位に入った。一方、生活習慣病の高血圧は男性で3%増加し1位となった。高脂血症はリピート率の向上と指導、加療の効果により男女とも前年度より約9%低下し、男性で4位、女性で2位となった。糖尿病も男性でやや低下し3位に後退した。女性では婦人科疾患は17.9%とやや低下し4位となり、乳房疾患は15.6%とやや増加し5位を占めた。精度の高い健診に努め、悪性疾患の発見は17名（0.22%）であった（表4）。この内 14名（82.4%）が早期癌であった。

D1,D2判定者で健診精査内科および直接に日生病院各科に紹介した患者は大幅に増加した（表5）。健診精査内科以外では、消化器内科、乳腺外科、眼科が上位を占めた。再検率は35.5%と、昨年よりわずかに上昇した。再検率のアップが今後の課題である。

健診の質の面からは、看護師による専門的なケア、保健師による指導、専門技師による検査、専門医師による診察、読影、診断、およびダブルチェック体制を継続徹底するとともに、当センターの特徴である女性に優しい健診施設としての特色をより充実させるため女性医師による婦人科健診の週4日体制を維持し、月2回のレディースデイを2診体制とし、午後の乳がん検診も引き続き実施した。22年度より開始しているメンタルヘルスサポート事業では、新たな解析ソフトを導入してサービスの向上を諮っている。また、運営体制を見直し、待ち時間の短縮に成功した。受診者のリピート率の向上を目指しているが、24年度は65%に達した。

社会福祉事業として、児童福祉施設を中心として27施設、約2,500名を対象として無料低額健診を継続実施した。また、今年も引き続き8月に母子家庭に対する公募方式による無料乳がん検診を実施し、済生会の公益性の向上と地域福祉に貢献した。

労働安全衛生分野における産業医の重要性の高まりを踏まえ、近隣企業への産業医派遣体制を構築し、今年新たに済生会職員数名の認定産業医を養成し、非常勤産業医として派遣した。

学術活動として、恒例の「あわぎ産業医セミナー」を4月に開催し（特別講演：大阪大学名誉教授、隈病院顧問 網野信行先生）、132名の産業医、日生病院登録医の参加を得た。学会活動として人間ドック学会に2題発表し、雑誌「人間ドック」に投稿した。更に、各医師が専門領域の学会でも発表した。日生医誌に論文1篇掲載された。

文責 中村秀次

表 1. 定期健康診断・人間ドック受診者数

	平成24年 名	対前年 %	備考
定期健康診断	32,797	99.5	
人間ドック（日帰り）	4,666	121.0	標準コースの人間ドック
人間ドック（生活習慣病など）	3,198	109.6	協会けんぽなどの簡易人間ドック
人間ドック 合計	7,864	116.1	

表 2. 日帰り人間ドック受診者の年齢別、性別の要治療項目と要精密検査項目の頻度

	要治療項目（治療中を含む）（D1）					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	9.4%	29	6.9%	20	8.2%	49
40-49歳	13.0%	102	10.7%	88	11.8%	190
50-59歳	13.0%	99	13.8%	113	13.4%	212
60歳以上	10.6%	67	9.8%	60	10.2%	127
総計	12.0%	297	11.0%	281	11.5%	578

	要精密項目（D2）					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	35.8%	110	51.4%	149	43.4%	259
40-49歳	44.0%	346	52.5%	434	48.4%	780
50-59歳	50.1%	381	52.2%	427	51.2%	808
60歳以上	62.7%	395	56.7%	346	59.8%	741
総計	49.6%	1,232	53.3%	1,356	51.5%	2,588

※ 健診システム（HI-NET）より標準人間ドックコースのみ、判定D1（要治療）、D2（要精密検査）を抽出
 %は年齢別要治療・要精密検査数／年齢別全受診者数×100
 総計の%は性別総計数／全受診者数×100

表 3. 性別による要治療・要精密検査の上位 5 項目（日帰り人間ドック受診者）

NO	男性				NO	女性			
	要治療・ 要精密検査項目	2,092 人数(名)	占率	平成23年 占率		要治療・ 要精密検査項目	1,744 人数(名)	占率	平成23年 占率
1	高血圧	478	22.8%	19.4%	1	腎・尿路疾患	413	23.7%	19.6%
2	眼科疾患	475	22.7%	20.4%	2	高コレステロール血症	397	22.8%	32.3%
3	糖尿病	429	20.5%	23.6%	3	眼科疾患	349	20.0%	15.9%
4	高コレステロール血症	378	18.1%	27.2%	4	婦人科疾患	313	17.9%	19.3%
5	腎・尿路疾患	332	15.9%	9.5%	5	乳房疾患	272	15.6%	12.9%

※ 各検査項目の数値・判定より抽出（センター医師による判断）
 %は検査項目受診数／5項目総受診者数×100

表 4. 悪性疾患の発見率

	人数（名）	占率	乳癌3名、大腸癌2名（直腸1名）、胃癌7名（早期5名） 子宮頸癌3名（上皮内癌3名）、原発性マクログロブリン血症1名
癌診断者	17（早期14）	0.22%	

表 5. 要治療・要精密検査判定者の紹介先（日帰り人間ドック受診者）

有所見者数 3,185 人 再検査確認数 1,132 人 再検率 35.5 %

日生病院 健診精査内科	345 人	日生病院 乳腺外科	125 人
日生病院 循環器内科	46 人	日生病院 整形外科	5 人
日生病院 神経内科	1 人	日生病院 皮膚科	6 人
日生病院 消化器内科	247 人	日生病院 泌尿器科	59 人
日生病院 内視鏡センター	27 人	日生病院 産婦人科	52 人
日生病院 総合内科	33 人	日生病院 眼科	124 人
日生病院 耳鼻科	24 人		

第4章 部別概要

中央臨床検査部

1. スタッフ

部長 浅野彰彦、臨床検査技師長 水口洋一

(1) 検体検査部門（Ⅰ）血液、生化学、血清、輸血、凝固線溶機能

（山本慶子）、（池田久美）、吉田隆則、内野高裕、天野精子、倉本訓子、
「松谷憲一」、「玉川雄一」

採血室担当：伊山 修（非常勤）

(2) 検体検査部門（Ⅱ）細菌、病理・細胞診、外来検査室

細菌検査室：（新井幸子）、藤田育子、角田道久、「小林美香」

病理検査室：水口洋一、（坂口伊津子）、石倉果林、大嶽雄也

外来検査室：坂本美智代

(3) 生体検査部門

超音波・生理機能、脳波・筋電図、聴力・平衡機能検査室：

相馬容子、大西 龍、藤井ゆう子、（川口公次）、古川浩司、柳川友加、森本 梓、
（荒木めぐみ）、「金丸麻美」、中尾やす子（非常勤）

予防医学センター配属：篠田和子、大黒慶子

(4) 臨床工学部門

臨床工学室：加藤千尋、三木和美

＊検体検査部門（Ⅰ）では、山本慶子・池田久美が定年退職となり、松谷憲一・玉川雄一を採用した。

池田は非常勤職員として再雇用となった。

＊検体検査部門（Ⅱ）では、細菌検査室の新井幸子、病理・細胞診検査室の坂口伊津子が定年退職となった。細菌検査室の責任者は新井から藤田に引継ぎ小林美香を新しくメンバーとして迎えた。

＊生体検査部門では川口公次と荒木めぐみが退職し、金丸麻美を新たにメンバーとして迎えた。

＊平成17年10月に開設した臨床工学室は、暫定的な二名体制の運営が続いた。

2. 特色

質の高い検査結果を得るための精度管理に力を注ぎ、日本医師会・大阪府医師会・日本臨床検査学会の精度管理調査に39年間にわたり参加しており、常に優秀な成績を収め続けている。

検査オーダー後、30分以内での検査結果報告を目指して迅速性を増し、また24時間体制をとることで時間外の緊急検査を行い、検体検査管理加算に対応した運営を行っている。

輸血検査から輸血管理までの輸血業務を安全かつ迅速に行う輸血管理体制にも対応している。

文責 浅野彰彦

看護部

I. 看護部理念

看護部は公財日本生命済生会の基本理念、「済生利民」の精神にもとづき、地域に対し一人ひとりの状態と立場と気持ちにそった最良の看護サービスを提供します。

平成24年度スローガン 「CS/ESを推進し、思いやりから生まれる創造豊かな看護を提供します。」

看護部基本方針

1. 安心安全な看護の実践
2. 看護師の能力開発
3. 病院経営に参画し効率のよい看護の実践
4. 選ばれる職場環境作りと優秀人材の確保と育成
5. 看護サービスの質改善

II. 病棟状況

病棟状況

部署	定床	平成24年度 患者数	稼働率	平均 在院日数	平成24年度 配置基準	勤務人員			平均夜勤回数 2交替 前期4月～9月 後期10月～3月	備 考
						深	準	日		
3W		45	66.9	10.3	30	3	4	13	4.24	
	新	15								
	計	60								
4W		46	71.8	12.9	31	3	4	14	4.15	
	別	14								
	計	60								
4E		51	73.8	10.4	26	3	3	11	4.39	
									4.06	
5W		44 (無菌室4)	84.3	24.3	26	3	3	10	3.98	
									3.85	
5E		49	75.6	14.9	27	3	3	11	4.42	
									3.97	
6W		42	73.4	15.7	28	3	3	11	4.49	
	小	10							4.66	
6E		27	57.1	6	24	金4 3	木4 3	10	4.66	
	未	7							4.35	
外来					39 バ19					17診療科以外に、地域医療連絡室、 治療管理室へ各1名を含む
手術					18					
管理					5 バ1					感染担当1名 新人担当1名を含む 入院調整1名
計	350	外来 904 病棟 273	72.0	12.3	254				4.33	
									4.15	

III. 看護研修概況

- 1) 院内研修 (別表 P 84 ～ 85)
- 2) 院外研修 (別表 P 86 ～ 87)
 - ・短期研修大阪府看護協会、日本看護協会等
 - ・大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会 1名
 - ・セカンドレベル研修 1名
 - ・サードレベル研修 1名
- 3) 学会発表 日本看護協会主催等 10学会 10名

IV. その他

- 1) 看護学生実習受け入れ
 - ・大阪医専看護保健学科 (4年課程) 271名 5月～3月 (基礎・成人・老年・母性看護学)
 - ・大阪保健福祉専門学校 (3年課程) 10名 5月～6月 (母性)
 - (4年課程) 11名 8月～9月 (母性・小児看護学)
 - ・大阪府病院協会看護専門学校 (3年課程) 18名 (母性・小児看護学)
 - ・白鳳女子短期大学 (助産学専攻) 1名 9月～11月 (産科)
 - ・甲南女子大学 (4年課程) 95名 10月～12月 (母性・成人看護学)
 - ・梅花女子大学 (4年課程) 48名 6月～9月 (基礎・成人看護学)
- 2) 研修受け入れ
 - ・CNSコース 1名
- 3) 看護体験受け入れ
 - ・大阪府主催「一日看護体験」 5月25日高校生8名
 - 7月25日高校生9名
- 4) 看護フェアー
 - ・5月11日看護相談、身体測定、アロマ、フットケア等
- 5) ニッセイ看護研究会
 - ・11月10日 7施設 10名

文責 正野廣子

薬剤部

スタッフ

部長 畑中 勝義：部員 野村 浩英、土江 恵美(5月から育児休業より復帰)、池田 久雄、
乾 有希子、吉岡 亮、森 真由子、宮 麻紀子、平田 貴宏、牧 秀美、
松田 敦子、瀧川 奈央、六車 裕一(7月～)

パート薬剤師 辻 俊美、中野 静香(5月より産休)、
江戸 由希子(～3月)、松元 麻美(6月～)

事務員(非常勤嘱託)：岩城 淳子

[平成24年度計画事項とその執行状況]

1. 薬剤部業務体制

- ・人員：薬剤師16名(パート3名を含む)
事務員1名
- ・配置：調剤・製剤業務7名 薬剤管理指導業務(病棟担当)7名
治験管理室1名、DI室1名、事務担当1名

2. ジェネリック薬品の採用

前年に引続きジェネリック薬品の導入を図った。注射薬3品目、その他6品目を採用し薬品購入における経済効果を図った。(前年比9品目増)

3. 薬剤管理指導業務の充実

1病棟に1名の担当薬剤師を配置しチーム医療を中心に週20時間以上の病棟業務を行った。服薬指導の充実を図った。

4. 院内の薬に関する医療安全管理対策

医薬品安全管理者を設置し、薬剤の適正使用について情報伝達、安全使用の確認を行っている。
ICT、NST、緩和ケア、褥瘡対策等チーム医療に参画し薬剤の適正使用を図った。

5. 新規業務の展開

癌化学療法レジメン管理システムを導入し運用を図っている。

6. 学術活動

日本医療薬学会に3題発表。

[薬科大学学生実習受け入れ] 薬学部6年制に伴う実習受入 実習生15名

[主要業務10項目]

1. 調剤業務(入院54,827枚)(外来21,320枚)(注射75,297枚)(麻薬3,266枚)
(院外処方箋133,126枚)
2. 製剤業務(一般・特殊製剤5,871件)(無菌2,527件)
3. 薬剤管理指導業務(7,693件)
4. DI業務(DIニュース24件)(くすりニュース4件)
5. 抗癌剤無菌調製業務(入院1,122件 外来2,328件)
6. 薬品発注・在庫管理業務(採用品目数1,246)(臨時購入薬品45)(院外届出薬品82)
7. 血液製剤管理業務(16品22規格529件)
8. 院外処方箋に関する問い合わせ(6,123件)
9. 薬事管理委員会(新規採用薬品28、削除薬品33)
10. 治療用薬品払い出し業務(4,215枚)

文責 畑中勝義

治験管理室

スタッフ

室長 江川 功：事務局 松田 敦子(薬剤師)、山本 真佐美(NIC)
CRC 谷口 真理子(看護師)、吉田 悦子(看護師)

[平成24年度計画事項とその執行状況]

1. 治験事務局業務

- ・ 日生病院治験審査委員会標準業務手順書の改定
- ・ 製造販売後調査、医師主導研究のCRC依頼マニュアルの作成
- ・ 各医薬品会社への治験打診

2. 臨床研究コーディネーター (CRC) 業務

- ・ 外部CRC対応マニュアル及びCRC業務マニュアルの改定
- ・ 製造販売後調査、医師主導研究の受け入れ幅拡大
- ・ 大阪医薬品協会 治験推進プロジェクトメンバー参加

[平成24年度実績]

治験審査委員会 (IRB) 12回開催

倫理委員会 8回開催

1) 平成24年度新規受託契約課題 5件

- ・ 中等症から重症の日本人乾癬患者を対象としたLY2439821の有効性及び安全性を評価する多施設共同非盲検長期投与試験 (皮膚科 東山部長)
- ・ Secukinumabの固定間隔投与又は再発開始時投与を受けた中等症又は重症の局面型皮疹を有する乾癬患者を対象に、プレフィルドシリンジを用いたsecukinumab皮下投与の長期安全性、忍容性及び有効性を評価する二重盲検グループ及びオープンラベルグループから構成される、2年間の多施設共同継続試験 (皮膚科 東山部長)
- ・ KHK4827第Ⅱ相臨床試験 (局面型皮疹を有する乾癬患者を対象としたプラセボ対照無作為化二重盲検比較試験) (皮膚科 東山部長)
- ・ KHK4827第Ⅲ相臨床試験 (局面型皮疹を有する乾癬患者を対象とした長期投与試験) (皮膚科 東山部長)
- ・ KHK4827第Ⅲ相臨床試験 (膿疱性乾癬 (汎発型) 患者及び乾癬性紅皮症患者を対象とした長期投与試験) (皮膚科 東山部長)

2) 前年からの継続実施課題 6件

- ・ 乾癬の長期維持療法としてsecukinumabの固定間隔投与と再発開始時投与を比較検討する試験 (SCULPTURE) (皮膚科 東山部長)
- ・ JNS020QDの慢性疼痛患者を対象とした第Ⅲ相試験 (麻酔・緩和医療科 川原部長)
- ・ 低用量アスピリン長期投与時の胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制における、TAK-438 (10mg、20mg) の第3相二重盲検比較試験 (CCT-302) (消化器内科 中村センター長)
- ・ 低用量アスピリン長期投与時の胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制における、TAK-438 (10mg、20mg) の第3相長期継続投与試験 (OCT-302) (消化器内科 中村センター長)
- ・ AS-3201の糖尿病性末梢神経障害患者を対象としたプラセボ対照二重盲検群間比較試験 (第三相試験) (総合内科 笠山副院長)
- ・ 中等症から重症の局面型皮疹を有する乾癬患者および関節症性乾癬患者を対象としたCP-690,550の経口2用量長期投与時の安全性、忍容性及び有効性を検討する多施設共同第Ⅲ相無作為化二重盲検比較試験 (皮膚科 東山部長)

3) 平成24年度終了課題 6件

- ・ HFT-290慢性疼痛を対象とした長期投与試験 (麻酔・緩和医療科 川原部長)
- ・ TRK-820軟カプセル剤 検証的試験 -慢性肝疾患患者における難治性のそう痒症- (消化器内科 中村センター長)
- ・ 日本人尋常性乾癬被験者におけるLEO90105軟膏 (カルシポトリオール水和物およびジプロピオン酸ベタメタゾン配合薬) の有効性及び安全性 (皮膚科 東山部長)
- ・ 「乾癬患者を対象にsecukinumab の点滴静脈内投与による治療効果改善の可能性を検討する試験 (STATURE)」 (皮膚科 東山部長)
- ・ HFT-290の帯状疱疹後神経痛、慢性腰痛及び変形性関節症を対象とした検証的試験 (麻酔・緩和医療科 川原部長)
- ・ S-297995のオピオイド投与に伴う便秘を有するがん患者を対象とした後期第2相臨床試験 (乳腺外科 西田部長)

4) 製造販売後調査

新規契約 - 28件 (CRC依頼有 2件)

終了 - 13件

5) 医師主導・自主研究

新規 - 55件

治験数は年々増加しており、順調であるが、CRCの不足は今後も解消せず、今後の業績を維持していくためにはマンパワーの充実が必須の条件となる。

文責 江川 功

リハビリテーション室

○スタッフ

責任者：リハビリテーション室 室長 稲岡正裕

理学療法士 片岡宏一郎、小倉敬子、麦田盛穂、廣田将史、田中 孝、藤岡栄悟(4月～)、
白川 桂(4月～)

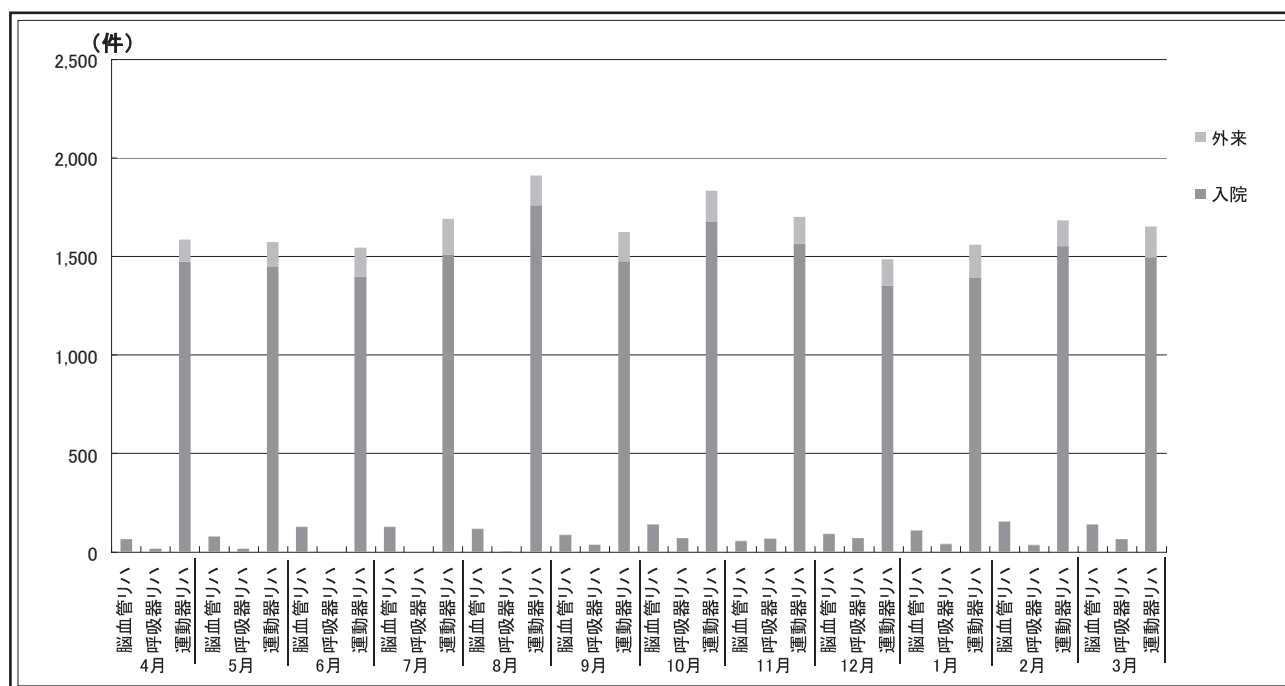
作業療法士 外山晶代

○診療内容

- ・入院患者に対するリハビリに特に重点を置き、診療科の回診（整形外科病棟回診，NST回診，褥創回診）や、各病棟とのカンファレンスなどを通じて、診療の質の向上に努めた。亜急性期病棟におけるリハビリなど長期療養患者に対するリハビリもバランスよく実施した。
- ・作業療法士による、上肢機能の向上を目的とした手指の機能訓練、食事動作などの巧緻性機能の増大を目的としたADL（日常生活動作）練習などの作業療法を実施し、リハビリテーション医療の充実を図った。
- ・定期的にリハビリカンファレンスを開催し、他職種との連携をとりながら情報交換を行い、医療の質向上に努めた。
- ・重心動揺検査装置や筋力測定器を用いた運動機能の客観的評価を行い、その数値に基づいた治療効果の判定や問題点の抽出を行い、リハビリのレベルアップを行った。
- ・予防医学におけるリハビリの役割の重要性を積極的に啓蒙、普及する必要がある。生活習慣病センターや予防医学センターとの連携をさらに充実させて、糖尿病教室や肥満外来などへの共同参画、運動療法指導、体操療法などの指導を行った。
- ・リハビリ専門学校からの教育実習依頼に対して協力し、実習教育活動の体制を整備して実施した。
- ・院内では整形外科抄読会、糖尿病勉強会などに参加し、院外においては各専門領域の勉強会に参加し、会得した技能、知識はスタッフ間で情報共有を行った。また研究などの学術活動にも積極的に参加し、専門性を活かしたいいくつかの発表を行い、臨床に役立つ内容の発信に努めた。

文責 片岡宏一郎

2012年4月～2013年3月－別脳血管リハ・呼吸器リハ・運動器リハ件数



栄養管理室

1. スタッフ

室長：笠山宗正

管理栄養士：出口暁子、伊藤有希子、松村寿美、調理師：藤田龍也

委託会社（管理栄養士2名、栄養士4名、調理師4名、炊事員11名）

2. 栄養管理室の方針

- ・院内給食において、特に治療食の見直し改善を実施しより良い給食の提供を院内給食委託会社と連携して実施する。
- ・入院および外来の栄養指導件数を増加させるための方法を検討し、実行する。
- ・低栄養状態の患者の栄養マネジメントをNSTチームにおいて積極的に行い推進する。
- ・経腸栄養食の食品への移行及び術前補水流動食の新設により収支改善に取り組む。
- ・患者指導能力向上のため院内勉強会を実施する。また院外の勉強会へ積極的に参加する。

文責 出口暁子

栄養指導件数(2012年4月～2013年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
胃 腸 病	1	3	2	4	2	2	3	4	1	0	5	2	29	2
肝 臓 病	5	3	8	9	7	8	10	7	5	5	10	8	85	53
糖 尿 病	70	95	92	90	107	79	106	94	97	112	100	97	1,139	1,124
腎 臓 病	12	6	5	19	9	8	15	6	9	8	5	9	111	58
高血・心臓・高脂	41	41	45	51	54	48	63	44	44	41	41	54	567	388
肥 満 症	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	26
術 後 食	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5	10
母 子 栄 養	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
そ の 他	2	4	4	3	4	3	4	1	2	6	5	1	39	38
計	133	155	157	178	183	148	201	156	158	159	166	171	1,978	1,707

栄 養 指 導〈集団指導〉年間件数

	実施回数	外来人数	入院人数
糖 尿 病	23	2	93

錦 会〈糖尿病患者会〉

7月20日…総会・食事会 参加人数 16名

11月30日…糖尿病ランチ&トーク(病院給食の試食と会員の交流会) 参加 5名

1月25日…糖尿病ランチ&セミナー(糖尿病ヘルシー弁当の会食と

医師と食品メーカーによる患者の勉強会) 参加32名

患者給食数(2012年4月～2013年3月)

患 者 給 食	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
常 食	7,389	7,345	7,795	8,160	7,977	8,397	8,375	8,837	8,531	7,116	8,928	8,641	97,491	88,732
特 軟 食	12,101	12,140	11,465	13,047	13,457	12,006	12,292	11,379	12,151	11,716	10,289	11,584	143,627	150,114
合 計	19,490	19,485	19,260	21,207	21,434	20,403	20,667	20,216	20,682	18,832	19,217	20,225	241,118	238,840
調 乳 本 数	2,110	1,695	1,812	2,458	2,014	2,210	2,702	2,624	2,056	2,586	2,291	2,737	27,295	26,193

あったかサポートセンター

1. スタッフ

センター長 船渡孝郎(副院長)

副センター長 小早川啓(事務長)

谷口史朗、石坪健治、川口義樹、松本満康、西岡千幸

(1) 医療連携グループ

看護師：北村一美、瓜本恵美子

事務員：岡部由利、岩田美栄子(～8月)、渡辺喜代美、岩切綾子

(2) サービス推進グループ

事務員：森本洋子、高松美佳(5月～)

(3) 医療福祉相談グループ

医療ソーシャルワーカー

本家裕子(社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員)、

松栄優子(社会福祉士・介護支援専門員)、

福庭加奈(社会福祉士)(5月～)、清水美紗(社会福祉士)(8月～)

*平成24年4月1日より組織新設 (1)旧地域医療連携室 (2)旧患者様サービスグループ (3)旧医療生活相談室)

2. 医療連携グループの活動内容

①医療連携グループ経由の紹介患者様の対応

②医療機関向けPR冊子の作成と発送

③第13回病診連携フォーラムの開催(平成24年9月8日)

④紹介患者様の報告、逆紹介チェック

⑤開放型病院登録医の共同診療への協力並びに登録医の増員(登録医：平成25年3月末 302名)

⑥「登録医だより」の作成と発送(平成24年4月、平成25年1月)

⑦病診連携「ニッセイ クリニカル カンファレンス」開催協力(平成24年11月10日)

⑧スペシャルドック、健診後受診患者および日生関連企業受診患者対応

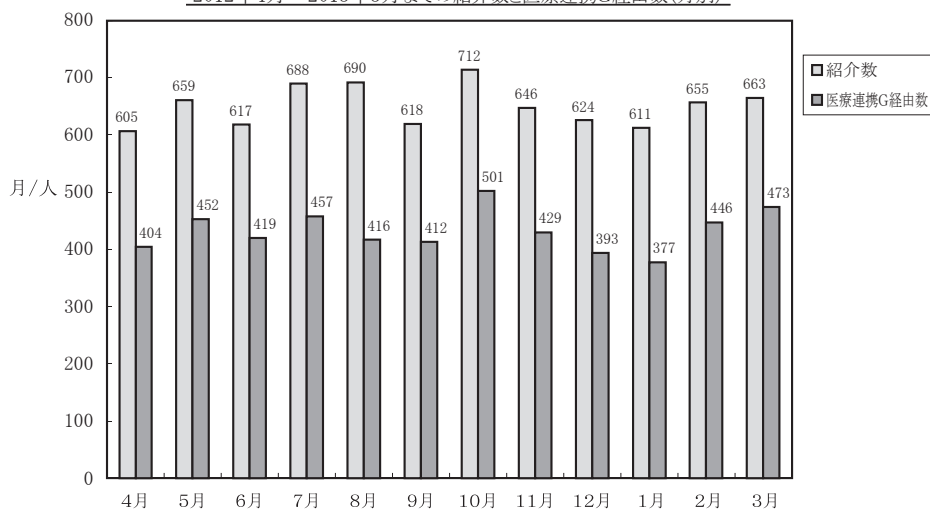
文責 岡部由利

2012年4月～2013年3月 診療科別紹介数、医療連携G経由患者数(年間)

科別	紹介患者数 ※ (救急車搬入患者含む)	医療連携G経由患者数
循環器内科・神経内科	641	308
消化器内科	567	382
総合内科	799	359
血液・化学療法内科	211	126
精神科	153	143
小児科	237	109
外科	149	97
乳腺外科	155	110
整形外科	442	294
皮膚科	537	416
泌尿器科	336	190
産婦人科	1,452	880
眼科	358	298
耳鼻咽喉科	644	305
救急医療科	39	1
放射線科	1,016	1,117
麻酔・緩和医療科	52	42
合計	7,788	5,177

※紹介患者数は初診算定数。

2012年4月～2013年3月までの紹介数と医療連携G経由数(月別)



3. サービス推進グループの活動内容

- ①外向け広報対策として、日生病院登録医・開業医、地域住民、患者様、予防医学センター利用企業等に対する広報誌や、日本生命済生会、日生病院、ニッセイ予防医学センターのホームページ、掲示物等の広報活動
- ②内向け広報対策として、情報の共有化の方策、イントラネット・メール活用等の広報活動
- ③広報活動の一層の充実と推進を図るため、他施設等における広報活動の調査・研究 等

文責 森本洋子

4. 医療福祉相談グループの活動内容

①相談援助

a. 相談援助総件数

平成24年度は、総数7,481件（1日平均30.5件、月平均623.4件）の相談を受けた。

b. 新規相談

平成24年度の新規相談は1,688件(昨年は1,170件)であった。大幅な件数増加は、MSW増員による無料・低額診療事業への取り組み強化および病棟との退院支援連携強化が要因と考える。紹介経路別にみると、看護師(468件)、医師(174件)およびその他の職員を含め、院内スタッフからの支援依頼が42.6%(昨年は47.5%)を占め、本人(276件)と家族(284件)からの相談が33.2%(昨年は22.5%)であった。

c. 相談援助内容

相談内容は、退院への援助（在宅へ向けての療養環境整備の援助および転院・施設入所先の選定援助）が39.0%と最も多く、次いで介護保険、身体障害者手帳、特定疾患、精神保健等の諸制度に関する説明や申請援助（26.1%）、受診・受療に関する問題調整（9.7%）、無料・低額診療に関する相談援助（9.4%）となった。無料・低額診療事業への取り組み強化による相談件数増加（昨年は1.0%）が目立つ結果となった。

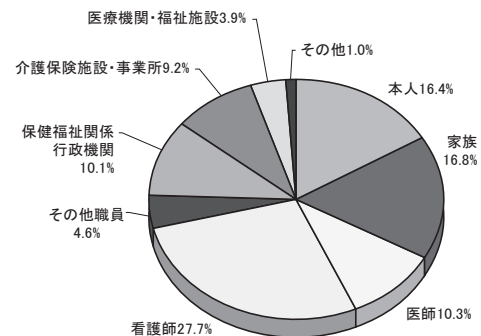
②地域活動

- a. 近隣の施設（医療機関、介護老人保健施設等）へ訪問し、面識を持って情報交換をすることにより、スムーズな連携を図ることができた。
- b. 西区地域支援調整チーム高齢者支援専門部会および西区高齢者虐待防止専門部会へ参画し、地域の高齢者施策の充実に尽力した。
- c. 日生ケアプランセンターにて介護支援専門員(ケアマネジャー)を兼務し、利用者様の在宅生活を支援した。

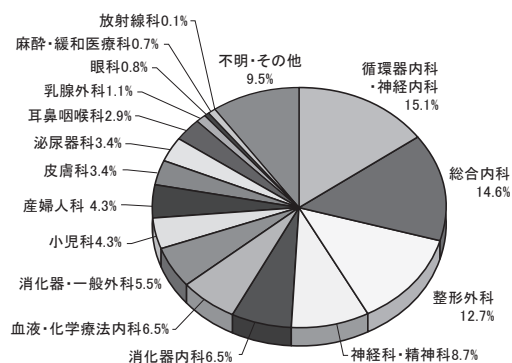
文責 本家裕子

①-a. 相談援助総件数(延べ数)

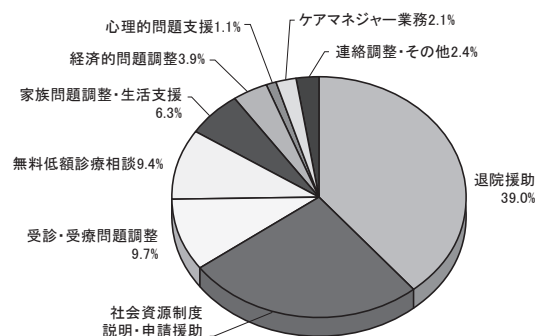
	平成24年度	平成23年度	平成22年度
循環器内科・神経内科	1,526	1,545	1,406
消化器内科	397	262	444
総合内科	1,303	1,107	968
血液・化学療法内科	493	369	281
神経科・精神科	540	409	307
小児科	221	28	14
消化器・一般外科	573	287	372
乳腺外科	50	30	90
整形外科	1,078	993	951
皮膚科	184	134	183
泌尿器科	279	278	229
産婦人科	370	49	108
眼科	38	41	69
耳鼻咽喉科	174	239	182
放射線科	4	0	5
麻酔・緩和医療科	26	2	24
不明・その他	225	69	91
合計	7,481	5,842	5,724



①-b-1 新規相談(紹介経路別)



①-b-2 新規相談(診療科別)



①-c 相談援助内容

平成24年度日生病院業績集

(2012年4月～2013年3月)

論文発表

循環器内科・神経内科・呼吸器内科

1. 村西寛実, 岡本祐典, 八木良樹, 長谷川浩司, 中川厚, 仁科拓也, 浅野彰彦, 濱田偉文, 林 美沙, 東山真里, 藤島弘顕, 友永真人, 稲岡正裕: Endovascular therapyにより救肢しえた重症虚血性肢の1例－当院におけるCritical limb ischemia治療の課題－. 日生医誌, 40: 37-43, 2012.
2. 太口 馨, 八木良樹, 村西寛実, 長谷川浩司, 中川厚, 仁科拓也, 浅野彰彦, 濱田偉文: 重症肺炎に合併したCritical illness polyneuropathy (CIP) の1例. 日生医誌, 40: 53-57, 2012.
3. 岡部太一: PAPVRを合併した高齢者ASDの1例. Osaka Heart Club, 35, 6-9, 大阪, 2012.
4. 高橋秀明, 村西寛実, 長谷川浩司, 中川厚, 仁科拓也, 浅野彰彦, 濱田偉文: 重症下肢深部静脈血栓症に対しカテーテル血栓溶解療法を施行した1例. 日生医誌, 40: 117-122, 2012.
5. 廢知淳子, 星賀正明, 藤坂智弘, 岡部太一, 中小路隆裕, 石原 正, 石坂信和, 花房俊昭: 肺動脈性肺高血圧症に対してボセンタンが有効であった18pテトラソミーの1成人例. 心臓, 44: 463-468, 2012.
6. 佐藤和明, 村西寛実, 高橋秀明, 長谷川浩司, 中川厚, 仁科拓也, 濱田偉文, 小西 登: 肺の多型癌を合併した器質化肺炎の1剖検例. 日生医誌, 40: 129-133, 2012.
7. 山本慶子, 住谷 哲, 森田真也, 水口洋一, 浅野彰彦, 中村秀次, 笠山宗正: 糖尿病患者の平均血小板容積 (MPV) に影響する因子に関する検討. 日生医誌, 40: 107-111, 2012.
2. Sakai Y, Enomoto H, Aizawa N, Iwata Y, Tanaka H, Ikeda N, Takashima T, Takata R, Iwai T, Uwata K, Saito M, Imanishi H, Iijima H, Nakamura H, Nishiguchi S: Relationship between elevation of glycated albumin to glycated hemoglobin ratio in patients with a high bleeding risk of esophageal varices. Hepatogastroenterology, 59: 2280-2284, 2012. (Epub) (doi: 10.754/hge12064.)
3. Bando Y, Kanehara H, Aoki K, Toya D, Notsumata K, Tanaka N, Enomoto H, Nishiguchi SH, Nakasho K, Nakamura H, Kasayama S, Koga M: The glycated albumin to glycated haemoglobin ratio increases along with the fibrosis stage in non-alcoholic steatohepatitis. Ann Clin Biochem, 49: 387-390, 2012. (doi: 10.1258/acb.2012.011139.)
4. Matsuda F, Torii Y, Enomoto H, Kuga C, Aizawa N, Iwata Y, Saito M, Imanishi H, Shimomura S, Nakamura H, Tanaka H, Iijima H, Tsutsui H, Tanaka Y, Nishiguchi S: Anti-interferon- α neutralizing antibody is associated with nonresponse to pegylated interferon- α plus ribavirin in chronic hepatitis C. J Viral Hepat, 19: 694-703, 2012. (doi: 10.1111/j.1365-2893.2012.01598.x.)

消化器内科

1. Enomoto H, Inoue SI, Matsuhisa A, Aizawa N, Imanishi H, Saito M, Iwata Y, Tanaka H, Ikeda N, Sakai Y, Takashima T, Shimomura S, Iijima H, Nakamura H, Nishiguchi S: Development of a new in situ hybridization method for the detection of global bacterial DNA to provide early evidence of a bacterial infection in spontaneous bacterial peritonitis. J. Hepatol, 56, 85-94, 2012.
1. Bando Y, Kanehara H, Aoki K, Toya D, Notsumata K, Tanaka N, Enomoto H, Nishiguchi S, Nakasho K, Nakamura H, Kasayama S, Koga M: The glycated albumin to glycated haemoglobin ratio is increasing along with fibrosis stage in non-alcoholic steatohepatitis. Ann. Clin. Biochem, 49: 387-390, 2012.
2. Arita H, Kinoshita M, Oshino S, Kitamura T, Otsuki M, Kasayama S, Shimokawa T, Shimomura I, Yoshimine T, Saito Y: Biological characteristics of growth hormone-producing pituitary adenomas are different according to responsiveness to thyrotropin-releasing hormone. J. Clin. Endocrinol. Metab, 97: 2741-2747, 2012.
3. Miyazaki A, Kohzuma T, Kasayama S, Koga

総合内科

M : Classification of variant forms of hemoglobin according to the ratio of HbA1c to glycated albumin. Ann. Clin. Biochem, 49 : 441-444, 2012.

4. Koga M, Murai J, Saito H, Kasayama S : Prediction of near-future glycated hemoglobin levels using glycated albumin levels before and after glimepiride administration for 2 weeks is useful to decide the effectiveness of the treatment. Diabetes Int, 3 : 197-201, 2012.
5. 佐藤文三 : 癌と闘う - この強敵と如何に向き合うか. 1-118頁, エピック社, 東京, 2012.
6. 大月道夫, 齋藤洋一, 笠山宗正, 有田憲生, 岡本新悟, 佐藤文三 : オクトレオチドLAR治療が先端巨大症患者のQOL・臨床症状に与える影響. 日本内分泌学会雑誌, 88 (Suppl. Aug) : 37-38, 2012.
7. 森田真也, 前田悠一, 藤原弘士, 三木俊治, 広田将司, 藤川正博, 佐々仁美, 中川雅史, 大島正人, 藤井智美, 小西 登, 笠山宗正 : 多種の自己免疫疾患と巨大S状結腸を合併した緩徐進行1型糖尿病の1例. 糖尿病, 55 : 638-644, 2012.
8. 出口令子, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 森田真也, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正 : 長期間コントロール不良であったバセドウ病に対する薬物療法後にhungry bone syndromeによる低カルシウム血症を来した1例. 日生医誌, 40 : 48-52, 2012.
9. 山本慶子, 住谷 哲, 森田真也, 水口洋一, 浅野彰彦, 中村秀次, 笠山宗正 : 糖尿病患者の平均血小板容積 (MPV) に影響する因子に関する検討. 日生医誌, 40 : 107-111, 2012.

血液・化学療法内科

1. 中川雅史 : 再発・治療抵抗性び慢性大細胞型B細胞リンパ腫の治療 - 最近のエビデンスと当科の治療方針 -. 日生医誌, 40, 1-18, 2013.
2. 中川雅史, 秋田弘俊, 石岡千加史, 佐々木康綱, 柴田浩行, 高倉伸行, 矢守隆夫 分担共著 : 延命効果の高い新しい抗がん剤治療とは, 抗がん剤のすべてがわかる本, 34-72頁, 学研, 東京, 2013.
3. 間島行則, 川上 学, 石河 純, 中川雅史 : 腫瘍縮小にともなって心臓ペースングから離脱できた頸部悪性リンパ腫に合併する頸動脈洞性失神. 臨床血液, 54 : 117-121, 2013.

消化器・一般外科

1. 森田真也, 前田悠一, 藤原弘士, 三木俊治, 広田将

司, 藤川正博, 佐々仁美, 中川雅史, 大嶋正人, 藤井智美, 小西 登, 笠山宗正 : 多種の自己免疫疾患と巨大S状結腸を合併した緩徐進行1型糖尿病の1例. 糖尿病, 55 : 638-644, 2012.

2. 藤川正博 : 膵神経内分泌腫瘍 - 当院での肝転移症例の治療 -. 日生医誌, 40 : 93-100, 2012.
3. 黄 泰平, 藤川正博, 森田哲史, 吉良俊彦 : 鼠径部子宮内膜症に伴う鼠径ヘルニア術後の子宮円靭帯断裂腹腔内出血の1例. 日臨外会誌, 74 : 568-571, 2013.

整形外科

1. 三木宏真, 川本匡規, 友永真人, 糸原朋信, 稲岡正裕 : 人工膝関節置換術後の大腿骨顆上骨折に対する顆上部髓内釘を用いた骨接合術の治療経験. 日生医誌, 40 : 123-126, 2012.

皮膚科

1. Tsuji S, Higashiyama M, Inaoka M, Tomita T, Yokomi A, Satoh A, Hirano A, Hayashi M, Tsuji M, Kunugiza Y, Hamada M, Yoshikawa H : Effect of adalimumab therapy on musculoskeletal manifestations and health-related quality of life in patients with active psoriatic arthritis. Mod Rheumatol (Epub ahead of print), 2012.
2. 東山真里 : 乾癬. 横関博雄・片山一郎編, 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス - 鑑別と診断のポイント -. 44-49頁, 医薬ジャーナル社, 大阪, 2013.
3. 東山真里 : 乾癬, 古川福美編集, 日常診療で必ず遭遇する皮膚疾患トップ20攻略法. 71-80頁, 南山堂, 東京, 2013.

産婦人科

1. 尾上昌世, 大塚博文, 吉見佳奈, 久 毅, 小玉美智子, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎 : 嚢胞内に多数の“floating balls”を有する卵巣成熟嚢胞性奇形腫の1例. 産婦人科の進歩, 近畿産婦人科学会誌, 64 : 127-131, 2012.

眼科

1. 島袋幹子 : 眼科検査ナビゲーションブック. 眼科ケア 夏期増刊, 118-120頁, メディカ出版, 大阪, 2012.

耳鼻咽喉科

1. 神田枝里子, 赤羽 誉, 谷口由希子, 細野研二, 今泉広哲, 中川 厚, 三木俊治: めまいを主訴に当院救急搬送または時間外受診症例の過去1年間の臨床検討, 日生医誌, 40: 31-36, 2012.
2. 細野研二, 赤羽 誉, 岡本倫朋, 谷口由希子, 今泉哲宏, 大嶋正人: 甲状舌管と甲状腺に同時に乳頭癌を認めた1例. 頭頸部外科, 21: 281-285, 2012.
3. 細野研二, 赤羽 誉, 岡安 唯, 尾崎大輔: 当院補聴器外来の現況. 日生医誌, 40: 101-106, 2013
4. Okayasu T, Nishimura T, Yamashita A, Saito O, Fukuda F, Yanai S, Hosoi H: Human ultrasonic hearing is induced by a direct ultrasonic stimulation of the cochlea. Neuroscience Letters, 539, 71-76, 2013.

放射線科

1. Iwazawa J, Ohue S, Hashimoto N, Muramoto O, Mitani T: Survival after C-arm CT-assisted chemoembolization of unresectable hepatocellular carcinoma. Eur J Radiol, 81: 3985-3992, 2012.
2. Iwazawa J, Ohue S, Hashimoto N, Mitani T: Fusion of intravenous contrast-enhanced C-arm CT and pretreatment imaging for ablation margin assessment of liver tumors: a preliminary study. Indian J Radiol Imaging, 22: 250-252, 2012.
3. Iwazawa J, Hashimoto N, Ohue S, Mitani T: Initial safety and outcomes of miriplatin plus low-dose epirubicin for transarterial chemoembolisation of hepatocellular carcinoma. Anticancer Res, 32: 5039-5044, 2012.

麻酔・緩和医療科

1. 川原玲子: がんの経過に伴う症状へ有効な漢方薬. 北島政樹 今津嘉宏, がん漢方, 第1版, 142-151, 南山堂, 東京, 2012.
2. 玉井 裕, 岩澤 仁, 三谷 尚, 川原玲子: コーンビームCTガイド下に内臓神経ブロックを施行した1症例. 日生医誌, 40: 44-47, 2012.

予防医学センター

1. Sumitani S, Morita S, Yoshihiko Utsu, Kosuke Mukai, Shunji Miki, Bunzo Sato, Hideji Nakamura, Soji Kasayama: Effectiveness of metformin and lifestyle interventions as an initial treatment in

Japanese patients with newly diagnosed type 2 diabetes: a prospective observational study. J Med Invest, 59: 166-173, 2012.

2. Enomoto H, Inoue S, Matsuhisa A, Aizawa N, Imanishi H, Saito M, Iwata Y, Tanaka H, Ikeda N, Sakai Y, Takashima T, Shimomura S, Iijima H, Nakamura H, Nishiguchi S: Development of a new in situ hybridization method for the detection of global bacterial DNA to provide early evidence of a bacterial infection in spontaneous bacterial peritonitis. J. Hepatol, 56: 85-94, 2012.
3. Aizawa N, Enomoto H, Imanishi H, Saito M, Iwata Y, Tanaka H, Ikeda N, Sakai Y, Takashima T, Iwai T, Moriwaki E, Shimomura S, Iijima H, Nakamura H, Nishiguchi S: Elevation of the glycyted albumin to glycyated hemoglobin ration during the progression of hepatitis C virus related liver fibrosis. World J Hepatol, 4: 11-17, 2012.
4. Sakai Y, Enomoto H, Aizawa N, Iwata Y, Tanaka H, Ikeda N, Takashima T, Takata R, Iwai T, Uwata K, Saito M, Imanishi H, Iijima H, Nakamura H, Nishiguchi S: Relationship between elevation of glycyated albumin to glycyated hemoglobin ratio in patients with a high bleeding risk of esophagealvarices. Hepatogastroenterology, 20: 59 (119) (Epub), 2012.
5. Bando Y, Kanehara H, Aoki K, Toya D, Notsumata K, Tanaka N, Enomoto H, Nishiguchi S, Nakasho K, Nakamura H, Kasayama S, Koga M: The glycyated albumin to glycyated haemoglobin ratio increases along with the fibrosis stage in non-alcoholic steatohepatitis. Ann Clin Biochem, 49: 387-390, 2012.
6. Matsuda F, Torii Y, Enomoto H, Kuga C, Aizawa N, Iwata Y, Saito M, Imanishi H, Shimomura S, Nakamura H, Tanaka H, Iijima H, Tsutsui H, Tanaka Y, Nishiguchi S: Anti-interferon- α neutralizing antibody is associated with nonresponse to pegylated interferon- α plus ribavirin in chronic hepatitis C. J Viral Hepat. 19: 694-703, 2012.

中央臨床検査部

1. 山本慶子, 住谷 哲, 森田真也, 水口洋一, 浅野彰彦, 中村秀次, 笠山宗正: 糖尿病患者の平均血小板容積 (MPV) に影響する因子に関する検討. 日生医誌, 40: 107-111, 2012.
2. 内野高弘, 倉本訓子, 天野精子, 山本慶子, 池田久美, 吉田隆則, 水口洋一, 浅野彰彦, 稲岡正裕: 当院における廃棄血削減への取り組みー過去10年間の血液製剤使用状況と廃棄理由の解析ー. 日生医誌, 40: 19-23, 2012
3. 角田道久, 藤田育子, 新井幸子, 水口洋一, 浅野彰彦: 当院分離菌の検出頻度と薬剤感受性成績. 日生医誌, 40: 69-73, 2012
4. Abe H, Maeda D, Hino R, Otake Y, Isogai M, Shinozaki A, Matsusaka K, Kunita A, Ushiku T, Uozaki H, Tateishi Y, Hishima T, Iwasaki Y, Ishikawa S, Fukayama M: ARID1A expression loss in gastric cancer: pathway-dependent roles with and without Epstein-Barr virus infection and microsatellite instability. Virchows Arch, 461: 367-377, 2012.

学会・研究会発表

循環器内科・神経内科・呼吸器内科

1. 中川 厚: 糖尿病と心疾患 無症候性心筋虚血の早期診断と治療. 第2回 生活習慣病センター公開セミナー, 4月, 2012, 大阪.
2. 高橋秀明, 谷川 淳, 田中 克, 田崎龍之介, 横山亮, 垣田 謙, 徳岡孝仁, 藤坂智弘, 武田義弘, 岡部太一, 星賀正明, 石坂信和: 右冠動脈入口部ステント再狭窄に対するPCIにIVUSが有用であった1例. Complex PCI Circle勉強会, 4月, 2012, 大阪.
3. 濱田偉文: 高齢者高血圧の特徴と治療. 大正区・港区医師会合同学術講演会, 4月, 2012, 大阪.
4. 中川 厚: テーマ別インターベンション治療ライブ(分岐部病変). 近畿心血管治療ジョイントライブ(KCJL2012), 4月, 2012, 京都.
5. 村津 淳, 安賀裕二, 巴山里木, 平岡久豊, 松澤佑次, 八木良樹, 中川 厚, 濱田偉文, 山下静也: 多数の高度動脈硬化病変と著明な低HDL-CK血症を認め, Tangier病と考えられた一例. 第197回 日本内科学会近畿地方会, 6月, 2012, 神戸.
6. 出口令子, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 森田真也, 小瀬戸昌博, 笠山宗正, 仁科拓也, 濱田偉文, 佐々木敏作: レボカルニチン投与により脳血流

の改善を認めたミトコンドリア病の一例. 第197回 日本内科学会近畿地方会, 6月, 2012, 神戸.

7. 高橋秀明, 谷川 淳, 田中 克, 星賀正明, 石坂信和: 右冠動脈入口部ステント再狭窄に対するPCIにIVUSが有用であった1例. 第113回 日本循環器学会近畿地方会, 6月, 2012, 大阪.
8. 中川 厚: 新たな心血管リスクとしてのEPA/AA比. EPAセミナー, 7月, 2012, 大阪.
9. 濱田偉文: 高齢者高血圧の特徴. 日本ベーリンガーインゲルハイムセミナー, 7月, 2012, 大阪.
10. 中川 厚, 高橋秀明, 村西寛実, 長谷川浩司, 岡部太一, 濱田偉文: 冠動脈灌流型バルーンカテーテルの非Bailout症例に対する使用経験. 第19回 日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 11月, 2012, 京都.
11. 高橋秀明: 当院における静脈インターベンションの現在. ニッセイクリニカルカンファレンス, 11月, 2012, 大阪.
12. 濱田偉文: 降圧剤服用アドヒアランスー合剤のメリットについて. ニッセイクリニカルカンファレンス, 11月, 2012, 大阪.
13. 中川 厚: Complex PCI. 大阪冠疾患研究会(OCC2012), 11月, 2012, 大阪.
14. 村西寛実, 高橋秀明, 長谷川浩司, 中川 厚, 仁科拓也, 浅野彰彦, 濱田偉文: 下肢難治性潰瘍に対して経皮的血管形成術を施行した高齢関節リウマチ患者の1例. 第23回 日本老年医学会近畿地方会, 11月, 2012, 高槻.
15. 濱田偉文: 高血圧治療はなぜ必要か. 第23回日本老年医学会近畿地方会, 11月, 2012, 高槻.
16. 村西寛実, 高橋秀明, 長谷川浩司, 中川 厚, 濱田偉文: カテーテルインターベンション治療を施行した急性腎梗塞の1例. 大阪医科大学Clinical Conference of Cardiology, 12月, 2012, 大阪.
17. 高橋秀明, 村西寛実, 長谷川浩司, 中川 厚, 岡部太一, 仁科拓也, 浅野彰彦, 濱田偉文: 当院における下肢静脈インターベンションの現在. 第45回北摂臨床懇話会, 2月, 2013, 大阪.
18. 村西寛実, 中川 厚, 高橋秀明, 長谷川浩司, 岡部太一, 濱田偉文: カテーテルインターベンション治療を施行した急性腎動脈梗塞の一例. 第20回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 2月, 2013, 豊中.
19. 濱田偉文: 血圧と脂質とうまく付き合うために. 日生病院市民公開講座, 3月, 2013, 大阪.

消化器内科

1. 中村秀次：C型慢性肝炎の最新の治療法と近未来。ニッセイ医学セミナーUpdate, 4月, 2012, 大阪。
2. 中村秀次, 村本 理, 稲次洋平, 湯川雅彦：肝硬変患者におけるGlycated albumin/HbA1c ratioは肝予備能の指標となる。肝臓53, Suppl. (1), A269, 第48回 日本肝臓学会総会, 6月, 2012, 金沢。
3. 中村秀次：C型慢性肝炎の最新の治療法～ペグイントロン・レボトル・テラビック3者併用療法～。C型慢性肝炎治療を考える会, 6月, 2012。
4. 中村秀次, 村本 理, 稲次洋平, 三上高司, 湯川雅彦：肝硬変患者におけるGlycated albumin/HbA1c ratioと血清Albumin値との関連性の解析。肝臓53, Suppl. (2), A711, 第16回 日本肝臓学会大会 (JDDW2012), 10月, 2012, 神戸。
5. 中村秀次：肝硬変の療養について－薬物・食事・運動療法について－。大阪府難病医療相談会, 10月, 2012。
6. 中村秀次：C型慢性肝炎の最新治療 ～近未来を見据えて～。大阪府病院薬剤師会講演会 (大阪府病院薬剤師会, 第360回 診療所例会) 11月, 2012。
7. 中村秀次：自己免疫性肝疾患の診断と治療, および療養生活について。第58回 神戸市難病医療相談会, 12月, 2012。

総合内科

1. 村井 潤, 斎藤 博, 中村秀次, 笠山宗正, 古賀正史：糖尿病患者で血清CA19-9が高値をきたす機序に関する検討。第109回 日本内科学会総会・講演会, 4月, 2012, 京都。
2. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正：未治療2型糖尿病に合併した非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) に対する生活習慣介入と高用量メトホルミンの有効性。第109回 日本内科学会総会・講演会, 4月, 2012, 京都。
3. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正：初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミンの有効性－HbA1c低下作用とインスリン分泌能およびインスリン感受性との関連について。第85回 日本内分泌学会学術総会, 4月, 2012, 名古屋。
4. 平井孝一, 森田真也, 出口令子, 向井康祐, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正：インスリン負荷試験とGHRP-2負荷試験におけるGH頂値と血

清IGF-1値の関連について。第85回 日本内分泌学会学術総会, 4月, 2012, 名古屋。

5. 向井康祐, 森田真也, 平井孝一, 出口令子, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正：ACTH単独欠損症患者におけるコルチゾール・アルドステロン値と臨床症状の関連。第85回 日本内分泌学会学術総会, 4月, 2012, 名古屋。
6. 森田真也, 出口令子, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正：薬物療法を継続中の先端巨大症の予後に関する検討。第85回 日本内分泌学会学術総会, 4月, 2012, 名古屋。
7. 古賀正史, 村井 潤, 斎藤 博, 鈴木 滋, 棚橋佑典, 笠山宗正：慢性低血糖症特にインスリノーマにおけるHbA1c測定の有用性。第85回 日本内分泌学会学術総会, 4月, 2012, 名古屋。
8. 村井 潤, 斎藤 博, 鈴木 滋, 棚橋佑典, 笠山宗正, 古賀正史：インスリノーマの診断のためのFPG/FIRI比の新たなカットオフ値の提案。第85回 日本内分泌学会学術総会, 4月, 2012, 名古屋。
9. 出口令子, 森田真也, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正：長期間治療不十分であったバセドウ病の治療後にhungry bone syndromeによる低カルシウム血症をきたした一例。第85回 日本内分泌学会学術総会, 4月, 2012, 名古屋。
10. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正：初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミン投与と生活習慣介入の有効性に関する検討 (EMINENT Study：第2報)。第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜。
11. 麦田盛穂, 廣田将史, 田中 孝, 小倉敬子, 外山晶代, 片岡宏一郎, 角南ちえ子, 三木宏真, 藤島弘顕, 吉田博一, 稲岡正裕, 森田真也, 笠山宗正：糖尿病神経障害は人工関節置換術 (Total knee arthroplasty：TKA) 後早期の機能回復に影響を及ぼす。第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜。
12. 山本慶子, 住谷 哲, 森田真也, 水口洋一, 浅野彰彦, 中村秀次, 笠山宗正：平均血小板容積 (MPV) に影響する因子に関する検討。第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜。
13. 森田真也, 出口令子, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 三木俊治, 住谷 哲, 佐藤文三, 古賀正史, 笠山宗正：糖尿病罹病期間の長い患者ではグリコア

- ルブミンはHbA1cに比して高値を示す. 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
14. 古賀正史, 鈴木 滋, 松尾公美浩, 棚橋祐典, 笠山宗正: 過去の経時的な血糖値を用いてHbA1c, GAを算出する. 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
15. 小瀬戸昌博: 関節リウマチ治療の現状について. 第41回 ニッセイ医学セミナーUpdate, 5月, 2012, 大阪.
16. 出口令子, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 森田真也, 小瀬戸昌博, 笠山宗正, 仁科拓也, 濱田偉文, 佐々木敏作: L-レボカルニチン投与により脳血流の改善を認めたミトコンドリア病の1例. 第195回 日本内科学会近畿地方会例会, 6月, 2012, 神戸.
17. 笠山宗正: 病態とステージにあわせた糖尿病治療薬の選び方. 西区スモールセミナー, 6月, 2012, 大阪.
18. 出口令子: CSII(持続皮下インスリン注入)療法について. 糖尿病ケアカンファレンス, 6月, 2012, 大阪.
19. 小瀬戸昌博: 日生病院における膠原病診療について. リウマチ・膠原病セミナー, 6月, 2012, 大阪.
20. 藤本康介, 南 誠剛, 木庭太郎, 濱口眞成, 竹内美子, 仲谷健史, 緒方嘉隆, 山本 傑, 小牟田清: 進行期非小細胞肺癌肺癌症例においてオピオイドの導入が生命予後に及ぼす影響を検証した後方視的研究. 第17回 日本緩和医療学会学術大会, 7月, 2012, 神戸.
21. 藤本康介, タンガラージ・カルプチャミー, 武村直紀, 下吹越正紀, 町田朋久, 長谷田泰成, 青枝大貴, 石井 健, 植松 智, 審良静男: 粘膜固有層のCD103+CD8 α +樹状細胞はTLR3, TLR7, TLR9を発現しておりTh1応答と細胞傷害性T細胞活性を誘導する. 第77回 日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会, 7月, 2012, 神戸.
22. 佐藤文三: 糖尿病のトータルケア. 糖尿病のトータルケアを目指して, 7月, 2012, 大阪.
23. 笠山宗正: 糖尿病患者の骨粗鬆症にご用心. 大阪病院給食研究会-7月定例部会, 7月, 2012, 大阪.
24. 笠山宗正: 糖尿病患者における骨粗鬆症のマネジメント. 茨木市・CV-DMカンファレンス, 7月, 2012, 大阪.
25. 笠山宗正: 糖尿病のトータルマネジメント. 大阪南糖尿病・合併症治療セミナー2012, 8月, 2012, 大阪狭山.
26. 笠山宗正: 身体バランス検査による糖尿病性神経障害の評価. 第18回 糖尿病性神経障害を考える会, 8月, 2012, 東京.
27. 小瀬戸昌博: 当院における膠原病・リウマチ診療の取り組み. 第13回 あわぎフォーラム, 9月, 2012, 大阪.
28. 笠山宗正: 糖尿病診療の最近の動向. 第1回糖尿病治療のトピックス, 9月, 2012, 大阪.
29. 笠山宗正: 下垂体機能低下症のTreat to Target. 日本脳神経外科学会第71回学術総会(ランチョンセミナー), 10月, 2012, 大阪.
30. 森田真也, 出口令子, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 小瀬戸昌博, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正, 友永真人, 稲岡正裕, 南 朋子, 北村哲宏, 大月道夫, 下村伊一郎, 齋藤洋一: 腰椎圧迫骨折を契機に診断されたクッシング病患者におけるテリパラチドの治療経験. 第13回 日本内分泌学会近畿支部学術集会, 10月, 2012, 大阪.
31. 大月道夫, 齋藤洋一, 笠山宗正, 有田憲生, 岡本新悟, 佐藤文三: オクトレオチドLAR治療が先端巨大症患者のQOLに与える影響. 第8回 アクロメガリーフォーラム, 10月, 2012, 大阪.
32. 森田真也, 藤本康介, 出口令子, 宇都佳彦, 小瀬戸昌博, 住谷 哲, 三木俊治, 佐藤文三, 大月道夫, 齋藤洋一, 笠山宗正: オクトレオチドにより長期間管理中の先端巨大症患者の2例. 第8回 アクロメガリーフォーラム, 10月, 2012, 大阪.
33. 笠山宗正: 糖尿病性神経障害の診療のコツ. 第15回 池田糖尿病勉強会, 10月, 2012, 大阪.
34. 笠山宗正: 病態とステージにあわせた糖尿病治療薬の選び方. 中央区糖尿病情報交換会, 10月, 2012, 大阪.
35. 出口令子, 藤本康介, 宇都佳彦, 森田真也, 小瀬戸昌博, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正, 竹本雅子, 中川雅史: 鉄芽球性貧血に糖尿病を合併した1例. 第49回 日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2012, 京都.
36. 森田真也, 平井孝一, 藤本康介, 出口令子, 宇都佳彦, 小瀬戸昌博, 住谷 哲, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: インスリンからビルダグリプチンへの変更が有効であった抗インスリン抗体高値糖尿病の1例. 第49回 日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2012, 京都.
37. 角南ちえ子, 出口令子, 藤本康介, 宇都佳彦, 森田真也, 住谷 哲, 小瀬戸昌博, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: インスリンからリラグチドへ切替後メトホルミンでコントロールし得た2型糖尿

- 病の1例. 第49回 日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2012, 京都.
38. Sumitani S, Morita S, Utsu Y, Deguchi R, Fujimoto K, Koseto M, Miki S, Sato B, Nakamura H, Kasayama S: Is an initial treatment with metformin and lifestyle interventions effective and safe for long terms in Japanese patients with newly diagnosed type 2 diabetes mellitus? 9th International Diabetes Federation Western Pacific Region Congress, 4th Scientific Meeting of the Asian Association for the Study of Diabetes, 11月, 2012, Kyoto.
 39. 藤本康介, 南 誠剛, 緒方嘉隆, 仲谷健史, 竹内美子, 濱口眞成, 木庭太郎, 山本 傑, 小牟田清: 肺癌終末期診療における‘心肺蘇生処置をしないこと’ (Do-not-resuscitate) への同意確認の背景と影響. 第53回 日本肺癌学会総会, 11月, 2012, 岡山.
 40. 笠山宗正: 糖尿病神経障害の診断と治療－最近の動向. 第9回 中之島フットケアフォーラム, 11月, 2012, 大阪.
 41. 豊田新一郎: 経過中に混合型自己免疫性溶血性貧血 (AIHA) を発症し, その治療中に免疫性血小板減少性紫斑病 (ITP) を発症した全身性エリテマトーデス (SLE) の1例. 病診連携ニッセイクリニカルカンファレンス, 11月, 2012, 大阪.
 42. 藤本康介, 山元麻生, 出口令子, 宇都佳彦, 森田真也, 鈴木真優美, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正, 小瀬戸昌博: 大量の好酸球性胸水を伴ったChurg-Strauss症候群の1例. 第199回 日本内科学会近畿地方会, 12月, 2012, 大阪.
 43. 山元麻生, 出口令子, 藤本康介, 宇都佳彦, 森田真也, 小瀬戸昌博, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 治療に難渋した純粋型自律神経不全症の一例. 第199回 日本内科学会近畿地方会, 12月, 2012, 大阪.
 44. 出口暁子, 伊藤有希子, 松村寿美, 角南ちえ子, 井上恵子, 川瀬俊子, 住谷哲, 笠山宗正: 糖尿病患者の安静時代謝量・身体活動量の測定値に基づく指示エネルギー摂取量を用いた栄養指導の有効性. 第16回 日本病態栄養学会年次学術集会, 1月, 2013, 京都.
 45. 山元麻生: 純粋型自律神経不全症の治療経験. 大阪臨床糖尿病研究会, 2月, 2013, 大阪.
 46. 森田真也, 平井孝一, 出口令子, 向井康祐, 宇都佳彦, 小瀬戸昌博, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 血清IGF-1値はGHRP-2負荷試験時のGH頂値よりインスリン負荷試験時のGH頂値と強く相関する. 第23回日本間脳下垂体腫瘍学会, 3月, 2013, 鹿児島.
 47. 有田英之, 木下学, 押野悟, 後藤雄子, 北村哲宏, 大月道夫, 笠山宗正, 吉峰俊樹, 齋藤洋一: 先端巨大症におけるTRH試験反応性と腫瘍の統制に関する検討. 第23回日本間脳下垂体腫瘍学会, 3月, 2013, 鹿児島.
 48. 山元麻生, 藤本康介, 出口令子, 宇都佳彦, 森田真也, 鈴木真優美, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正, 小瀬戸昌博: 大量の好酸球性胸水を伴ったEosinophilic Granulomatosis with Polyangitis (EGPA) の1例. 第48回OIDカンファレンス, 3月, 2013, 大阪.
 49. 清水綾, 藤本康介, 出口令子, 宇都佳彦, 森田真也, 鈴木真優美, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正, 小瀬戸昌博: 間質性肺炎で発見された抗Synthetase症候群の1例. 第48回OIDカンファレンス, 3月, 2013, 大阪.
 50. 川崎貴裕, 加藤保宏, 福井潤, 森田貴義, 小林久美子, 松下成孝, 木口雄之, 藤見聡, 笠山宗正, 小瀬戸昌博, 藤原弘士: 後腹膜, 上腕, 臀部において動脈性出血を来したSLEの1例. 第48回OIDカンファレンス, 3月, 2013, 大阪.
 51. 笠山宗正: 糖尿病治療薬の選択の最近の動向について－アンケート調査報告. 第6回大阪ベイサイド糖尿病ケアセミナー, 3月, 2013, 大阪.

血液・化学療法内科

1. 石河 純: 成人T細胞性白血病/リンパ腫 Adult T-cell leukemia/lymphoma (ATLL) の診断と治療. ニッセイ医学セミナーUpdate, 6月, 2012.
2. 石河 純, 川上 学, 中川雅史: レナリドミド投与後, シクロホスファミド大量療法にて幹細胞動員不良であったが, シタラビン大量療法にて十分な末梢血幹細胞を採取し得た多発性骨髄腫の1例. 第97回 近畿血液学地方会, 6月, 2012, 京都.
3. 佐藤和明: 消化管悪性リンパ腫の精査中に肺腫瘍性病変を指摘された症例. 内科合同カンファ・救急症例検討会, 7月, 2012.
4. Kohara T, Shibayama H, Nakagawa M: Evaluation of efficacy and safety of Bendamustine (B) treatment in Osaka Lymphoma Study Group (OLSG). 第74回 日本血液学会, 10月, 2012, 京都.
5. Hashimoto K, Shibayama H, Nakagawa M: Efficacy and safety of L-AMB as empirical antifungal therapy in FN of hematological

- diseases. 第74回 日本血液学会, 10月, 2012, 京都.
6. Kida T, Kosugi S, Nakagawa M: Results of starting dose/schedule modification of bortezomib in long-term treated multiple myeloma. 第74回 日本血液学会, 10月, 2012, 京都.
 7. 石河 純: JAK2V617F変異を確認した真性多血症の1例. ニッセイクリニカルカンファレンス, 11月, 2012.
 8. 佐藤和明: 再発を繰り返した皮膚原発未分化大細胞リンパ腫の1例. 大阪PETクラブ, 2月, 2013, 大阪.
 9. 川上 学, 石河 純, 中川雅史: 単一施設における初発多発性骨髄腫に対する自家末梢血幹細胞移植. 第35回日本造血細胞移植学会, 3月, 2013, 金沢.
 10. 石河 純: Switch from Bortezomib to Lenalidomide ~ When and How to Decide?. MM-MRD研究会, 3月, 2013, 大阪.
 11. Ishiko J: BCR-ABL-Induced Downregulation of GADD45G in Chronic Myeloid Leukemia. Highlights of ASH® in Asia, 3月, 2012, 上海.

神経科・精神科

1. 江川 功: てんかん患者の運転免許. 病院精神科医・産業医メンタルケア研究会, 6月, 2012, 大阪.
2. 高橋 励: 抗うつ薬エス=シタロプラムの臨床的特徴 - 自験例25例の分析. 吉富製薬社内講演会, 7月, 2012, 大阪.
3. 高橋 励: 難治性精神疾患に対する抗てんかん薬Levetiracetamの効果と神経ネットワークモデルの提唱. UCBジャパン・大塚製薬合同社内講演会, 8月, 2012, 大阪.
4. 江川 功: 当院におけるミルタザピンの使用経験. 9月, 2012, 大阪.
5. 高橋 励: 講義と演習「コミュニケーション」他. 済生会野江病院緩和ケア講習会, 9月, 2012, 大阪.
6. 江川 功: 多発性骨髄腫の加療中にRLSとうつ病が発症した1例. 精神科フォーラム, 10月, 2012, 大阪.
7. 高橋 励: 講義と演習「コミュニケーション」他. 日生病院緩和ケア講習会, 10月, 2012, 大阪.
8. 高橋 励: 双極Ⅰ型・Ⅱ型障害に対する抗うつ薬の使用. 大阪精神科フォーラム, 10月, 2012, 大阪.
9. 高橋 励: 非定型抗精神病薬Aripiprazoleの適応外使用について. ABILIFYフォーラム, 12月, 2012, 大阪.
10. 高橋 励: 「難治性あるいは慢性精神疾患の皮質・皮質下ネットワーク=モデル試論-気分障害圏から身体表現性障害まで」, 精神生理学研究会, 1月, 2013, 大阪.
11. 高橋 励: 「うつ病治療における薬物療法の進歩」, 此花区医師会学術講演会, 1月, 2013, 大阪.
12. 高橋 励: 「抗うつ薬エス=シタロプラムの使い方-抗うつ薬に関するデータは正しく臨床医に伝えられているのか?」, LEXAPROミーティング, 2月, 2013, 大阪.
13. 木藤友実子: 認知症を理解する. 認知症等高齢者支援地域連携事業, 3月, 2013, 大阪.

消化器・一般外科

1. 佐藤和明, 森田哲史, 吉良俊彦, 黄 泰平, 出口令子, 藤川正博: 結核性腹膜炎を契機に診断治療した上行結腸癌の1例, 第590回 大阪外科集談会, 11月, 2012年, 大阪.
2. 黄 泰平, 藤川正博, 森田哲史, 吉良俊彦: 子宮内膜症に起因した鼠径ヘルニア(鼠径部子宮内膜症)術後に合併した子宮円索断裂腹腔内出血の1例. 第74回 日本臨床外科学会総会, 11月, 2012, 東京.

乳腺外科

1. 西田幸弘: Life threateningな転移を来した閉経前Lum A乳癌の1治療例. The 6th Kinki Breast Cancer Frontier Meeting, 5月, 2012, 大阪.
2. 西田幸弘: 乳がんのサブタイプ別治療方針. 外来講師研修, 5月, 2012, 大阪.
3. 西田幸弘, 橘高信義, 塩見真由, 松浦三月, 酒井希代子, 大島千春: 進行再発乳癌に対するエリブリンメシル酸塩(ERI)の有効性と安全性の検討. 日本乳癌学会学術総会(20), 6月, 2012, 熊本.
4. 西田幸弘, 富永修盛, 増田慎三, 鶴谷純司, 佐藤太郎, 川上尚人, 岡本 勇, 森本 卓, 山口正秀, 松並展輝, 新井貴士, 坂本純一, 中山貴寛, 中川和彦: アンスラまたはタキサン耐性のHER2陽性乳癌に対するCPT-11+trastuzumab併用療法におけるfeasibility trial. 日本乳癌学会学術総会(20), 6月, 2012, 熊本.
5. 橘高信義, 西田幸弘, 塩見真由, 松浦三月: 当院におけるMDCT画像による乳癌術前症例の腋窩リンパ節転移診断に関する検討. 日本乳癌学会学術総会(20), 6月, 2012, 熊本.
6. 塩見真由, 橘高信義, 西田幸弘: Lapatinib+Capecitabine療法にて減量後も継続治療により

奏功の得られた2例. 日本乳癌学会学術総会 (20), 6月, 2012, 熊本.

7. 松浦三月, 湯阪久美子, 吉村恵利子, 村上粋子, 西田幸弘: FEC療法による血管障害が及ぼす日常生活への影響の調査. 日本乳癌学会学術総会 (20), 6月, 2012, 熊本.
8. 西田幸弘: よくわかる乳がんセミナー ～もっと知っておきたい, 乳がんのこと～ 乳がんの現状・予防法・検診について. 日本生命保険相互会社 沼津支社, 7月, 2012, 沼津.
9. 橘高信義, 西田幸弘: 乳癌の薬物療法～ 内分泌療法を中心に ～ 日生病院合同ケモ・カンファレンス, 7月, 2012, 大阪.
10. 西田幸弘, 橘高信義, 塩見真由: Medroxyprogesterone Acetate (MPA) が長期有効であった乳癌肝転移の1例. 乳癌最新情報カンファランス (13), 8月, 2012, 福岡.
11. 塩見真由, 橘高信義, 西田幸弘: 胸部打撲により発見された乳腺紡錘細胞癌の1例. 乳癌最新情報カンファランス (13), 8月, 2012, 福岡.
12. 西田幸弘, 橘高信義: 生命保険会社営業所における営業員・顧客に対する講演による乳癌検診啓蒙活動. ～生命保険会社だから出来ること～. 日本乳癌検診学会総会 (22), 11月, 2012, 宜野湾.
13. 酒井希代子, 松浦三月, 大畠千春, 橘高信義, 西田幸弘: 術後化学療法を中断した乳がん患者への関わり～チーム医療の観点から, 今後の課題を考える～. 大阪乳がんチーム医療講演会, 2012, 大阪.
14. 橘高信義, 西田幸弘: 今日の乳癌診療_外科的治療について. 第48回ニッセイ医学セミナーUpdate, 1月, 2013, 大阪.
15. 越智紗矢香, 橘高信義, 西田幸弘: 当院における乳癌術前針生検と手術標本のHER2発現度の一致率に関する検討. 2年目研修医症例発表会, 1月, 2013, 大阪.
16. 西田幸弘: ～知っておきたい, 乳がんのこと～ 乳がんの現状・予防法・検診について. 日本生命保険相互会社 大分支社, 2月, 2013, 大分.
17. 西田幸弘: ～知っておきたい, 乳がんのこと～ 乳がんの現状・予防法・検診について. 日本生命保険相互会社 大分支社, 2月, 2013, 中津.
18. 西田幸弘: 乳がんの薬物治療. 外来講師研修, 2月, 2013, 大阪.

整形外科

1. 吉田博一, 友永真人, 三木宏真, 稲岡正裕: 消化管間質腫瘍 (Gastrointestinal Stromal Tumor) の骨転移による大腿骨頸部病的骨折の1例. 第118回中部整形外科災害外科学会, 4月, 2012, 大阪.
2. 川本匡規: 学童期に発症したMRSAによる化膿性肘関節炎の一例. 第118回 中部整形外科災害外科学会, 4月, 2012, 大阪.
3. 友永真人: LUBACによるNuclear Factor-kappa B活性化は骨肉腫細胞の肺転移を促進する. 第14回 なにわ骨代謝・骨腫瘍研究会, 8月, 2012, 大阪.
4. 稲岡正裕, 三木宏真, 糸原朋信, 友永真人, 川本匡規: 支援学校教職員の腰痛の現状－10年間の比較－. 第20回 日本腰痛学会, 11月, 2012, 神戸.
5. 川本匡規: 浅大腿動脈損傷を合併した足背動脈触知可能な大腿骨骨幹部骨折の一例. 第40回 救急医学会総会, 11月, 2012年, 京都.

皮膚科

1. 東山真里: 乾癬治療選択update. 第8回 皮膚免疫疾患研究会, 4月, 2012, 大阪.
2. 東山真里: 乾癬治療選択update. 西神, 明石地区乾癬講演会, 4月, 2012, 神戸.
3. 林 美沙, 平野亜由子, 遠山知子, 中川幸延, 東山真里, 森田真也, 笠山宗正: アダリムマブ投与中に肺感染症を合併した尋常性乾癬の4例. 第28回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 4月, 2012, 福岡.
4. 平野亜由子, 岡田みどり, 林 美沙, 東山真里: 高齢者の鼠径部に生じた巨大有棘細胞癌. 第201回大阪症例検討会, 5月, 2012, 大阪.
5. 岡田みどり, 中野真由子, 山岡俊文, 清原英司, 荒瀬規子, 横見明典, 種村 篤, 片山一郎, 岩崎哲也, 宮崎昌典, 薬師神宗行: 十二指腸転移をきたしたメルケル細胞癌の1例. 日本皮膚悪性腫瘍学会, 6月, 2012, 札幌.
6. 東山真里: 注意を要する薬疹: C型慢性肝炎治療を考える会, 6月, 2012, 大阪.
7. 東山真里: 病診連携からみた乾癬治療－生物学的製剤も含めて. 乾癬治療病診連携の会, 6月, 2012, 奈良.
8. 林 美沙, 平野亜由子, 岡田みどり, 東山真里: アダリムマブ投与中に肺感染症を合併した尋常性乾癬の4例. 第105回近畿集談会, 6月, 2012年, 京都.
9. 東山真里, 岡田みどり, 林 美沙, 平野亜由子: 生物製剤が奏効した乾癬性紅皮症. 第27回 日本乾

癬学会, 9月, 新潟.

10. 辻 成佳, 濱田雅之, 東山眞里, 平野亜由子, 林美沙, 岡田みどり, 稲岡正裕, 富田哲也, 吉川秀樹: 乾癬性関節炎に対するアダリムマブの52週での有効性と安全性の検討. 第27回 日本乾癬学会, 9月, 新潟.
11. 東山眞里: インフリキシマブが奏効した乾癬性ぶどう膜炎の2例. 第22回 日本脊椎関節炎学会, 9月, 2012, 大阪.
12. 東山眞里: 尋常性乾癬の症状と治療選択. 第22回 日本脊椎関節炎学会スポンサードシンポジウム, 9月, 2012, 大阪.
13. 東山眞里: 乾癬に合併する疾患ーメタボリック症候群・ブドウ膜炎. 第76回 日本皮膚科学会東部支部学術大会 ランチョンセミナー, 9月, 2012, 札幌.
14. 東山眞里: 卒後29年を経て女性皮膚科医師に伝えたいこと. 第63回 日本皮膚科学会中部支部学術大会皮膚科の女性医師を考える会, 10月, 2012, 大阪.
15. 東山眞里: 乾癬の患者さんはメタボに注意を! 大阪乾癬患者会友の会学習会, 11月, 2012.
16. 林 美沙: ヘルペスにご注意・医療講演. 第11回 日生病院皮膚の日の催し, 11月, 2012.
17. 東山眞里: 注意を要する薬疹. 大阪府病院薬剤師会講演会, 第360回 診療所例会, 11月, 2012, 大阪.
18. 東山眞里: 抗がん剤の皮膚副作用対策ー現状と治療ー皮膚副作用のケアで困った症例ありませかへ. 第4回 がん薬物療法アーベント, 12月, 2012, 大阪.
19. 岡田みどり, 林 美沙, 高橋玲子, 東山眞里: 最近1年間で当院で経験した高齢者の帯状疱疹. 第434回 大阪地方会, 12月, 2012, 大阪.
20. 東山眞里: 乾癬と併存症ーメタボリック症候群. 日生ベーシックセミナー, 1月, 2013, 大阪.
21. 平野亜由子, 岡田みどり, 林 美沙, 東山眞里: 蚊アレルギーと考えた1例. 第435回大阪地方会, 2月, 2013, 大阪.
22. 東山眞里: 乾癬治療新時代ーかゆみのコントロールも含めて. 第26回北河内女医の会, 3月, 2013, 大阪.
23. 平野亜由子, 岡田みどり, 林 美沙, 東山眞里: 糖尿病を合併した背部皮下膿瘍の1例. 第436回大阪地方会, 3月, 2013, 大阪.
24. 東山眞里: 乾癬に合併する疾患. 第4回大阪バイオフォーラム, 3月, 2013, 大阪.

泌尿器科

1. 花房隆範, 金宮健翁, 福本 亮, 福井辰成, 黒田昌

男: 前立腺癌に対する間歇的内分泌療法における休業期間延長症例の検討. 第100回 日本泌尿器科学会総会, 4月, 2012, 横浜.

2. 花房隆範, 福本 亮, 福井辰成, 黒田昌男: T1膀胱癌に対するsecond TURの検討. 第62回 日本泌尿器科学会中部総会, 11月, 2012, 富山.
3. 福本 亮, 花房隆範, 福井辰成, 黒田昌男: 去勢抵抗性前立腺癌に対するドセタキセルを用いた化学療法の治療効果の検討. 第62回 日本泌尿器科学会中部総会, 11月, 2012, 富山.

産婦人科

1. 尾上昌世, 大塚博文, 吉見佳奈, 久 毅, 小玉美智子, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: GnRHa治療後に急性腹症を発症し敗血症に至った子宮腺筋症内膿瘍の1例. 第64回 日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2012, 神戸.
2. 大塚博文, 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 大きな子宮に対する全腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)の検討. 第64回 日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2012, 神戸.
3. 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 腹腔鏡下子宮筋腫核出術に対する自己血輸血についての検討. 第64回 日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2012, 神戸.
4. 橋本奈美子, 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 腹腔鏡下における子宮筋腫核出術の妊娠・分娩に対する影響について. 第64回 日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2012, 神戸.
5. 佐伯典厚: 子宮筋腫の手術療法ー腹腔鏡下子宮筋腫核出術(LM)の占める位置. 第1回 ニッセイ産婦人科病診連携懇話会, 6月, 2012, 大阪.
6. 橋本奈美子: 子宮内膜症の手術および術後再発予防. 第1回 ニッセイ産婦人科病診連携懇話会, 6月, 2012, 大阪.
7. 大塚博文: TLH(Total Laparoscopic Hysterectomy): 良性疾患から体癌へ. 第1回ニッセイ産婦人科病診連携懇話会, 6月, 2012, 大阪.
8. 尾上昌世, 橋本奈美子, 大塚博文, 小玉美智子, 吉見佳奈, 祝小百合, 羽田野悠子, 高山敬範, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 卵巣原発印環細胞癌と考えられた1例. 第32回 大阪大学産婦人科オープンクリニ

カルカンファレンス, 7月, 2012, 大阪.

9. 吉見佳奈, 尾上昌世, 祝小百合, 羽田野悠子, 高山敬範, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 広靱帯内筋腫を腹腔鏡下に核出した経験. 第52回 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2012, 札幌.
10. 吉見佳奈, 尾上昌世, 祝小百合, 羽田野悠子, 高山敬範, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 卵巣原発印環細胞癌と考えられた1例. 第52回 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2012, 札幌.
11. 大塚博文, 小玉美智子, 吉見佳奈, 尾上昌世, 祝小百合, 羽田野悠子, 高山敬範, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 大きな子宮に対する全腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)の検討. 第52回 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2012, 札幌.
12. 大塚博文, 小玉美智子, 吉見佳奈, 尾上昌世, 祝小百合, 羽田野悠子, 高山敬範, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 大きな頸部筋腫に対して全腹腔鏡下子宮全摘(TLH)を施行した症例. 第35回 日本産婦人科手術学会, 9月, 2012, 京都.
13. 橋本奈美子, 大塚博文, 小玉美智子, 吉見佳奈, 尾上昌世, 祝小百合, 羽田野悠子, 高山敬範, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)における尿管損傷~0%維持をめざして. 第35回 日本産婦人科手術学会, 9月, 2012, 京都.
14. 尾上昌世, 吉見佳奈: 結紮・縫合未経験からの出発~TLHまでの道のり. 第2回 ニッセイ産婦人科内視鏡研究会, 10月, 2012, 大阪.
15. 佐伯典厚: ~総論~ 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定取得をめざして. 第2回 ニッセイ産婦人科内視鏡研究会, 10月, 2012, 大阪.
16. 大塚博文: 安全にTLHを行うために. 第2回ニッセイ産婦人科内視鏡研究会, 10月, 2012, 大阪.
17. 祝小百合, 尾上昌世, 橋本奈美子, 大塚博文, 小玉美智子, 吉見佳奈, 羽田野悠子, 高山敬範, 佐伯典厚, 船渡孝郎: OHVIRA症候群に対し膣中隔切除を施行した1例. 第33回 大阪大学産婦人科オープンクリニカルカンファレンス, 11月, 2012, 大阪.
18. 橋本奈美子: 子宮内膜症性嚢胞の術後再発予防に関する検討. 第6回 子宮内膜症セミナー, 12月, 2012, 大阪.
19. 船渡孝郎: シンポジウム “低侵襲外科治療の現況-勤労者医療における意義-” 産婦人科. 第60回 日本職業・災害医学会学術大会, 12月, 2012, 大阪.

眼科

1. 島袋幹子, 瀬口道秀: ウイルスキットが診断に有用であった角膜移植後感染性角膜炎の1例. 第1回 大阪西部眼科病診連携の会, 5月, 2012, 大阪.
2. 島袋幹子: 白内障手術におけるクリニカルパス. 第8回 クリニカルパス大会 6月, 2012, 大阪.
3. 島袋幹子: ドライアイ治療におけるムコスタ点眼の役割「当院における症例報告」. 大阪大学関連ムコスタ研究会, 2月, 2013, 大阪

耳鼻咽喉科

1. 赤羽 誉, 細野研二, 今泉哲宏, 岡安 唯: 当科における気管傍郭清術. 畝傍カンファレンス, 4月, 2012, 橿原.
2. 岡安 唯, 西村忠己, 山下哲範, 松井淑恵, 下倉良太, 柳井修一, 細井裕司, 柳井修一: -シスプラチンを用いた化学放射線療法が骨導超音波聴力に与える影響-. 第113回 日本耳鼻咽喉科学会総会学術講演会, 5月, 新潟.
3. 赤羽 誉: 耳鼻咽喉科領域の感染症. 第39回RST勉強会(大阪市中央区医会), 5月, 2012, 大阪.
4. 細野研二, 赤羽 誉, 今泉宏哲, 岡安 唯, 谷口由希子: -当科における記録画像活用化の工夫-. 第74回 耳鼻咽喉科臨床学会学術講演会, 7月, 東京.
5. Okayasu T, Nishimura T, Yamashita A, Uratani Y, Hosoi H, Nakagawa S: National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST) “Mismatch fields elicited by prosodic change of speech-modulated bone-conducted ultrasound. 18th International conference on Biomagnetism, 8月, 2012, フランス, パリ.
6. 岡安 唯: -脳磁図を用いた骨導超音波聴覚の研究-. 第1回 大阪ENT講演会, 10月, 2012, 大阪.
7. 岡安 唯, 中川誠司, 西村忠己, 山下哲範, 吉田悠加, 長谷芳樹, 細井裕司: 刺激の周波数構造が聴覚野の時間積分に与える影響について. 第57回 日本聴覚医学会総会・学術講演会, 10月, 京都.
8. 岡安 唯: 脳磁図を用いた骨導超音波の研究について. 第19回 青磁会, 10月, 2012, 大阪.
9. 成尾一彦, 山中敏彰, 細井裕司, 岡安 唯, 尾崎大輔: 長期入院を要した下降性壊死性縦隔炎の1症例. 第323回 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会, 12月, 2012, 大阪
10. 岡安 唯: Duration-dependent growth of Nlm for speech-modulated bone-conducted ultrasound (骨

導超音波語音における刺激長に伴うN1mの増加について). 平成25年畝火研究会, 1月, 2013, 奈良.

11. 成尾一彦, 岡安 唯, 細井裕司: 治療に難渋した深頸部感染症に合併した下降性壊死性縦隔炎例. 第23回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会, 1月, 2013, 鹿児島.
12. 細野研二, 赤羽 誉, 今泉宏哲, 岡安唯, 尾崎大輔: 甲状腺血管腫の1例. 第324回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 3月, 2013, 大阪.
13. 宮前了輔, 西村忠己, 岡安 唯, 山下哲範, 山中敏彰, 細井裕司: 当科における蝸電図の臨床統計. 第324回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 3月, 2013, 大阪.

放射線科

1. Iwazawa J, Ohue S, Hashimoto N, Mitani T: Local progression following the lipiodol-based targeted chemoembolization of hepatocellular carcinoma: a retrospective comparison of miriplatin and epirubicin. APCCVIR, 5月, 2012, 神戸.
2. Iwazawa J, Hashimoto N, Ohue S, Mitani T: Initial safety and outcomes of miriplatin plus low-dose epirubicin for transarterial chemoembolization of unresectable hepatocellular carcinoma. ILCA Berlin, 9月, 2012, ドイツ, ベルリン.
3. Iwazawa J, Hashimoto N, Ohue S, Mitani T: Survival after C-arm computed tomography-assisted chemoembolization of unresectable hepatocellular carcinoma. ILCA, 9月, 2012, ドイツ, ベルリン.
4. 橋本尚子, 岩澤 仁, 三谷 尚, 大上庄一: HCCに対するTACEにおけるミリプラチン単独とミリプラチン+エピルビシン併用の局所再発率に関する比較検討. 第48回 日本医学放射線学会秋季臨床大会, 9月, 2012, 長崎.
5. 三谷 尚: 320列CT導入の紹介—その特長と有用性について—. 第13回 あわぎフォーラム, 9月, 2012, 大阪.

麻酔・緩和医療科

1. 川原玲子, 林 行雄, 森隆比古, 真下 節: 「麻酔総合研修システム in OSAKA」による麻酔専門医育成のための卒後教育への取り組み. 第59回日本麻酔科学会学術集会, 5月, 2012, 神戸.
2. 奥野聡子, 清水梨江, 玉井 裕, 山崎恭子, 花田留

美, 川原玲子: 膝関節置換術後疼痛管理におけるPatient Controlled Analgesia (PCA) を用いた持続大腿神経ブロックの効果の検討. 第59回 日本麻酔科学会学術集会, 5月, 2012, 神戸.

3. 清水梨江, 玉井 裕, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子: 単孔式腹腔鏡手術 (SILS) の術後鎮痛における超音波ガイド下腹横筋膜面ブロックと腹直筋鞘ブロックの臨床的検討. 第59回 日本麻酔科学会学術集会, 5月, 2012, 神戸.
4. 山本実加, 小山佐知子, 花田留美, 川原玲子: Patient Controlled Analgesia (PCA) 間歇投与を頻回に行う症例の疼痛管理. 第17回 日本緩和医療学会学術大会, 6月, 2012, 神戸.
5. 小山佐知子, 丸山加奈, 森真由子, 川原玲子, 寺川直樹: 描画を用いてコミュニケーションをはかった舌癌の1症例. 第17回 日本緩和医療学会学術大会, 6月, 2012, 神戸.
6. 川原玲子, 奥野聡子, 花田留美: 六君子湯の食欲亢進作用の検討. 第63回 日本東洋医学会学術総会, 6月, 2012, 京都.
7. 麦田盛穂, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子: 婦人科単孔式腹腔鏡手術の術後回復力強化における超音波ガイド下ブロックの効果の検討. 日本ペインクリニック学会第46回大会, 7月, 2012, 松江.
8. 三木和美, 加藤千尋, 花田留美, 川原玲子: 癌性腹膜炎に対しKM-CART療法を施行した3症例. 日本ペインクリニック学会第46回大会, 7月, 2012, 松江.
9. 川原玲子, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美: 超音波ガイド下腹横筋膜面ブロックの婦人科腹腔鏡手術の術後動作時痛に対する効果の検討. 日本ペインクリニック学会第46回大会, 7月, 2012, 松江.
10. 花田留美, 山崎恭子, 奥野聡子, 川原玲子: 否認に対してオランザピンが有効であった一例. 日本ペインクリニック学会第46回大会, 7月, 2012, 松江.
11. Mugita M, Kawahara R, Tamai Y, Yamasaki K, Okuno S, Hanada R, Inaoka M, Funato T: The effects of ultrasound-guided transversus abdominis plane (TAP) block and rectus sheath (RS) block for pain control and recovery after gynecologic transumbilical single incision laparoscopic surgery (SILS). International Association for the study of pain 14th World Congress on Pain, 8月, 2012, イタリア, ミラノ.

12. 小山佐知子, 森真由子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子, 寺川直樹: 緩和ケア患者の口腔内疼痛に対する立効散の効果. 第24回 日本疼痛漢方研究会学術集会, 8月, 2012, 東京.
13. Kawahara R, Hanada R, Okuno S, Yamasaki K, Tamai Y, Honsyo I, Shimizu R: Effects of rikkunshito, a traditional Japanese medicine, on the recovery of food intake after surgical stress. OESO 11th World Conference, 9月, 2012, イタリア, コモ.
14. 本庄郁子, 清水梨江, 玉井 裕, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子: 術前にiv-PCAを必要とした腫瘍患者の周術期疼痛管理. 日本麻酔科学会第58回 関西支部学術集会, 9月, 2012, 大阪.
15. Shimizu R, Kawahara R, Tamai Y, Yamasaki K, Okuno S, Hanada R, Funato T: The combination of ultrasound-guided rectus sheath (RS) and transversus abdominis plane (TAP) blocks is superior to the RS or TAP block alone for pain control after gynecologic transumbilical single incision laparoscopic surgery. Anesthesiology, 10月, 2012, アメリカ, ワシントン.
16. 川原玲子: 慢性疼痛のマネジメントー新規薬剤を中心にー. 此花区医師会講演会, 10月, 2012, 大阪.
17. 丸山加奈, 小山佐知子, 森真由子, 川原玲子, 寺川直樹: 描画を用いてコミュニケーションをはかった舌癌の1症例. 大阪がん緩和ネット研究会, 12月, 2012, 大阪.
18. 加藤千尋 三木和美 川原玲子: 癌性腹水に対するKM-CART療法施行例の臨床的検討. 第40回 日本集中治療医学会学術集会, 2月, 2013, 松本.
19. 川原玲子: 漢方薬の緩和医療への展開. 第8回専攻医・臨床研修セミナー, 2月, 2013, 大阪.
20. 川原玲子: 難治性腹水に対するKM-CART治療. 第6回大阪北緩和ケアセミナー, 2月, 2013, 大阪.
21. 川原玲子: 緩和医療における漢方薬を用いた治療戦略. 第5回ばんたね緩和ケア地域医療講演, 3月, 2013, 名古屋.

糖尿病センター

1. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミン投与と生活習慣介入の有効性に関する検討 (EMINENT

Study: 第2報). 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.

2. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミン投与と生活習慣介入の有効性に関する検討 (EMINENT Study: 第2報). 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
3. 麦田盛穂, 廣田将史, 田中 孝, 小倉敬子, 外山晶代, 片岡宏一郎, 角南ちえ子, 三木宏真, 藤島弘顕, 吉田博一, 稲岡正裕, 森田真也, 笠山宗正: 糖尿病神経障害は人工関節置換術 (Total knee arthroplasty: TKA) 後早期の機能回復に影響を及ぼす. 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
4. 角南ちえ子: 糖尿病診療におけるメディカルパートナーの役割. 糖尿病のトータルケアを目指して, 7月, 2012, 大阪.
5. 角南ちえ子: 当院の糖尿病治療における看護師の役割. 第5回 糖尿病ライフセミナー, 7月, 2012, 大阪.
6. 角南ちえ子, 出口令子, 藤本康介, 宇都佳彦, 森田真也, 住谷 哲, 小瀬戸昌博, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: インスリンからリラグルチドへ切替後メトホルミンでコントロールし得た2型糖尿病の一例. 第49回 日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2012, 京都.
7. 出口暁子, 伊藤有希子, 松村寿美, 角南ちえ子, 井上恵子, 川瀬俊子, 住谷哲, 笠山宗正: 糖尿病患者の安静時代謝量・身体活動量の測定値に基づく指示エネルギー (熱量) 摂取量による栄養指導の有効性. 第16回日本病態栄養学会年次学術集会, 1月, 2013, 京都.
8. 出口暁子, 伊藤有希子, 松村寿美, 角南ちえ子, 井上恵子, 川瀬俊子, 住谷哲, 笠山宗正: 糖尿病患者の安静時代謝量・身体活動量の測定値に基づく指示エネルギー (熱量) 摂取量による栄養指導の有効性. 第17回大阪府栄養士会研究発表会, 3月, 2013, 大阪.

予防医学センター

1. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 未治療2型糖尿病患者に合併した非アルコール性肝疾患 (NAFLD) に対する生活習慣介入と高用量メトホルミンの有効性. 第109回 日本内科学会講演会,

4月, 2012, 京都.

2. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミンの有効性-HbA1c低下作用とインスリン感受性との関連について-. 第85回 日本内分泌学会学術総会, 4月, 2012, 名古屋.
3. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミン投与と生活習慣介入の有効性に関する検討 (EMINENT Study 第2報). 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
4. 中村秀次, 村本 理, 稲次洋平, 湯川雅彦: 肝硬変患者におけるGlycated albumin/HbA1c ratioは肝予備能の指標となる. 肝臓 53, Suppl. (1), A269, 第48回 日本肝臓学会総会, 6月, 2012, 金沢.
5. 住谷 哲, 泉由紀子, 高島周志, 鈴木真優美, 佐藤文三, 中村秀次: ヘモグロビン濃度とインスリン抵抗性との関連について. 第53回 日本人間ドック学会学術大会, 9月, 2012, 東京.
6. 篠田和子, 大黒慶子, 住谷 哲, 泉由紀子, 高島周志, 鈴木真優美, 佐藤文三, 中村秀次: 高輝度膵 (bright pancreas) に関連する因子の検討. 第53回 日本人間ドック学会学術大会, 9月, 2012, 東京.
7. 中村秀次, 村本 理, 稲次洋平, 三上高司, 湯川雅彦: 肝硬変患者におけるGlycated albumin/HbA1c ratioと血清Albumin値との関連性の解析. 肝臓 53, Suppl. (2), A711, 第16回 日本肝臓学会大会 (JDDW2012), 10月, 2012, 神戸.
8. Sumitani S, Morita S, Utsu Y, Deguchi R, Fujimoto K, Koseto M, Miki S, Satyo B, Nakamura H, Kasayama S: Is an initial treatment with metformin and lifestyle interventions effective and safe for long terms in Japanese patients with newly diabetes mellitus? Joint meeting of 9th IDF-WPR and 4th AASD, 11月, 2012, 京都.

中央臨床検査部

1. 山本慶子, 住谷 哲, 森田真也, 水口洋一, 浅野彰彦, 中村秀次, 笠山宗正: 平均血小板容積 (MPV) に影響する因子に関する検討. 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
 2. 三木和美, 加藤千尋, 花田留美, 川原玲子: 癌性腹膜炎に対しKM-CART療法を施行した3症例. 日本ペインクリニック学会第46回大会, 7月, 2012, 松江.
 3. 古川浩司: ペースメーカーのリード線と類似した, 偽腱索の1例. 第52回 日臨技関西支部医学検査学会, 9月, 2012, 和歌山.
- #### 看護部
1. 松浦三月: FEC療法による血管障害が及ぼす日常生活への影響の調査. 第20回 日本乳癌学会学術集会, 6月, 2012, 熊本.
 2. 山本実加, 小山佐知子, 花田留美, 川原玲子: Patient Controlled Analgesia (PCA) 間歇投与を頻回に行う症例の疼痛管理. 第17回 緩和医療学会, 6月, 2012, 兵庫.
 3. 大室安以: 感染症を発症したターミナル期患者の看護 ~患者の思いに添った感染看護に関わって~ シンポジウム. 第12回 日本看護感染学会学術集会, 7月, 2012, 大阪.
 4. 小山佐知子: 緩和ケア患者の口腔内疼痛に対する立効散の効果. 第25回 日本疼痛漢方研究会学術集会, 8月, 2012, 東京.
 5. 松田由布子, 川端千里, 蜂谷由佳, 西部早央里, 大藤弘美, 岩本真澄: 化学療法により倦怠感がある患者に対するホットアイマスクの効果. 第43回 日本看護学会 看護総合, 8月, 2012, 静岡.
 6. 大西まゆり, 林 理恵, 古塘里美, 澤山 曜, 三好由紀子, 阿部恭子: 臨地実習時の学生の指導場面における担当看護師の意識. 第43回 日本看護学会 看護総合, 8月, 2012, 静岡.
 7. 伊藤絵梨香, 飯堂千晶, 近明日美, 白須沙織, 松山理恵, 門林聡美, 下井孝子, 田畑文子: 心臓カテーテル検査および冠動脈形成術を受ける患者の緊張緩和に対する取り組み ~患者選択によるアロマセラピーの有効性~. 第43回 日本看護学会 成人看護I, 9月, 2012, 宮城.
 8. 大畠千春, 高熊俊恵, 中島さゆり, 鈴木八枝子: 術後せん妄を発症した患者家族の関わりと意思の変化 ~家族へ術後せん妄についての教育を実施して~. 第43回 日本看護学会 老年看護, 9月, 2012, 広島.
 9. 酒井希代子: 終末期患者へのアロマセラピー~緩和ケアチームと協働して~ワークショップ. 第15回 日本アロマセラピー学会学術総会, 9月, 2012, 京都.
 10. 山下利子: 皮膚科スペシャリストナース講習会

乾癬患者の看護. 第111回 日本皮膚科学会総会, 9月, 2012, 京都.

薬剤部

1. 野村浩英, 森真由子, 宮麻紀子, 牧 秀美, 平田貴宏, 松田敦子, 吉岡 亮, 乾有希子, 池田久雄, 畑中勝義: がん化学療法レジメンオーダシステム運用方法の検討. 第22回 日本医療薬学会, 10月, 2012, 新潟.
2. 平田貴宏, 池田久雄, 森真由子, 吉岡 亮, 野村浩英, 畑中勝義: 経口投与困難な卵巣癌化学療法施行患者に漢方坐薬2剤を長期投与した症例. 第22回日本医療薬学会, 10月, 2012, 新潟.
3. 池田久雄, 平田貴宏, 野村浩英, 瀧川奈央, 浅野彰彦, 大野典子, 新井幸子, 角田道久, 畑中勝義: 日生病院における届出対象抗菌薬の長期使用の状況とICTの介入状況. 第22回 日本医療薬学会, 10月, 2012, 新潟.

リハビリテーション室

1. 麦田盛穂, 廣田将史, 田中 孝, 小倉敬子, 外山晶代, 片岡宏一郎, 角南ちえ子, 三木宏真, 藤島弘顕, 吉田博一, 稲岡正裕, 森田信也, 笠山宗正: 糖尿病神経障害は人工膝関節置換術(Total knee arthroplasty: TKA)後早期の機能回復に影響を及ぼす. 第55回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
2. 麦田盛穂, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子: 婦人科単孔式腹腔鏡手術の術後回復強化における超音波ガイド下ブロックの効果の検討. 日本ペインクリニック学会第46回大会, 7月, 2012, 松江.
3. Mugita M, Kawahara R, Shimizu R, Tamai Y, Tamai Y, Yamasaki K, Okuno S, Hanada R, Inaoka M, Funato T: The effects of ultrasound-guided transversus abdominis plane (TAP) block and rectus sheath (RS) block for pain control and recovery after gynecologic transumbilical single incision laparoscopic surgery (SILS). IASP, 8月, 2012, イタリア, ミラノ.

栄養管理室

1. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミン投与と生活習慣介入の有効性に関する検討 (EMINENT

Study: 第2報). 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.

2. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミン投与と生活習慣介入の有効性に関する検討 (EMINENT Study: 第2報). 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
3. 出口暁子, 伊藤有希子, 松村寿美, 角南ちえ子, 井上恵子, 川瀬俊子, 住谷 哲, 笠山宗正: 糖尿病患者の安静時代謝量・身体活動量の測定値に基づく指示エネルギー(熱量)摂取量による栄養指導の有効性. 第16回日本病態栄養学会年次学術集会, 1月, 2013, 京都.
4. 出口暁子, 伊藤有希子, 松村寿美, 角南ちえ子, 井上恵子, 川瀬俊子, 住谷 哲, 笠山宗正: 糖尿病患者の安静時代謝量・身体活動量の測定値に基づく指示エネルギー(熱量)摂取量による栄養指導の有効性. 第17回大阪府栄養士会研究発表会, 3月, 2013, 大阪.

診療情報管理室

1. 宮本浩樹: クリニカルパスへの支援 - 診療情報分析システムで分かる日生病院の小さな真実 -. 日生病院院内パス大会, 6月, 2012, 大阪.
2. 宮本浩樹: ARROWSベンチマークシステムを利用したクリニカルパスへの支援. DPC分析事例発表会, 9月, 2012, 大阪.
3. 津野百合香, 宮本浩樹, 久保郁美, 小田弓, 清藤真由美, 山本真佐美, 向井康祐, 花房隆範: 遅滞ない退院サマリー作成を目指して, 第14回 フォーラム「医療の改善活動」全国大会, 10月, 2012, 沖縄.
4. 宮本浩樹: 患者様アンケートの病院選択理由からみたチャネルの一考. 日本医療秘書学会, 2月, 2013, 大阪.

第5章 諸活動

診療科別教育

部(科)名	教育・研修項目	
循環器内科・ 神経内科	・新入院患者紹介 ・症例検討会 ・抄読会 ・内科合同カンファレンス ・内科・地域合同症例検討会	(週1回) (週1回) (月1回) (年1回)
消化器内科	・症例検討会 ・内視鏡カンファレンス ・抄読会 ・内科合同カンファレンス ・内科・地域合同症例検討会	(週1回) (月2回) (月2回) (月1回) (年1回)
総合内科	・症例検討会 ・抄読会 ・内科合同カンファレンス ・糖尿病療養指導チーム勉強会 ・糖尿病ケアカンファレンス ・内科・地域合同症例検討会	(週各1回) (月1回) (月1回) (月1回) (年1回)
血液・化学療法内科	・症例検討会 ・抄読会 ・血液標本検討会 ・内科合同カンファレンス ・内科・地域合同症例検討会	(週1回) (月2回) (月2回) (月1回) (年1回)
救急診療科	・救急カンファレンス	(週1回)
神経科・精神科	・心理検査勉強会 ・症例検討会	(月1回) (随時)
小児科	・勉強会 ・入院症例検討会 ・小児科外来勉強会 ・周産期カンファレンス ・新生児管理カンファレンス	(週1回程度) (平日) (年数回) (週1回) (月1回)
消化器・一般外科 乳腺外科	・症例検討会 ・病理と合同カンファレンス ・乳腺外科ケアカンファレンス ・大阪外科集談会で発表(初期研修医) ・手術統計 ・死亡症例検討会 ・学会報告 ・CPC ・NST勉強会 ・抄読会	(週1回) (週1回) (月1回) (年6回) (年1回) (年1回) (随時) (随時)
整形外科	・抄読会 ・手術症例検討会 ・リハビリ検討会 ・整形病棟勉強会 ・リサーチカンファ、及び学会報告会	(週1回) (週1回) (月2回) (年2～3回) (年数回)
リハビリ	・抄読会 ・リハビリ検討会 ・糖尿病療養指導チーム勉強会 ・医療技能職勉強会	(週1回) (月2回) (月1回) (年1回)
皮膚科	・症例検討会 ・抄読会 ・3病院合同症例検討会 (日生・住友・大阪厚生年金病院) 大阪西、中部地区皮膚科症例検討会	(週1回) (月3回) (月1回) (年1回)

部(科)名	教育・研修項目	
泌尿器科	・症例検討会 ・抄読会	(週1回) (週1～2回)
産婦人科	・症例検討会 ・抄読会 ・ケアカンファレンス・モーニングカンファレンス ・レントゲンカンファレンス周産期カンファレンス ・ニッセイ内視鏡研究会 ・ニッセイ病診連携懇話会	(週1回) (週1回) (週1回) (年1回) (年1回)
眼科	・外来勉強会 ・病棟勉強会 ・西区病診連携の会 ・日生・住友病院合同勉強会	(2～3ヶ月に1回) (年1～2回) (年1回) (年2回)
耳鼻咽喉科	・術前カンファレンス ・西区病診連携の会 ・勉強会	(週1回) (年2回) (年数回)
放射線科	・日生病院外科カンファレンス ・日生病院産婦人科カンファレンス	(週1回) (週1回)
麻酔・緩和医療科	・ペイン症例検討会 ・麻酔症例検討会 ・緩和ケアカンファレンス	(週1回) (週1回) (月2回)
病理診断科	・スライドカンファレンス ・症例検討会(抄読会) ・CPC ・日本病理学会近畿支部 学術集会	(週1回) (週1回) (月1回) (年4回)
臨床研修部	・抄読会	月1回
予防医学センター	・予防医学センター勉強会 ・あわぎ産業医セミナー	(月2回) (年1回)
薬剤部	・新薬説明会 ・薬剤部研修会 ・ファーマシヤカルケア研修会 ・部内有害事象検討会	(週1回) (月1回) (月2回) (年3回)
医療技能部	・医療技能職勉強会	(年1回)
中央臨床検査部	・中検勉強会 ・医療技能職勉強会	(月1～2回) (年1回)
あったかサポート センター	・患者支援カンファレンス ・緩和ケアカンファレンス ・医療福祉施設MSW研修会 ・医療技能職勉強会	(週1回) (月2回) (年5回) (年1回)
栄養管理室	・厨房内ミーティング及教育 ・栄養士勉強会 ・献立勉強会 ・栄養管理室ミーティング ・糖尿病QOL向上勉強会 ・大阪病院給食研究会	(毎日) (月1回) (月1回) (月1回) (年4回) (月1回)
診療情報管理室	・診療情報管理室勉強会	(年数回)
医事G	・健保改正勉強会	(年1回)

全体教育

C P C

平成24年

- 196回 5月11日：間質性肺炎（循環器・神経内科）
- 197回 5月18日：胃癌＋腎癌術後（泌尿器科・消化器内科）
- 198回 6月8日：C型肝硬変＋肝細胞癌（消化器内科）
- 199回 6月15日：原発性胆汁性肝硬変＋脊椎椎間板炎（総合内科）
- 200回 7月13日：肺炎＋肺気腫＋前立腺癌（総合内科）
- 201回 7月20日：MDS＋肺炎＋DIC（血液・化学療法内科）
- 202回 8月10日：C型肝硬変（消化器内科）
- 203回 9月14日：胃癌術後＋敗血症性ショック（循環器・神経内科）
- 204回 9月28日：多臓器不全＋DIC（総合内科）
- 205回 10月12日：敗血症＋直腸癌＋皮膚筋炎＋両側腎細胞癌（総合内科）
- 206回 10月26日：肺炎＋慢性心房細動＋心不全（循環器・神経内科）
- 207回 11月16日：胃癌術後（消化器・一般外科）
- 208回 11月30日：膵癌＋転移性肝癌＋腹膜播種、間質性肺炎（消化器内科）
- 209回 12月21日：右胸水貯留＋肺炎＋胸膜炎疑い（総合内科）

平成25年

- 210回 1月18日：骨髓異形成症候群＋腸腰筋膿瘍＋急性腎不全＋DIC（血液・化学療法内科）
- 211回 2月8日：膵癌＋転移性肝癌＋糖尿病＋気管支喘息＋腹水（消化器内科）
- 212回 2月22日：EBV関連Tリンパ球増殖症＋血球貪食症候群（血液・化学療法内科）
- 213回 3月8日：敗血症性ショック＋消化管出血＋心不全（循環器・神経内科）
- 214回 3月22日：悪性リンパ腫＋脳梗塞＋肺炎（血液・化学療法内科）

「日医生涯教育講座カリキュラム」

産婦人科

年 月 日	時間	場所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
平成24年10月 4 日	9時00分～ 16時00分	手術室	低侵襲手術	船渡 孝郎 (産婦人科)

乳腺外科

年 月 日	時間	場所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
平成24年10月 1 日	13時15分～ 16時00分	手術室	センチネルリンパ節生検 (乳房温存手術)	西田 幸弘 (乳腺外科)

放射線科

年 月 日	時間	場所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
平成24年10月11日	13時15分～ 16時00分	放射線科	肝動脈塞栓術等 IVR	三谷 尚 (放射線科)

外科

年 月 日	時間	場所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
平成24年10月 7 日 平成24年10月14日 平成24年10月21日 平成24年10月28日	14時～16時	手術室	消化器外科手術	藤川 正博 (外科)

「ニッセイ医学セミナーUpdate」

年 月 日	テ ー マ	講 師	
平成24年 4 月 6 日	・C型慢性肝炎の最新の治療法と近未来	消化器内科部長 兼予防医学センター長	中村 秀次
平成24年 5 月11日	・関節リウマチ治療の現状について	総合内科担当部長	小瀬戸 昌博
平成24年 6 月 1 日	・成人T細胞性白血病/リンパ腫の診断と治療	血液・化学療法内科	石河 純
平成24年 7 月13日	・びまん性肺疾患の臨床 ー間質性肺炎を中心にー	予防医学センター	鈴木 真優美
平成24年 8 月 3 日	・320列CTの特長と有用性について	放射線科部長 放射線科技師	三谷 尚 長澤 浩造
平成24年 9 月 7 日	・認知症の精神行動障害	精神科神経科	木藤 友実子
平成24年10月 5 日	・痙攣の実際、その対応法	小児科	植田 仁
平成24年11月 2 日	・新しい手洗いウォーターレス法と 正しい手袋の選択	消化器・一般外科	黄 泰平
平成25年 1 月11日	・今日の乳癌診療 ～外科的治療について～	乳腺外科	橘高 信義
平成25年 2 月 1 日	・下肢骨折とロコモティブシンドローム	整形外科	糸原 朋信
平成25年 3 月 1 日	・薬疹いろいろ	皮膚科	高橋 玲子

「ニッセイ・ベーシック実践医療セミナー」

年 月 日	テ ー マ	講 師	
平成24年 4 月27日	・救急患者の放射線診断と読影のポイント	放射線科	岩澤 仁
平成24年 5 月18日	・知っておきたい輸液、栄養管理の基本	消化器・一般外科	黄 泰平
平成25年 1 月24日	・乾癬と併存疾患 ～特にメタボリック症候群・心血管系のリスク～	皮膚科部長	東山 眞里

1 年目研修医 オリエンテーション

年 月 日	講義内容	講師
平成24年4月2日	研修医の就業規則、健康診断、その他	職員サービス部
	プログラムの説明など	臨床研修部 三木部長
平成24年4月3日	電子カルテ基本操作	情報システム室
	ローテーション決定、その他	臨床研修部 三木部長
平成24年4月4日	医療安全管理体制と安全管理の技術	看護部 東郷副看護部長
	感染防止	感染症看護専門看護師 大野
	防犯・防災	看護部
平成24年4月5日	ローテーション科で研修開始	各診療科
	カルテ記載、病歴管理、文献検索等	診療情報管理室
	レセプト、医療費など	医事G
平成24年4月6日	採血、尿検査、チーブ管理等	看護部
	抗生物質	薬剤部
平成24年4月9日～10日	看護部と一泊研修	
平成24年4月11日	院長説示	寺川院長
	注射、点滴、ポンプ等	看護部
平成24年4月12日	カテーテル、吸引・吸入等	看護部
	麻薬	薬剤部
平成24年4月13日	日勤看護研修	看護部
平成24年4月14日～15日	夜勤看護研修	看護部
平成24年4月16日	ローテーション科で研修	各診療科
	薬剤処方	薬剤部
	放射線科オーダー・その他	放射線科
	栄養指導	栄養管理室
平成24年4月17日	ローテーション科での研修	各診療科
	病診連携	医療連携G
	医療生活相談室の利用について	医療福祉相談G
	リハビリ依頼について	リハビリテーション室
平成24年4月18日	ローテーション科での研修	各診療科
	検血、生化学、輸血など	中央臨床検査室
平成24年4月19日	ローテーション科での研修	各診療科
	生理機能検査、心エコーの基礎	中央臨床検査室
平成24年4月20日	ローテーション科での研修	各診療科
	腹部超音波検査など	中央臨床検査室
平成24年4月23日	ローテーション科での研修	各診療科
	細菌検査、病理検査室	中央臨床検査室
平成24年4月24日	ローテーション科での研修	各診療科
平成24年4月25日	外科基本手技	外科
	嚥下機能評価と誤嚥	NST、消化器・一般外科 黄医師

看護部継続教育実施状況（院内）

研 修 会 名	年 月 日	内 容	参加者数
新人	平成24年4月2日、3日、4日	オリエンテーション	19名
	平成24年 4 月 5 日	記録・与薬の研修	19名
	平成24年4月9日、10日	宿泊研修	19名
	平成24年4月6、11、12日	基礎看護技術演習	19名
	平成24年 4 月12日	部署別オリエンテーション	19名
	平成24年4月16日～18日	シャドウ研修	19名
	平成24年 4 月20日	防災訓練	19名
	平成24年 5 月 9 日	業務計画立案 看護必要度 インスリン療法など	19名
	平成24年 6 月 6 日	救急看護 栄養 ローテーション研修の説明など	19名
	平成24年 7 月 4 日	輸血の看護 人工呼吸器装着中の看護など	19名
	平成24年7月～8月	ローテート研修	19名
	平成24年 9 月19日	がん看護、ストレスマネジメントなど	18名
	平成24年10月10日	看護診断①	17名
	平成24年12月 5 日	医療安全、薬剤、褥瘡予防、MSWの役割と社会資源	16名
	平成25年 1 月30日	看護診断②	16名
	平成25年 3 月21日	1年の振り返り発表	16名
レベルⅠ ステップ1	平成24年 5 月16日	メンバーシップの役割について	13名
	平成24年 7 月18日	がん看護2 緩和ケアとは	12名
	平成24年 9 月14日	慢性期看護	12名
	平成24年11月 7 日	急性期看護	13名
	平成25年 1 月25日	自己の看護の振り返り	12名
レベルⅠ ステップ2	平成24年 4 月25日	看護研究の役割	16名
	平成24年 6 月20日	リーダーシップについて	16名
	平成24年 9 月 5 日	がん看護3	16名
	平成25年 1 月23日	看護過程の展開と事例発表会	15名
	平成25年 2 月20日	プリセプターシップ	16名
	平成25年 3 月 6 日	1年間の振り返り発表	14名
レベルⅡ	平成24年 5 月15日	研究とは	21名
	平成24年 6 月19日	分析方法	20名
	平成24年10月17日	メンタルケア	18名
	平成24年11月14日	ストレスマネジメント	18名

研 修 会 名	年 月 日	内 容	参加者数
臨地実習指導者	平成24年 7 月25日	看護教育課程 実地指導の原理と役割	21名
	平成24年 8 月22日	若者気質・学生の関わりかた・効果的な指導 事例	21名
	平成24年12月12日	指導者観の発表	21名
実地指導者 (プリセプター)	平成24年 6 月13日	指導者に必要なスキルとは	18名
	平成24年10月 3 日	新人教育に関する中間報告会	19名
	平成25年 2 月27日	プリセプターシップでの学び発表	18名
糖尿病看護	平成24年 5 月 9 日	糖尿病について	30名
	平成24年 7 月11日	看護の実際 フットケア	36名
	平成24年10月10日	セルフケア支援	31名
退院支援	平成24年 7 月20日	他院での退院支援の実際	14名
	平成24年 9 月26日	当院における退院支援の現状	14名
	平成24年12月19日	在宅看護の現状と退院調整の必要性	13名
事例検討会	平成24年 6 月27日	オリエンテーション	15名
	平成24年 8 月29日	小児の点滴シーネ固定による皮膚トラブル 長期のVAC療法を受ける患者との関わり	16名
	平成24年10月24日	口唇口蓋裂と胎児診断された母親の看護 足底に巨大胼胝のある患者の糖尿病療養指導	15名
	平成24年12月26日	舌癌の手術を受けられた患者の看護 挿管困難時に使用されるデバイスについて	17名
	平成25年 2 月 6 日	無菌室入室中の患者の看護 深部静脈血栓症の患者の看護	17名
看護管理	平成24年 6 月15日	昇格者研修	3名
	平成24年 8 月21日	看護管理職のストレスマネジメント	31名
	平成24年12月21日	伝える力、プレゼンテーション力を鍛える	25名
	平成25年 3 月19日	新人支援体制の現状報告	26名
看護助手	平成24年 8 月 6 日	再興感染症・今流行している感染症・WHO手指衛生ガイドライン	19名
	平成25年 1 月21日	患者移送の介助方法	13名
	平成25年 2 月25日	食事援助の介助方法	12名
	平成25年 3 月18日	清潔援助の介助方法	13名

看護部継続教育実施状況（院外）

研 修 会 名	年 月 日	内 容	参加者数
成人看護 (大阪府看護協会)	平成24年4月27日	摂食・嚥下障害のある患者看護の基礎と 実際に学ぶ①	3名
安全 (大阪府看護協会)	平成24年5月17・18日	看護管理者のためのリスクマネジメント	2名
共通 (大阪府看護協会)	平成24年5月22日	一般病棟におけるクリニカルケア	2名
安全 (大阪府看護協会)	平成24年5月25日	コーチングコミュニケーション	2名
安全 (大阪府看護協会)	平成24年6月～7月	医療安全管理者研修（6月5・6日、6月28・29日） 7月25・26日、7月30日）	1名
指導者 (大阪府看護協会)	平成24年6月7・8・9日	新人看護職員教育担当者研修①	2名
成人 (大阪府看護協会)	平成24年6月12日	これからの褥瘡看護	1名
小児 (大阪府看護協会)	平成24年6月14日	新生児医療と看護	4名
衛星通信対応研修 (大阪府看護協会)	平成24年6月23日	災害医療と看護（基礎編）	3名
新人 (大阪府看護協会)	平成24年7月1日	実地指導者のためのインジェクション研修①	1名
指導者 (大阪府看護協会)	平成24年7月3日	実地指導者のためのインジェクション研修	1名
感染 (大阪府看護協会)	平成24年7月17・18日	組織で取り組む感染管理①	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成24年7月20日	フィジカルアセスメントの基礎知識（講義）	2名
成人 (大阪府看護協会)	平成24年7月23日	運動機能回復へ援助①	1名
成人 (大阪府看護協会)	平成24年7月25日	運動機能回復へ援助②	1名
成人 (大阪府看護協会)	平成24年8月7日	医療安全管理者フォローアップ研修	2名
研究 (大阪府看護協会)	平成24年8月13・14日	統計の使い方	2名
指導者 (大阪府看護協会)	平成24年8月20・21・22日	臨地実習指導者①	1名
指導者 (大阪府看護協会)	平成24年8月22日	実地指導者のための吸引技術研修①	1名
指導者 (大阪府看護協会)	平成24年8月27・28日	人材育成とコミュニケーション	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成24年8月30日	フィジカルアセスメントの基礎知識（講義）	2名
成人 (大阪府看護協会)	平成24年9月4日	摂食・嚥下障害のある患者看護の基礎と 実際に学ぶ②	1名
感染 (大阪府看護協会)	平成24年9月11・12日	組織で取り組む感染管理②	1名
がん (大阪府看護協会)	平成24年9月25・26日	がん化学療法を受ける患者の看護	1名
災害 (大阪府看護協会)	平成24年10月10日	災害看護における初期医療支援活動①	3名
災害 (大阪府看護協会)	平成24年10月16日	災害看護における初期医療支援活動②	1名
母性 (大阪府看護協会)	平成24年10月23日	母乳育児支援	1名

研 修 会 名	年 月 日	内 容	参加者数
安全 (大阪府看護協会)	平成24年11月8日	医療安全の基本と医療事故防止行動②	2名
災害 (大阪府看護協会)	平成24年11月13日	災害看護における初期医療支援活動③	1名
管理 (大阪府看護協会)	平成24年11月19日	看護管理者に必要な労務管理のノウハウを身につける	1名
がん (大阪府看護協会)	平成24年11月27・28日	がん患者の家族のケア	1名
がん (大阪府看護協会)	平成24年11月29日	女性がんとリンパ浮腫	1名
インターネット 配信研修	平成24年11月29日	インターネット配信研修「働き続けられる職場作り～看護労働のシフトワークの改善～」	3名
看護研究 (大阪府看護協会)	平成24年12月3日	プレゼンテーション	1名
母性 (大阪府看護協会)	平成24年12月7日	ハイリスク妊婦の診断・検査と不妊看護	1名
災害 (大阪府看護協会)	平成24年12月11日	災害看護における初期医療支援活動④	1名
指導者 (大阪府看護協会)	平成24年12月17・18日	実地指導者研修	1名
指導者 (大阪府看護協会)	平成25年1月15・16日	リーダーシップ②	1名
指導者 (大阪府看護協会)	平成25年1月17日	実地指導者のための吸引技術研修①	1名
指導者 (大阪府看護協会)	平成25年2月4・6日	新人看護職員教育担当者研修②	2名
指導者 (大阪府看護協会)	平成25年2月6日	実地指導者のためのインジェクション研修②	1名
看護研究 (大阪府看護協会)	平成25年2月8日	クリティーク	1名
看護研修トピックス (大阪府看護協会)	平成25年2月16日	看護学校におけるコミュニケーションに困難にある学習支援のための研修	1名
老年 (大阪府看護協会)	平成25年2月20・21日	高齢者の理解と認知症の看護	1名
老年看護Ⅰ (大阪府看護協会)	平成25年2月25・26日	高齢者の理解と認知症の看護③	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成25年2月25・26日	看護記録(実践編)	1名

看護部 長期及びその他の研修

主 催	年 月 日	研 修 会 名	参 加 者
大阪府看護協会	平成24年8月2日～10月18日	認定看護管理者制度セカンドレベル	八尾 みゆき
大阪府	平成24年9月19日～11月6日	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会	松山 理恵
大阪府看護協会	平成24年11月12日～23日 平成24年12月10日～21日 平成25年1月8日～24日	認定看護管理者制度サードレベル	町田 恵子
大阪府看護協会	平成24年11月2・3・5・9・10日 平成25年1月21・22・28 ・29・30日	新人看護職員研修責任者研修① 新人看護職員研修責任者研修②	木村 由美 神谷 香里

講演会・研修会

第5回 緩和ケア講演会【別館講堂にて】

平成24年4月5日

一般講演「口腔内疼痛におけるT J-110立効散の効果」

がん性疼痛看護認定看護師 小山 佐知子

特別講演「臨床生薬学～生薬学の知識を医療現場で応用する」

名古屋市立大学大学院薬学研究科生薬学分野

准教授 牧野 利明

第2回 糖尿病センター公開セミナー【別館講堂にて】

平成24年4月7日

糖尿病と心臓病

第I部「糖尿病と心疾患の関係

～症状の少ない狭心症の早期発見、治療について～」

循環器内科副部長 中川 厚

「糖尿病・心臓病に おすすめのお食事は？」

栄養管理室 出口 暁子

「みんなでやってみよう！今すぐできる運動！」

リハビリテーション室 廣田 将史

第II部「アマチュア落語」

桂文喬主催落語研究会

第9回 あわぎ産業医セミナー【リーガロイヤルホテルにて】

平成24年4月28日

テーマ「女性勤労者の健康診断とその事後措置」

講演 I 「女性勤労者に有用な健診の進め方」

総合健診クリニック ニッセイ予防医学センター

泉 由紀子

II 「産業医に必要な婦人科学的基礎知識」

産婦人科 橋本 奈美子

特別講演「女性健診に必須の内分泌学的知識－甲状腺を中心に－」

医療法人神甲会 隈病院 網野 信行

褥瘡対策講演会（褥瘡対策委員会主催）【別館講堂にて】

平成24年5月25日

演題 I 「当院の褥瘡発生率について」

皮膚科部長 東山 眞里

II 「医療用テープのはなし」

スリーエムヘルスケア株式会社

技術サービス部 矢野 美久

第1回 感染防止対策 病院連携合同カンファレンス【日生病院にて】

平成24年5月29日

日生病院 大阪船員保険病院 大阪掖済会病院 大阪暁明館病院 吉川病院

第12回 日生病院 I C L S コース【別館講堂にて】

平成24年6月10日

第8回 クリニカルパス大会（クリニカルパス委員会主催）【別館講堂にて】

平成24年6月21日

演題発表

ニッセイ産婦人科病診連携懇話会【ANAクラウンプラザホテルにて】

平成24年6月30日

特別講演

I 「子宮内膜症の手術および術後再発予防」

産婦人科 橋本 奈美子

II 「子宮筋腫の手術療法

－LM（腹腔鏡下子宮筋腫核手術）の占める位置－」

産婦人科 担当部長 佐伯 典厚

III 「T L H (Total Laparoscopic Hysterectomy) :

良性疾患から体癌へ」

産婦人科 大塚 博文

院内感染対策 教育講演会（院内感染対策委員会主催）【別館講堂にて】

平成24年7月6日

演題 I 「感染対策は院内から地域へ？」

事務局次長 職員サービス部長 木下 幹朗

II 「最近の院内感染対策について」

中央臨床検査部長 浅野 彰彦

第2回 感染防止対策 病院連携合同カンファレンス【日生病院にて】

平成24年9月4日

日生病院 大阪船員保険病院 大阪掖済会病院 大阪暁明館病院

I C T 関連のDVD視聴 職種別懇談会 全体会

第13回 病診連携学術講演会（あわぎフォーラム）【リーガロイヤルホテルにて】

平成24年9月8日

・開放型病院運営委員会

・開放型病院登録医総会

・あわぎフォーラム

日生病院における診療機能強化の取り組み

I 「320列C T 導入の紹介－その特長と有用性について－」

放射線科部長 三谷 尚

- Ⅱ「当院における膠原病・リウマチ診療の取り組み」
総合内科担当部長 小瀬戸 昌博
特別講演「糖尿病診療の「知」と「情」」
大阪医科大学
内科学Ⅰ教授 花房 俊昭

医療安全講演会（医療安全管理委員会主催）【別館講堂にて】

平成24年9月28日

演題「大震災の被災体験から学んだこと」

元 石巻市立病院

副看護部長 石母田 由美子

第3回 緩和ケア研修会【別館講堂にて】

平成24年10月6日、7日 PEACEに基づくがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会

医療ガスの安全な取扱いに関する研修会（医療ガス安全管理委員会主催）【別館講堂にて】

平成24年10月25日

演題Ⅰ「病院医療ガス設備の基礎と災害対策について」

エアウォーター防災株式会社

Ⅱ「医療用ガスの取り扱い方」

株式会社馬場酸素、岩谷産業株式会社

第2回 ニッセイ産婦人科内視鏡研究会【別館講堂にて】

平成24年10月27日

Ⅰ 腹腔鏡下手術器具説明

Ⅱ 総論「日本産科婦人科内視鏡学会技術認定取得を目指して」

産婦人科 担当部長 佐伯 典厚

Ⅲ 講演「結紮・縫合未経験からの出発～TLHまでの道のり～」

産婦人科 吉見 佳奈、尾上 昌世

「TLH手技 安全なTLHを行うために」

産婦人科 大塚 博文

Ⅳ ドライBOXでの結紮・縫合実習

Ⅴ 結紮・縫合コンテスト

病診連携ニッセイ クリニカル カンファレンス【ホテルモントレグラスミア大阪にて】

平成24年11月10日

オープンレクチャー

「降圧剤服薬アドヒアランス：合剤のメリットについて」

副院長 兼 循環器内科・神経内科部長 濱田 偉文

演題Ⅰ「当院で経験した咽頭痛の診断と治療」

救急診療科 田中 智

Ⅱ「経過中に混合性自己免疫性溶血性貧血（AIHA）を発症し、その治療中に免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）を発症した全身性エリテマトーデス（SLE）の一例」

総合内科 豊田 新一郎

Ⅲ「巨大腹部腫瘍の一例」

消化器内科 三上 高司

Ⅳ「当院における静脈インターベンションの現在」

循環器内科・神経内科 高橋 秀明

Ⅴ「JAK2V617F変異が確認された真性多血症の一例」

血液・化学療法内科 石河 純

ショートレクチャー

「消化器内視鏡におけるNBI（Narrow Band Imaging）の原理と実際」

消化器内視鏡センター長 湯川 雅彦

第3回 ニッセイ看護研究会【別館講堂にて】

平成24年11月10日

演題Ⅰ「糖尿病と共に生きる患者の行動変容を見守る」

糖尿病看護認定看護師 角南 ちえ子

Ⅱ「結核と診断された患者の看護と感染対策」

感染症看護専門看護師 大野 典子

Ⅲ「リンパ浮腫セラピストの活動報告

～リンパ浮腫ケア外来と緩和ケアチームとの連携～」

リンパ浮腫セラピスト 酒井 希代子

第13回 日生病院ICLSコース【別館講堂にて】

平成24年11月11日

第3回 感染防止対策 病院連携合同カンファレンス【日生病院にて】

平成24年12月11日

日生病院 大阪船員保険病院 大阪掖済会病院 大阪暁明館病院

日生病院の感染対策委員会主催の教育講演会（下記）

職種別懇談会

院内感染対策 教育講演会（院内感染対策委員会主催）【別館講堂にて】

平成24年12月11日

演題Ⅰ「抗菌薬TDMガイドラインの発表をうけて」

薬剤部主査 池田 久雄

Ⅱ「衛生学的手洗いについて」

感染症看護専門看護師 大野 典子

第1回 感染防止対策 地域連携相互評価

平成24年12月12日 対象病院 社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会 野江病院
日生病院がICTラウンドを実施し先方を評価
医 師 2名 浅野、黄
看護師 2名 大野、島津
薬剤師 1名 池田
臨床検査技師 1名 藤田
事 務 2名 小早川、木下

第2回 感染防止対策 地域連携相互評価

平成24年12月13日 対象病院 日生病院
医 師 2名 浅野、黄
看護師 2名 大野、島津
薬剤師 1名 池田
臨床検査技師 1名 藤田
事 務 2名 小早川、木下
野江病院の6名（医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務部長、事務員）がICTラウンドを実施し、当院を評価

接遇研修会（看護部・日新会・教育委員会・職員サービス部主催）【別館講堂にて】

平成24年12月20日 演題「医療に携わるあなたと病院のための接遇とクレーム対応」
(株)ケーエスケー

輸血療法委員会講演会（輸血療法委員会主催）【別館講堂にて】

平成25年1月10日 演題「手術室の輸血の実践」
麻酔・緩和医療科 奥野 聡子

第7回TQM大会【別館講堂にて】

平成25年1月22日 人材育成研究所 立川 義博

糖尿病ランチ&セミナー（あったかサポートセンター・糖尿病センター・錦会主催）【別館講堂にて】

平成25年1月25日 昼食会「工夫すればこんなに美味しい糖尿病食」
演題 I 「旨味の化学」
味の素株式会社 大阪支社学術事務部長 佐伯 俊則
II 「分かりやすい糖尿病のお話」
予防医学センター医務部長
糖尿病患者会「錦会」顧問医 住谷 哲

第4回 感染防止対策 病院連携合同カンファレンス【日生病院にて】

平成25年2月5日 日生病院 大阪船員保険病院 大阪掖済会病院 大阪暁明館病院
演題「結核について」中央臨床検査部長 浅野 彰彦
職種別懇談会

低侵襲医療講演会（低侵襲医療センター運営委員会主催）【別館講堂にて】

平成25年2月13日 演題 I 「より低侵襲を目指した全身動脈硬化性疾患へのアプローチ」
循環器内科・神経内科 中川 厚
II 「泌尿器科における低侵襲医療の現状と未来」
泌尿器科 福本 亮
III 「当院外科での腹腔鏡下手術“腹腔鏡下脾臓摘出術の一例”」
外科 森田 哲史
IV 「産婦人科内視鏡手術の光と影」
産婦人科 佐伯 典厚

医療安全講演会（医療安全管理委員会主催）【別館講堂にて】

平成25年2月22日 演題 I 「最新の医薬品安全情報～適正使用、院内製剤について～」
医薬品安全管理者 薬剤部
副部長 野村 浩英
II 「当院医療機器安全管理マニュアルについて」
医療機器安全管理者
技師長兼医療技能部長 水口 洋一
III 「除細動器について学ぼう」
フクダ電子 東 亮輔

人権研修会（教育委員会・福祉事業局・あったかサポートセンター・職員サービス部主催）【別館講堂にて】

平成25年2月28日 MSWの業務を通して人権問題を考える
演題「日生病院の医療ソーシャルワーカーとして」
元 日生病院 医療生活相談室
課長（MSW）大垣 芳美
「無料低額診療事業について」
あったかサポートセンター 医療福祉相談G
担当課長（MSW）本家 裕子

第7回 市民公開講座【スイスホテル南海大阪にて】

平成25年3月9日 演題「血圧や脂質と上手に付き合うために」
副院長兼循環器内科・神経内科部長 濱田 偉文

地域活動

事業等	出務場所	出務日	講師/出務医師	備考
急病診療所出務	中央急病診療所	平成24年8月12日 17:00～22:00	山根 秀一	小児科担当
	西九条休日急病診療所	平成24年12月31日 10:00～17:00	高橋 秀明	内科担当
3か月児健康診査	西区保健福祉センター	毎月第3水曜日 13:30～	池原 千衣子	
3歳児健康診査 (内科)	西区保健福祉センター	第1水曜日 13:40～	池原 千衣子	1・3月度:医師増員のため、臨時出務
3歳児健康診査 (耳鼻咽喉科)	西区保健福祉センター	平成24年7月4日 13:45～	今泉 宏哲	
		平成24年12月5日 13:45～	尾崎 大輔	
大阪西地域 産業保健センター 拡充センター出務	西区民センター 第2会議室	平成24年12月20日 17:30～19:30	藤川 正博	労働者からの健康相談
		平成25年1月19日 13:30～15:30	三木 俊治	
講演会 「認知症を理解する」	西区民センター	平成25年3月2日 13:30～15:30	木藤 友実子	「認知症等高齢者支援地域連携事業」の市民対象の講演会講師

敬称略

ボランティアの活動

年 月	主 な 内 容
平成24年 5 月	・平成24年 1 月～ 4 月 ボランティア協会活動時間集計報告 ・定例講演研修会（5 月21日）
平成24年 6 月	・ホスピス緩和ケアボランティア研修会（6 月28日）
平成24年 7 月	・ボランティア協会定例研修会参加（7 月28日）
平成24年 9 月	・平成24年 5 月～ 8 月 ボランティア協会活動時間集計報告 ・定例講演研修会（9 月 7 日）
平成24年10月	・日本病院ボランティア総会参加（10月31日）
平成25年 1 月	・平成25年 9 月～12月 ボランティア協会活動時間集計報告 ・「小児がんの病棟にボランティアを」札幌研修会（1 月17日）

（概要）

- ・平成13年ボランティア導入
- ・メンバー 8 名（月～金 各日 2 名ずつ活動）
- ・活動内容：初診・再診手続き、患者輸送（車椅子輸送）、診察・検査等場所の案内、移動図書本の管理

院内行事

平成24年

- 4月 2日 ・新入職員入会式（原則各月第1水曜日）
- 4月 2日 ・進発式
- 4月 9日 ・看護部・臨床研修部新人宿泊研修（～4月10日）
- 5月11日 ・看護フェア
- 5月14日 ・監査法人トーマツによる会計監査（～5月22日）
- 5月17日 ・日生病院7Fリニューアルオープン（クロスカフェ・サンクス）
- 5月22日 ・TQM研修会（～5月23日 講師：人材育成研究所 立川先生）
- 5月27日 ・大阪乾癬患者友の会総会（5月27日、11月17日）
- 6月 6日 ・定時理事会
- 6月29日 ・定時評議員会
- 6月29日 ・理事会・評議員会報告会、TQMキックオフ
- 7月19日 ・消防訓練（7月19日、12月7日）
- 7月20日 ・糖尿病患者様の集い、糖尿病患者友の会「錦会」総会
- 7月23日 ・320列CT稼働
- 7月27日 ・ニッセイ夏休みこども医療体験2012（7月27日、8月3日）
- 8月26日 ・無料乳がん検診
- 10月12日 ・フォーラム「医療の改善活動」全国大会発表（～10月13日）
- 10月18日 ・下期進発式、日生医学賞・医学奨励賞表彰式、永年勤続表彰
- 11月12日 ・いい皮膚の日
- 11月14日 ・花乃井中学校からの職場体験学習（～11月15日）
- 11月15日 ・糖尿病フェア（～11月16日）
- 11月20日 ・ボウリング大会（11月20日、11月29日）
- 11月28日 ・篤志解剖者慰霊祭
- 12月20日 ・クリスマス・ミニコンサート

平成25年

- 1月 4日 ・新年互礼会
- 2月15日 ・専門・認定看護師実践報告会
- 2月27日 ・研修医発表会（2月27日、3月5日）
- 3月 2日 ・看護研究発表会
- 3月22日 ・臨時評議員会、定時理事会（平成25年度事業計画・予算）
- 3月28日 ・低侵襲医療フェア

糖尿病教室

火～金曜日

母乳外来

毎週／木曜日

マタニティービクス

アフタービクス

毎週／火曜日・木曜日

ベビービクス

マタニティーヨガ

両親学級

毎週／土曜日

大阪乾癬患者友の会「梯の会」 学習会・定例総会勉強会 年／2回

患者懇談会 年／3回

会報発行 年／4回

幹事会 毎月

糖尿病患者友の会「錦会」

総会 年／1回

患者懇談会 随時

公益財団法人 日本生命済生会付属

日 生 病 院 年 報

公第1巻（通算第12巻） 平成25年10月発行

編 集 公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院 年報WG

発 行 公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院

住 所 〒550-0012 大阪市西区立売堀6丁目3番8号

T E L 06 (6543) 3581（代表）

<http://www.nissay-hp.or.jp>

